

工事番号															
(様式－１)															
市長		副市長		部長		課長		係長		係員		検算		担当	
令和 8 年度 市道豊科 1 級26号線管路延伸ほか工事 閲覧設計書															
安曇野市豊科															
設 計 大 要								施 工 方 法				請 負			
管路施設工事 管 路 施 設 工 事 管 路 布 設 工 事 管 路 布 設 工 事 管 路 撤 去 工 事 管 路 撤 去 工 事 人 孔 設 置 工 事 付 帯 工 Σ L=254.0m PRP Φ200mm L= 214.5m PE Φ100mm L= 39.5m VU Φ200mm L= 36.2m HIVP Φ100mm L= 33.3m 1号マンホール(組立式) 9 個所 小口径マンホール(塩ビ) 1 個所 1 式								施 工 期 間				207 日間			
								起工予定年月日				令和 年 月 日			
								竣工予定年月日				令和 年 月 日			
								契約保証方法				金銭的保証			
								・別途指定する建設機械については排出ガス対策型の使用を原則とする。 ・この設計書で施工機械・仮設材の規格、調査条件等の記載及び「人、h、L、%、日、時、工数、空m3、掛m2、日・回、日回、供用日、月」の単位により見積りのための参考数量を示したものは任意扱いです。したがって、内訳書の作成や契約を拘束するものではありません。ただし、指定した場合を除きます。							

総括情報表

事務所名 変更回数 適用単価区分 単価適用地区 実施設計単価表等の適用日	61 市町村設計積算 0 1 実施単価 50 1 1 中信（2） 08.06.01			
	当 世 代	前 世 代		
前払率（%） 消費税率（%） 工種 施工地域区分(共通仮設) 施工地域区分(現場管理) 現場環境改善費率計上分 契約保証方法 緊急工事区分 時間的制約 豪雪割増 週休2日補正 冬期補正（現管） 点在工事等区分	40 10 % 31 下水道(2) 06 一般交通影響有り(2)-2 06 一般交通影響有り(2)-2 02 上記以外 01 金銭的保証 00 補正なし 00 時間的制約無し 02 豪雪割増無し 09 週単位（土日） 394 02 附帯工事費等			

(工事費内訳書)

本工事費（市単分）

頁 -0003

費目・工種・種別・細別・施工名称など		数	量	単	位	単	価	金	額	備	考
本工事費（市単分）											
管路											
管きょ工（開削）											
管路土工											
管路掘削											
		1			式					工種	第0001号表
管路埋戻											
		1			式					工種	第0002号表
発生土処理											
		1			式					工種	第0003号表
管布設工											
リブ付硬質塩化ビニル管（市単分） 呼び径200mm											
		166			m					科目	第0001号表

本工事費（市単分）

費目・工種・種別・細別・施工名称など	数	量	単 位	単 価	金 額	備 考
管基礎工						
砕石基礎（リブ市単分） 呼び径200mm						
	166	m				科目 第0004号表
管路土留工						
建込簡易土留工 リブ付硬質塩ビ管（市単分）						
	172	m				科目 第0007号表
マンホール工						
組立マンホール工						
組立1号マンホール（市単分）						
	6	箇所				科目 第0010号表
取付管およびます工						
取付管布設工						

(工事費内訳書)

本工事費（市単分）

頁 -0005

費目・工種・種別・細別・施工名称など	数	量	単	位	単	価	金	額	備	考
取付管（市単分）										
	1		箇所						科目	第0013号表
付帯工										
舗装撤去工										
舗装版取壊工										
	1		式						工種	第0004号表
舗装復旧工										
舗装工										
	1		式						工種	第0005号表
直接工事費										
運搬費										
仮設材等の運搬 製品長1 2m以内 運搬距離2. 2 km（×往復）										
	10		t						施工	第0 -0046号表

(工事費内訳書)

本工事費（市単分）

費目・工種・種別・細別・施工名称など	数	量	単	位	単	価	金	額	備	考
仮設材等の積込み，取卸し費 積込み，取卸し（往復分）									施工 第0 -0047号表	
	10		t							
技術管理費										
本管テレビカメラ調査工									施工 第0 -0048号表	
	166		m							
現場環境改善費（率分）										
率 0.0121										
共通仮設費率計算額										
補正無の率 0.1276										
				補正後の率 0.1562						
共通仮設費計										
純工事費										

(工事費内訳書)

本工事費（市単分）

費目・工種・種別・細別・施工名称など	数	量	単 位	単 価	金 額	備 考
現場管理費 補正無の率 0.3679						
			補正後の率	0.4217		
工事原価						
一般管理費等 補正無の率 0.2193						
			前払率補正	1.0000		
			契約保証補正	0.0004		
工事価格						
消費税等相当額 率 0.1000						
工事費						

工 種 明 細 表

工種 第0001号表

工 種 ・ 施 工 名 称 など		数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
機械掘削工 (バックホウ) クローラ型山積0.28m3 (平積0.2m3)						施工 第0 -0034号表
		320	m 3			
*** 単位当り ***						
		1	式			

管路埋戻

工種明細表

工種 第0002号表

頁0-0009

[illegible]

発生土処理

工種明細表

工種 第0003号表

頁0-0010

[illegible]

工 種 明 細 表

工種 第0004号表

工 種 ・ 施 工 名 称 など	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
舗装版切断 アスファルト舗装版 15cm以下					
	7	m			施工 第0 -0040号表
舗装版破碎 アスファルト舗装版 障害等なし					
	4	m2			施工 第0 -0041号表
搬運搬 舗装版破碎 DID区間なし 11.5km以下 機械積込(騒音対策不要、舗装版厚15cm以下) 現場～共和リテック9.1km					
	0.1	m3			施工 第0 -0042号表
処分費等					
アスファルト廃材処理費 アスファルト掘削廃材 共和リテック(株)					
	0.2	t			
*** 単位当り ***					
	1	式			

鋪装工

工種明細表

工種 第0005号表

頁0-0012

工 種 ・ 施 工 名 称 など	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
表層（車道・路肩部） 1.4m未満(1層当り平均仕上り厚50mm以下) 平均仕上り厚40mm					施工 第0 -0043号表
	4	m ²			
上層路盤（車道・路肩部） 粒度調整碎石 全仕上り厚100mm					施工 第0 -0044号表
	4	m ²			
下層路盤（車道・路肩部） 全仕上り厚200mm 1層施工					施工 第0 -0045号表
	4	m ²			
*** 単位当り ***					
	1	式			

(工事費内訳書)

附帯工事費（補償分）

頁 -0013

費目・工種・種別・細別・施工名称など		数	量	単	位	単	価	金	額	備	考
附帯工事費（補償分）											
管路											
管きょ工（開削）											
管路土工											
管路掘削											
		1			式					工種	第0006号表
管路埋戻											
		1			式					工種	第0007号表
発生土処理											
		1			式					工種	第0008号表
管布設工											
リブ付硬質塩化ビニル管（補償分） 呼び径200mm											
		40			m					科目	第0002号表

附帯工事費（補償分）

費目・工種・種別・細別・施工名称など	数	量	単	位	単	価	金	額	備	考
ポリエチレン管（補償分） 呼び径100mm										
	40		m						科目	第0003号表
廃プラスチック運搬										
機械積込 DID区間なし 14.4km以下	1		m	3					施工	第0 -0058号表
処分費等										
プラスチック廃材処理費										
G・フレンドリー	360		k	g						
管基礎工										
砕石基礎（リブ補償分） 呼び径200mm										
	40		m						科目	第0005号表
砂基礎（ポリ補償分） 呼び径100mm										
	40		m						科目	第0006号表
管路土留工										
建込簡易土留工 リブ付硬質塩ビ管（補償分）										
	43		m						科目	第0008号表

附帯工事費（補償分）

費目・工種・種別・細別・施工名称など	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
建込簡易土留工 塩ビ管撤去（補償分）					科目 第0009号表
	36	m			
マンホール工					
組立マンホール工					
組立1号マンホール（補償分）					科目 第0011号表
	3	箇所			
搬運搬 コンクリート(無筋)構造物とりこわし 機械積込 DID区間なし 10.9km以下					施工 第0 -0059号表
	0.2	m3			
搬運搬 コンクリート(鉄筋)構造物とりこわし 機械積込 DID区間なし 10.9km以下					施工 第0 -0060号表
	1	m3			
処分費等					
コンクリート廃材処理費 コンクリート無筋					
共和リテック(株)	0.5	t			
コンクリート廃材処理費 二次製品					
共和リテック(株)	3	t			

(工事費内訳書)

附帯工事費（補償分）

頁 -0016

費目・工種・種別・細別・施工名称など ※すべての諸経費の対象額に含めない※	数	量	単 位	単 価	金 額	備 考
スクラップ 配合 可鍛コロ（旧配合くずA）						
	0.17	t				
小型マンホール工						
小型マンホール（塩化ビニル製）（補償分）						
	1	箇所				科目 第0012号表
付帯工						
舗装撤去工						
舗装版取壊工						
	1	式				工種 第0009号表
舗装復旧工						
舗装工						
	1	式				工種 第0010号表

附帯工事費（補償分）

費目・工種・種別・細別・施工名称など	数	量	単 位	単 価	金 額	備 考
仮設工						
安全費						
安全費						
	1		式			工種 第0011号表
仮設費						
汚水切り回し工						
	1		式			工種 第0012号表
直接工事費						
運搬費						
仮設材等の運搬 製品長1 2m以内 運搬距離2. 2 km (×往復)						
	5		t			施工 第0 -0046号表
仮設材等の積込み、取卸し費 積込み、取卸し (往復分)						
	5		t			施工 第0 -0047号表

*****附帶工事費（補償分）*****

費目・工種・種別・細別・施工名称など	数	量	単 位	単 価	金 額	備 考
技術管理費						
本管テレビカメラ調査工						
	40	m				施工 第0 -0048号表
＊＊現場環境改善費（率分）＊＊						
率 0.0121						
＊＊共通仮設費率計算額＊＊						
補正無の率 0.1276			補正後の率 0.1562			
＊＊共通仮設費計＊＊						
＊＊純工事費＊＊						
＊＊現場管理費＊＊						
補正無の率 0.3679			補正後の率 0.4217			

(工事費内訳書)

附帯工事費（補償分）

頁 -0019

費目・工種・種別・細別・施工名称など	数	量	単 位	単 価	金 額	備 考
工事原価						
一般管理費等						
補正無の率 0.2193			前払率補正 1.0000			
			契約保証補正 0.0004			
工事価格						
消費税等相当額						
率 0.1000						
工事費						
工事価格計						
消費税等相当額計						
率 0.1000						
工事費計						
(参考) 直接工事費のうち労務費						

(工事費内訳書)

*****附帶工事費（補償分）*****

費目・工種・種別・細別・施工名称など		数	量	単 位	単 価	金 額	備 考
(参考) 直接工事費のうち材料費							
(参考) 現場管理費のうち法定福利費	率 0.0438						
(参考) 現場管理費のうち建退協制度の掛金							
(参考) 工事原価のうち安全衛生費用							

発生土処理

工種明細表

工種 第0008号表

頁0-0023

[illegible]

工 種 明 細 表

工種 第0009号表

工 種 ・ 施 工 名 称 など	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
舗装版切断 アスファルト舗装版 15cm以下					施工 第0 -0040号表
	110	m			
舗装版破碎 アスファルト舗装版 障害等なし					施工 第0 -0041号表
	61	m2			
穀運搬 舗装版破碎 DID区間なし 11.5km以下 機械積込(騒音対策不要、舗装版厚15cm以下) 現場～共和リテック9.1km					施工 第0 -0042号表
	3	m3			
処分費等					
アスファルト廃材処理費 アスファルト掘削廃材 共和リテック(株)					
	6	t			
*** 単位当り ***					
	1	式			

安全費

工種明細表

工種 第0011号表

頁0-0026

[illegible]

工 種 明 細 表

工種 第0012号表

工 種 ・ 施 工 名 称 など		数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
汚水切り回し工						施工 第0 -0062号表
		1	式			
*** 単位当り ***						
		1	式			

リブ付硬質塩化ビニル管（市単分）

科目内訳表

科目 第0001号表

呼び径200mm		166		m			
施 工 名 称 など		数	量	単 位	単 価	金 額	備 考
	リブ付硬質塩化ビニル管設置工						施工 第0 -0001号表
		166	m				
可とう継手 リブ付管用 φ200mm							
	刊行物単価	12	個				
埋設シート 幅400mm ダブル 茶色							
	刊行物単価	166	m				
管明示テープ 幅30mm 茶色							
	調査単価	166	m				
*** 合 計 ***							
	166	m					
*** 単位当り ***							
	1	m					

リブ付硬質塩化ビニル管（補償分）

科目内訳表

科目 第0002号表

呼び径200mm		40		m			
施 工 名 称 など		数	量	単 位	単 価	金 額	備 考
リブ付硬質塩化ビニル管設置工							施工 第0 -0001号表
		40		m			
可とう継手 リブ付管用 φ200mm							
	刊行物単価	5		個			
リブ受口ーVU差し口変換継手 呼び径200mm							
	調査単価	1		個			
埋設シート 幅400mm ダブル 茶色							
	刊行物単価	40		m			
管明示テープ 幅30mm 茶色							
	調査単価	40		m			
*** 合 計 ***							
		40		m			
*** 単位当り ***							
		1		m			

ポリエチレン管（補償分）

科目内訳表

科目 第0003号表

頁0-0030

呼び径100mm

40

m

施 工 名 称 な ど	数	量	単 位	単 価	金 額	備 考
下水道用ポリエチレン 片受直管 PE-SE 100 外径125mm 厚9.2mm 長5.0m						
刊行物単価	7		本			
下水道用ポリエチレン管 曲管45° PE-45BS 100						
刊行物単価	1		個			
下水道用ポリエチレン管 曲管22 1/2° PE-22BS 100						
刊行物単価	3		個			
下水道用ポリエチレン管 曲管11 1/4° PE-11BS 100						
刊行物単価	4		個			
下水道用ポリエチレン管 S字曲管 H=450 PE-LBS 100						
刊行物単価	2		個			
下水道用ポリエチレン管 カネ(ソケット) PE-D 100						
刊行物単価	3		個			
PVジョイント φ100						
刊行物単価	2		個			
埋設シート 幅400mm ダブル 茶色						
刊行物単価	40		m			
管明示テープ 幅30mm 茶色						
調査単価	40		m			

ポリエチレン管（補償分）

科目内訳表

科目 第0003号表

頁0-0031

呼び径100mm

40

m

施工名称など	数	量	単位	単価	金額	備考
ポリエチレン管(融着接合)布設工 呼び径100mm						
	40		m			施工 第0 -0002号表
ポリエチレン管(融着接合)継手工 呼び径100mm 1口継手						
	17		箇所			施工 第0 -0003号表
ポリエチレン管(融着接合)継手工 呼び径100mm 2口継手						
	3		箇所			施工 第0 -0004号表
ポリエチレン管(メカニカル)継手工 呼び径100mm						
	4		口			施工 第0 -0005号表
ポリエチレン管切断工 φ100mm						
	7		口			施工 第0 -0006号表
*** 合 計 ***						
	40		m			
*** 単位当り ***						
	1		m			

砕石基礎（リブ市単分）

科目内訳表

科目 第0004号表

呼び径200mm		166					m
施工名称など		数量	単位	単価	金額	備	考
砕石基礎工						施工 第0 -0007号表	
		60	m 3				
再生クラッシャーラン 40mm以下							
		70	m 3				
*** 合計 ***							
		166	m				
*** 単位当り ***							
		1	m				

碎石基礎（リブ補償分）

科目内訳表

科目 第0005号表

頁0-0033

呼び径200mm		40		m	
施 工 名 称 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
碎石基礎工					施工 第0 -0007号表
	20	m 3			
再生クラッシャーラン 4 0 mm以下					
	20	m 3			
*** 合 計 ***					
	40	m			
*** 単位当り ***					
	1	m			

砂基礎（ポリ補償分）

科目内訳表

科目 第0006号表

呼び径100mm		40		m		
施 工 名 称 など		数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
砂基礎工						施工 第0 -0008号表
		7	m 3			
洗滌砂						
		9	m 3			
*** 合 計 ***						
		40	m			
*** 単位当り ***						
		1	m			

建込簡易土留工

科目内訳表

科目 第0007号表

頁0-0035

リブ付硬質塩ビ管（市単分）

172 m

施 工 名 称 など	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
たて込み簡易土留（建込工） ｸｰﾗ型 山積0.28m3（平積0.2m3）					
	129	m			施工 第0 -0009号表
たて込み簡易土留（引抜工）					
	129	m			施工 第0 -0011号表
たて込み簡易土留機材質料 供用日数分 深さ2.0m掘削幅3.0m未満					
	1	式			施工 第0 -0012号表
たて込み簡易土留（建込工） ｸｰﾗ型 山積0.28m3（平積0.2m3）					
	43	m			施工 第0 -0013号表
たて込み簡易土留（引抜工）					
	43	m			施工 第0 -0014号表
たて込み簡易土留機材質料 供用日数分 深さ2.5m掘削幅3.0m未満					
	1	式			施工 第0 -0015号表
たて込み簡易土留機材質料 修理費及び損耗費分 深さ2.5m掘削幅3.0m未満					
	1	式			施工 第0 -0016号表
*** 合 計 ***					
	172	m			
*** 単位当り ***					
	1	m			

建込簡易土留工

科目内訳表

科目 第0008号表

リブ付硬質塩ビ管（補償分）

43 m

施 工 名 称 など	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
たて込み簡易土留（建込工） 加へラ型 山積0.28m3（平積0.2m3）					
	43	m			施工 第0 -0017号表
たて込み簡易土留（引抜工）					
	43	m			施工 第0 -0018号表
たて込み簡易土留機材賃料 供用日数分 深さ2.5 m掘削幅3.0 m未満					
	1	式			施工 第0 -0019号表
たて込み簡易土留機材賃料 修理費及び損耗費分 深さ2.5 m掘削幅3.0 m未満					
	1	式			施工 第0 -0020号表
*** 合 計 ***					
	43	m			
*** 単位当り ***					
	1	m			

建込簡易土留工

科目内訳表

科目 第0009号表

頁0-0037

塩ビ管撤去（補償分）

36 m

施 工 名 称 など	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
たて込み簡易土留（建込工） ｸｰﾗ型 山積0.28m3（平積0.2m3）					
	25	m			施工 第0 -0021号表
たて込み簡易土留（引抜工）					
	25	m			施工 第0 -0022号表
たて込み簡易土留機材賃料 供用日数分 深さ2.0m掘削幅3.0m未満					
	1	式			施工 第0 -0023号表
たて込み簡易土留（建込工） ｸｰﾗ型 山積0.28m3（平積0.2m3）					
	11	m			施工 第0 -0024号表
たて込み簡易土留（引抜工）					
	11	m			施工 第0 -0025号表
たて込み簡易土留機材賃料 供用日数分 深さ2.5m掘削幅3.0m未満					
	1	式			施工 第0 -0026号表
*** 合 計 ***					
	36	m			
*** 単位当り ***					
	1	m			

組立1号マンホール（市単分）

科目内訳表

科目 第0010号表

施工名称など		数量	単位	単価	金額	備	箇所考
安曇野市型マンホール鉄蓋（T-25） 径600mm 不法投棄防止 除雪対応型	調査単価	6	組				
転落防止梯子	刊行物単価	6	個				
1号マンホール 底版 外径1100mm有効高 130mm		6	個				
底部工(組立式) 1号		6	箇所				施工 第0 -0027号表
1号マンホール く体ブロック 内径900mm 有効高1800mm		6	個				
1号マンホール 斜壁 上径600下径900高450		3	個				
1号マンホール 斜壁 上径600下径900高600		3	個				
マンホール 調整リング 径600mm 有効高100mm		7	個				
マンホール 調整リング 径600mm 有効高150mm		1	個				

組立1号マンホール（市単分）

科目内訳表

科目 第0010号表

施工名称など		数量	単位	単価	金額	備	箇所考
マンホール調整金具 調整高25mmまで							
		3	組				
マンホール調整金具 調整高45mmまで							
		3	組				
削孔代 0号、1号 VU管用 φ200mm用							
		5	箇所				
組立マンホール工 1号(内径900mm) 3m以下							
		6	箇所				施工 第0 -0031号表
*** 合計 ***							
		6	箇所				
*** 単位当り ***							
		1	箇所				

組立1号マンホール（補償分）

科目内訳表

科目 第0011号表

頁0-0040

施 工 名 称 など		数	量	単 位	単 価	金 額	備 考
安曇野市型マンホール鉄蓋（T-25） 径600mm 不法投棄防止 除雪対応型	調査単価	3	組				
転落防止梯子	刊行物単価	3	個				
1号マンホール 底版 外径1100mm有効高 130mm		3	個				
底部工(組立式) 1号		3	箇所				施工 第0 -0027号表
1号マンホール く体ブロック 内径900mm 有効高1800mm		3	個				
1号マンホール 斜壁 上径600下径900高300		1	個				
1号マンホール 斜壁 上径600下径900高450		2	個				
マンホール 調整リング 径600mm 有効高100mm		3	個				
マンホール 調整リング 径600mm 有効高150mm		1	個				

組立1号マンホール（補償分）

科目内訳表

科目 第0011号表

施工名称など		数量	単位	単価	金額	備	箇所考
マンホール調整金具 調整高25mmまで							
		2	組				
マンホール調整金具 調整高45mmまで							
		1	組				
削孔代 0号、1号 VU管用 φ200mm用							
		3	箇所				
組立マンホール工 1号(内径900mm) 3m以下							
		3	箇所				施工 第0 -0031号表
*** 合計 ***							
		3	箇所				
*** 単位当り ***							
		1	箇所				

科目内訳表

科目 第0012号表

頁0-0042

1

箇所 考

[illegible]

取付管（市単分）

科目内訳表

科目 第0013号表

頁0-0043

1

箇所 考

[illegible]

リブ付硬質塩化ビニル管設置工

頁0-0044

施工 第0 -0001号表

1 m 当り

[illegible]

施工内訳表

頁0-0045

ポリエチレン管(融着接合)布設工
呼び径100mm

施工 第0 -0002号表

10 m 当り

[illegible]

施工内訳表

頁0-0046

ポリエチレン管(融着接合)継手工
呼び径100mm 1口継手

施工 第0 -0003号表

1 箇所 当り

[illegible]

施工内訳表

頁0-0047

ポリエチレン管(融着接合)継手工
呼び径100mm 2口継手

施工 第0 -0004号表

1 箇所 当り

[illegible]

施工内訳表

頁0-0048

ポリエチレン管(メカニカル)継手工
呼び径100mm

施工 第0 -0005号表

1 口 当り

[illegible]

施工内訳表

頁0-0049

ポリエチレン管切断工

φ 100mm

施工 第0 -0006号表

1

口 当り

[illegible]

碎石基礎工

施工内訳表

施工 第0 -0007号表

頁0-0050

1 m3 当り

[illegible]

砂基礎工

施工内訳表

施工 第0 -0008号表

頁0-0051

1 m3 当り

[illegible]

施 工 内 訳 表

頁0-0052

たて込み簡易土留（建込工）
 クローラ型 山積0.28m3（平積0.2m3）

施工 第0 -0009号表

10 m 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
バックホウ運転（機－1） クローラ型・標準 山積0. 2 8m3 排出ガス対策型2次基準	1.100	時間			施工 第0-0010号表
土木一般世話役	0.200	人			
特殊作業員	0.200	人			
普通作業員	0.400	人			
諸雑費	1	式			
*** 合 計 ***	10	m			
*** 単位当り ***	1	m			
土の状態〔作業効率E〕：地山 バックホウ規格： クローラ型 山積0.28m3（平積0.2m3） 豪雪割増：豪雪割増 工種条件と同じ			掘削深（m）：1.95 バックホウ機種：排出ガス対策型2次基準		

施工内訳表

頁0-0053

バックホウ運転 (機-1)
クローラ型・標準 山積0.28m³

排出ガス対策型2次基準

施工 第0 -0010号表

1 時間 当り

[illegible]

たて込み簡易土留（引抜工）

施工内訳表

施工 第0 -0011号表

10 m 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
土木一般世話役	0.120	人			
特殊作業員	0.120	人			
普通作業員	0.230	人			
トラッククレーン〔油圧伸縮ジブ型〕賃料 4. 9 t 吊（燃料油脂費含む）	0.120	日			
諸雑費	1	式			
*** 合 計 ***	10	m			
*** 単位当り ***	1	m			
掘削深（m）：1.95					

たて込み簡易土留機材質料 供用日数分

頁0-0055

施工 第0 -0012号表

1 式 当り

[illegible]

施 工 内 訳 表

頁0-0056

たて込み簡易土留（建込工）
 クローラ型 山積0.28m3（平積0.2m3）

施工 第0 -0013号表

10 m 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
バックホウ運転（機－1） クローラ型・標準 山積0. 2 8m3 排出ガス対策型2次基準	1.100	時間			施工 第0-0010号表
土木一般世話役	0.200	人			
特殊作業員	0.200	人			
普通作業員	0.400	人			
諸雑費	1	式			
*** 合 計 ***	10	m			
*** 単位当り ***	1	m			
土の状態〔作業効率E〕：地山 バックホウ規格： クローラ型 山積0.28m3（平積0.2m3） 豪雪割増：豪雪割増 工種条件と同じ			掘削深（m）：1.97 バックホウ機種：排出ガス対策型2次基準		

施工内訳表

施工 第0 -0014号表

10 m 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
土木一般世話役	0.120	人			
特殊作業員	0.120	人			
普通作業員	0.230	人			
トラッククレーン〔油圧伸縮ジブ型〕賃料 4. 9 t 吊（燃料油脂費含む）	0.120	日			
諸雑費	1	式			
*** 合 計 ***	10	m			
*** 単位当り ***	1	m			
掘削深（m）：1.97					

たて込み簡易土留機材質料 供用日数分

頁0-0058

施工 第0 -0015号表

1 式 当り

深さ2.5m掘削幅3.0m未満

[illegible]

たて込み簡易土留機材質料 修理費及び損耗費分

頁0-0059

施工 第0 -0016号表

1 式 当り

深さ2.5 m掘削幅3.0 m未満

[illegible]

施 工 内 訳 表

頁0-0060

たて込み簡易土留（建込工）

施工 第0 -0017号表

ｸﾛｰﾗ型 山積0.28m3（平積0.2m3）

10 m 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
バックホウ運転（機－1） ｸﾛｰﾗ型・標準 山積0. 2 8m3 排出ガス対策型2次基準	1.300	時間			施工 第0-0010号表
土木一般世話役	0.230	人			
特殊作業員	0.230	人			
普通作業員	0.470	人			
諸雑費	1	式			
*** 合 計 ***	10	m			
*** 単位当り ***	1	m			
土の状態〔作業効率E〕：地山 バックホウ規格： ｸﾛｰﾗ型 山積0.28m3（平積0.2m3） 豪雪割増：豪雪割増 工種条件と同じ			掘削深（m）：2.4 バックホウ機種：排出ガス対策型2次基準		

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
土木一般世話役	0.140	人			
特殊作業員	0.140	人			
普通作業員	0.270	人			
トラッククレーン〔油圧伸縮ジブ型〕賃料 4. 9 t 吊（燃料油脂費含む）	0.140	日			
諸雑費	1	式			
*** 合 計 ***	10	m			
*** 単位当り ***	1	m			
掘削深（m）：2.4					

たて込み簡易土留機材質料 供用日数分

頁0-0062

施工 第0 -0019号表

1 式 当り

[illegible]

施工内訳表

頁0-0063

たて込み簡易土留機材質料
修理費及び損耗費分

施工 第0 -0020号表

1 式 当り

深さ2.5m掘削幅3.0m未満

[illegible]

施 工 内 訳 表

頁0-0064

たて込み簡易土留（建込工）

施工 第0 -0021号表

ｸﾏﾗ型 山積0.28m3（平積0.2m3）

10 m 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
バックホウ運転（機－1） ｸﾏﾗ型・標準 山積0. 2 8m3 排出ガス対策型2次基準	1.100	時間			施工 第0-0010号表
土木一般世話役	0.200	人			
特殊作業員	0.200	人			
普通作業員	0.400	人			
諸雑費	1	式			
*** 合 計 ***	10	m			
*** 単位当り ***	1	m			
土の状態〔作業効率E〕：地山 バックホウ規格： ｸﾏﾗ型 山積0.28m3（平積0.2m3） 豪雪割増：豪雪割増 工種条件と同じ			掘削深（m）：1.94 バックホウ機種：排出ガス対策型2次基準		

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
土木一般世話役	0.120	人			
特殊作業員	0.120	人			
普通作業員	0.230	人			
トラッククレーン〔油圧伸縮ジブ型〕賃料 4. 9 t 吊（燃料油脂費含む）	0.120	日			
諸雑費	1	式			
*** 合 計 ***	10	m			
*** 単位当り ***	1	m			
掘削深（m）：1.94					

施工内訳表

頁0-0066

たて込み簡易土留機材賃料

分日数用供

深さ2.0m掘削幅3.0m未満

施工 第0 -0023号表

1

式 当り

[illegible]

施 工 内 訳 表

頁0-0067

たて込み簡易土留（建込工）
 クローラ型 山積0.28m3（平積0.2m3）

施工 第0 -0024号表

10 m 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
バックホウ運転（機－1） クローラ型・標準 山積0. 2 8m3 排出ガス対策型2次基準	1.300	時間			施工 第0-0010号表
土木一般世話役	0.230	人			
特殊作業員	0.230	人			
普通作業員	0.470	人			
諸雑費	1	式			
*** 合 計 ***	10	m			
*** 単位当り ***	1	m			
土の状態〔作業効率E〕：地山 バックホウ規格： クローラ型 山積0.28m3（平積0.2m3） 豪雪割増：豪雪割増 工種条件と同じ			掘削深（m）：2.2 バックホウ機種：排出ガス対策型2次基準		

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
土木一般世話役	0.140	人			
特殊作業員	0.140	人			
普通作業員	0.270	人			
トラッククレーン〔油圧伸縮ジブ型〕賃料 4. 9 t 吊（燃料油脂費含む）	0.140	日			
諸雑費	1	式			
*** 合 計 ***	10	m			
*** 単位当り ***	1	m			
掘削深（m）：2.2					

施工内訳表

頁0-0069

たて込み簡易土留機材賃料

供用日数分

深さ2.5 m掘削幅3.0 m未満

施工 第0 -0026号表

式

当り

[illegible]

施工 第0 -0027号表

頁0-0070

底部工(組立式)

1号

1

箇所 当り

[illegible]

施 工 内 訳 表

頁0-0071

コンクリート 小型構造物

一般養生 小型車割増なし

機械構成比： 0.00% 労務構成比：

夜間割増なし 豪雪割増 工種条件と同じ

41.15% 材料構成比： 58.85%

人力打設

市場単価構成比： 0.00%

施工 第0 -0028号表

1
標準単価：

m3 当り

代 表 機 労 材 規 格	構成比	単 位	単 価	代 表 機 労 材 規 格(東京地区)	単価(東京地区)	備 考
普通作業員	22.25%	人		普通作業員		
土木一般世話役	9.19%	人		土木一般世話役		
特殊作業員	7.69%	人		特殊作業員		
生コン 18-8-40-BB (W/C=60%以下)	58.85%	m3		生コンクリート 24-12-25 高炉 W/C55%		
積算単価		式		積算単価		
*** 単位当り ***						

施工内訳表

頁0-0072

コンクリート 小型構造物

一般養生 小型車割増なし

夜間割増なし 豪雪割増 工種条件と同じ

人力打設

施工 第0 -0028号表

1

m 3 当り

機械構成比： 0.00%

勞務構成比：

41.15%

材料構成比： 58.85%

市場単価構成比： 0.00%

標準単価：

[illegible]

モルタル上塗り(マンホール用)

頁0-0073

施工 第0 -0029号表

配合 1 : 3

上塗モルタル厚 20mm

1 m2 当り

[illegible]

施 工 内 訳 表

頁0-0074

モルタル練

セメント(普通ポルトランド)ガラ

機械構成比： 0.00%

労務構成比： 82.04%

材料構成比： 17.96%

市場単価構成比： 0.00%

施工 第0 -0030号表

標準単価： 1

m3 当り

代 表 機 労 材 規 格	構成比	単 位	単 価	代 表 機 労 材 規 格(東京地区)	単価(東京地区)	備 考
普通作業員	54.42%	人		普通作業員		
土木一般世話役	27.46%	人		土木一般世話役		
セメント (普通ポルトランド) ガラ	12.48%	t		セメント (高炉B) 2 5 k g 袋入		
コンクリート用骨材 砂 細目 (洗い)	5.48%	m 3		コンクリート用骨材 砂 細目 (洗い)		
積算単価		式		積算単価		
*** 単位当り ***						

施工内訳表

頁0-0075

モルタル練

セメント(普通ポルトランド)ガラ

機械構成比： 0.00%

勞務構成比： 82.04%

材料構成比： 17.96%

市場単価構成比： 0.00%

1
標準単価：

m 3 当り

施工 第0 -0030号表

[illegible]

施工内訳表

頁0-0076

組立マンホール工

1号(内径900mm)

3 m以下

施工 第0 -0031号表

箇所 当り

[illegible]

施 工 内 訳 表

頁0-0077

小型マンホール工（塩化ビニル製）

施工 第0 -0032号表

径300mm 起点及び中間形式

2 m超え～3. 5 m以下1 5 0 mmおよび2

1

箇所 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
小型マンホール工（塩化ビニル製φ300） 深2 m超～3. 5 m 本管径1 5 0・2 0 0	1.000	箇所			
小型マンホール工 鋳鉄製防護蓋設置費 手間のみ	1.000	箇所			
鋳鉄製防護蓋材料費	1.000	箇所			
諸雑費	1	式			
*** 単位当り ***	1	箇所			
マンホール規格：径300mm 起点及び中間形式 本管径：1 5 0 mmおよび2 0 0 mm 時間的制約の有無（D＝1 のとき）：《条件不要》 鋳鉄製防護蓋設置手間：防護蓋設置手間計上する 起点落差形式設置の有無：起点落差形式設置なし			マンホール深さ：2 m超え～3. 5 m以下 施工規模：5 箇所未満 夜間作業の有無：夜間作業（2 0 時～6 時）なし 鋳鉄製防護蓋単価（円／箇所） なし＝0：		

施工 第0 -0033号表

頁0-0078

1 箇所 当り

[illegible]

施工 第0 -0034号表

頁0-0079

100

m 3

当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
土木一般世話役	1.900	人			
普通作業員	5.000	人			
バックホウ運転 (機-1) クローラ型・標準 山積0.28m3 排出ガス対策型2次基準	11.100	時間			施工 第0-0035号表
諸雑費	1	式			
*** 合 計 ***	100	m3			
*** 単位当り ***	1	m3			
バックホウ規格： クローラ型山積0.28m3 (平積0.2m3) 豪雪割増：豪雪割増 工種条件と同じ			バックホウ機種：	排出ガス対策型2次基準	

施工内訳表

頁0-0080

バックホウ運転 (機-1)
クローラ型・標準 山積0.28m³

排出ガス対策型 2 次基準

施工 第0 -0035号表

1 時間 当り

[illegible]

機械投入埋戻工 BH山積0.28m3（平積0.2）
礫質土

施 工 内 訳 表

施工 第0 -0036号表

頁0-0081

100 m3 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
土木一般世話役	2.500	人			
普通作業員	3.800	人			
埋戻土	133.000	m 3			
バックホウ運転（機－１） クローラ型・標準 山積0. 2 8 m 3 排出ガス対策型２次基準	7.600	時間			施工 第0-0035号表
タンパ締固め	100.000	m 3			施工 第0-0037号表
諸雑費	1	式			
*** 合 計 ***	100	m 3			
*** 単位当り ***	1	m 3			
バックホウ規格：バックホウ投入 山積0.28m3（平積0.2m3） 土質区分：レキ質土 バックホウ機種：排出ガス対策型２次基準			埋戻土単価（円／m3）： 土量の変化率：ほぐした土量／締固め後の土量（L／C） 豪雪割増（バックホウ）：豪雪割増 工種条件と同じ		

タンパ締固め

施 工 内 訳 表

施工 第0 -0037号表

頁0-0082

機械構成比： 1.17% 労務構成比： 97.16% 材料構成比： 1.67% 市場単価構成比： 0.00% 標準単価： 1 m3 当り

代 表 機 労 材 規 格	構成比	単 位	単 価	代 表 機 労 材 規 格(東京地区)	単価(東京地区)	備 考
タンパ（ランマ）賃料 質量60～80kg	1.17%	日		タンパ（ランマ）賃料		
特殊作業員	51.21%	人		特殊作業員		
普通作業員	45.95%	人		普通作業員		
ガソリン レギュラー スタンド	1.67%	L		ガソリン レギュラー スタンド		
積算単価		式		積算単価		
*** 単位当り ***						

発生土運搬工 DT 4 t 積み

運搬距離 7.3 km 良好

BH 山積0.28m3 (平積0.2m3) 積込

施工 第0 -0038号表

10

m 3

当り

[illegible]

施 工 内 訳 表

頁0-0084

ダンプトラック運転 (機-22)
オンロード・ディーゼル 4t積級

施工 第0 -0039号表

1 日 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
ダンプトラック [オンロード・ディーゼル] 4 t 積級	1.290	供用日			
運転手 (一般)	1.000	人			
軽油 小型ローリー パトロール給油	32.000	L			
タイヤ損耗費 ダンプトラック 4 t 良好	1.290	供用日			
諸雑費	1	式			
*** 単位当り ***	1	日			
規格：オンロード・ディーゼル 4 t 積級 岩石割増：岩石割増なし 豪雪割増：豪雪割増 工種条件と同じ 一般運転手 (人／日)：1 タイヤ損耗費 (供用日／日)：1.29			タイヤ損耗費区分 (運搬路面状況)：運搬路面状況 良好 供用日当運転時間：0 ダンプトラック (供用日／日)：1.29 軽油 (L／日)：32		

施 工 内 訳 表

頁0-0085

舗装版切断

アスファルト舗装版

機械構成比：

15.05%

労務構成比：

15cm以下

58.43%

材料構成比：

26.52%

市場単価構成比：

施工 第0 -0040号表

標準単価：

1 m 当り

代 表 機 労 材 規 格	構成比	単 位	単 価	代 表 機 労 材 規 格(東京地区)	単価(東京地区)	備 考
コンクリートカッタ [バキューム式・湿式] 超低騒音 切削深20cm級 B径56cm	10.24%	供用日		コンクリートカッタ [バキューム式・湿式] 超低騒音		
特殊作業員	19.96%	人		特殊作業員		
土木一般世話役	10.88%	人		土木一般世話役		
普通作業員	8.92%	人		普通作業員		
ブレード (コンクリートカッタ) 径18インチ (45cm)	22.39%	枚		ブレード (コンクリートカッタ) 径18インチ (45cm)		
ガソリン レギュラー スタンド	2.81%	L		ガソリン レギュラー スタンド		

施 工 内 訳 表

頁0-0086

施工 第0 -0040号表

1 m 当り

舗装版切断
アスファルト舗装版
機械構成比：

15.05%

労務構成比：

15cm以下
58.43%

材料構成比：

26.52%

市場単価構成比：

0.00%

標準単価：

代 表 機 労 材 規 格	構 成 比	単 位	単 価	代 表 機 労 材 規 格(東京地区)	単 価(東京地区)	備 考
積算単価		式		積算単価		
*** 単位当り ***						
舗装版種別：アスファルト舗装版 豪雪割増：豪雪割増 工種条件と同じ				アスファルト舗装版厚：15cm以下		

施 工 内 訳 表

頁0-0087

舗装版破碎
アスファルト舗装版
機械構成比：

12.85%

労務構成比：

障害等なし

81.24%

材料構成比：

5.91%

市場単価構成比：

施工 第0 -0041号表

0.00%

1
標準単価：

m2 当り

代 表 機 労 材 規 格	構成比	単 位	単 価	代 表 機 労 材 規 格(東京地区)	単価(東京地区)	備 考
バックホウ [クローラ・後方超小旋回] 賃料 ～超低・～排ガス3次 山積0.45m3	12.85%	日		バックホウ [クローラ・後方超小旋回] 賃料		
土木一般世話役	29.54%	人		土木一般世話役		
運転手 (特殊)	27.52%	人		運転手 (特殊)		
普通作業員	24.18%	人		普通作業員		
軽油 小型ローリー パトロール給油	5.91%	L		軽油 パトロール給油		
積算単価		式		積算単価		

施 工 内 訳 表

頁0-0088

舗装版破碎

アスファルト舗装版

機械構成比：

12.85%

労務構成比：

障害等なし

81.24%

材料構成比：

5.91%

市場単価構成比：

0.00%

施工 第0 -0041号表

標準単価：

1

m2

当り

代 表 機 労 材 規 格	構成比	単 位	単 価	代 表 機 労 材 規 格(東京地区)	単価(東京地区)	備 考
*** 単位当り ***						
舗装版種別：アスファルト舗装版 騒音振動対策：騒音振動対策不要 積込作業の有無：積込作業あり				障害等の有無：障害等なし 舗装版厚：15cm以下 豪雪割増：豪雪割増 工種条件と同じ		

施 工 内 訳 表

頁0-0089

殻運搬

施工 第0 -0042号表

舗装版破碎 DID区間なし 11.5km以下

機械積込(騒音対策不要、舗装版厚15cm以下)

現場～共和リテック9.1km

1

m3 当り

機械構成比： 44.05% 労務構成比：

39.87%

材料構成比： 16.08%

市場単価構成比： 0.00%

標準単価：

代 表 機 労 材 規 格	構成比	単 位	単 価	代 表 機 労 材 規 格(東京地区)	単価(東京地区)	備 考
ダンプトラック [オンロード・ディーゼル] 10 t 積級	44.05%	供用日		ダンプトラック [オンロード・ディーゼル]		
運転手 (一般)	39.87%	人		運転手 (一般)		
軽油 小型ローリー パトロール給油	16.08%	L		軽油 パトロール給油		
積算単価		式		積算単価		
*** 単位当り ***						
殻発生作業：舗装版破碎 DID区間の有無：DID区間なし 豪雪割増：豪雪割増 工種条件と同じ				積込工法区分：機械積込(騒音対策不要、舗装版厚15cm以下) 運搬距離：11.5km以下		

施 工 内 訳 表

頁0-0090

表層（車道・路肩部）

1.4m未満(1層当り平均仕上り厚50mm以下)

平均仕上り厚 4 0 mm

施工 第0 -0043号表

1 m2 当り

機械構成比： 0.43%

労務構成比： 44.34%

材料構成比： 55.23%

市場単価構成比： 0.00%

標準単価：

代 表 機 労 材 規 格	構成比	単 位	単 価	代 表 機 労 材 規 格(東京地区)	単価(東京地区)	備 考
振動ローラ（舗装用） [ハンドガイド式] 運転質量 0. 5 ～ 0. 6 t	0.24%	供用日		振動ローラ（舗装用） [ハンドガイド式]		
振動コンパクタ [前進型] 機械質量 4 0 ～ 6 0 k g	0.13%	供用日		振動コンパクタ [前進型]		
特殊作業員	19.57%	人		特殊作業員		
普通作業員	14.05%	人		普通作業員		
土木一般世話役	4.28%	人		土木一般世話役		
⑤再生アスファルト混合物 密粒度（1 3 F） [再生材 混入率50%以下]	50.52%	t		アスファルト混合物 密粒度（2 0）		

施 工 内 訳 表

頁0-0091

表層（車道・路肩部）

1.4m未満(1層当り平均仕上り厚50mm以下)

平均仕上り厚 4 0 mm

施工 第0 -0043号表

1 m2 当り

機械構成比： 0.43%

労務構成比： 44.34%

材料構成比： 55.23%

市場単価構成比： 0.00%

標準単価：

代 表 機 労 材 規 格	構成比	単 位	単 価	代 表 機 労 材 規 格(東京地区)	単価(東京地区)	備 考
アスファルト乳剤 PK-3 プライムコート用	4.48%	L		アスファルト乳剤 PK-3 プライムコート用		
ガソリン レギュラー スタンド	0.17%	L		ガソリン レギュラー スタンド		
軽油 小型ローリー パトロール給油	0.03%	L		軽油 パトロール給油		
積算単価		式		積算単価		
*** 単位当り ***						
平均幅員：1.4m未満(1層当り平均仕上り厚50mm以下) 標準締固め後密度：2.35t/m3 材料：再生 密粒度（1 3 F） アスファルト混合物小型車割増：小型車割増なし 豪雪割増：豪雪割増 工種条件と同じ				1層当り平均仕上り厚(mm)：40 瀝青材料種類：プライムコート 瀝青材料種類：プライムコート PK-3 アスファルト混合物夜間割増：夜間割増なし		

施 工 内 訳 表

頁0-0092

上層路盤（車道・路肩部）

施工 第0 -0044号表

粒度調整碎石

全仕上り厚 1 0 0 mm

1 m2 当り

機械構成比：

11.57%

労務構成比：

37.08%

材料構成比：

51.35%

市場単価構成比：

0.00%

標準単価：

代 表 機 労 材 規 格	構成比	単 位	単 価	代 表 機 労 材 規 格(東京地区)	単価(東京地区)	備 考
モータグレーダ [土工用] 排ガス 2 0 1 4 ブレード幅 3. 1 m	7.99%	供用日		モータグレーダ [土工用] 排ガス 2 0 1 4		
ロードローラ [マカダム] 賃料 ～超低・～排ガス 2 次 質量 1 0 ～ 1 2 t	1.00%	日		ロードローラ [マカダム] 賃料		
タイヤローラ賃料 質量 1 3 ～ 1 4 t	0.99%	日		タイヤローラ賃料		
運転手（特殊）	16.31%	人		運転手（特殊）		
普通作業員	5.97%	人		普通作業員		
特殊作業員	5.32%	人		特殊作業員		

施 工 内 訳 表

頁0-0093

上層路盤（車道・路肩部）

施工 第0 -0044号表

粒度調整碎石

全仕上り厚 1 0 0 mm

1

m 2 当り

機械構成比： 11.57%

労務構成比： 37.08%

材料構成比： 51.35%

市場単価構成比： 0.00%

標準単価：

代 表 機 労 材 規 格	構成比	単 位	単 価	代 表 機 労 材 規 格(東京地区)	単価(東京地区)	備 考
土木一般世話役	4.37%	人		土木一般世話役		
粒調碎石 2 5 mm以下	47.84%	m 3		再生粒度調整碎石 RM－ 4 0		
軽油 小型ローリー パトロール給油	3.03%	L		軽油 パトロール給油		
積算単価		式		積算単価		
*** 単位当り ***						
材料：粒度調整碎石 施工区分：1層施工 豪雪割増：豪雪割増 工種条件と同じ				全仕上り厚(mm)：100 材料(粒度調整碎石)：粒度調整碎石 M－ 2 5		

施 工 内 訳 表

頁0-0094

下層路盤（車道・路肩部）

全仕上り厚200mm

機械構成比： 5.72% 労務構成比：

1層施工

18.33% 材料構成比： 75.95%

市場単価構成比： 0.00%

施工 第0 -0045号表

1
標準単価：

m2 当り

代 表 機 労 材 規 格	構成比	単 位	単 価	代 表 機 労 材 規 格(東京地区)	単価(東京地区)	備 考
モータグレーダ [土工用] 排ガス2014 ブレード幅3.1m	3.95%	供用日		モータグレーダ [土工用] 排ガス2014		
ロードローラ [マカダム] 賃料 ～超低・～排ガス2次 質量10～12t	0.49%	日		ロードローラ [マカダム] 賃料		
タイヤローラ賃料 質量13～14t	0.49%	日		タイヤローラ賃料		
運転手（特殊）	8.06%	人		運転手（特殊）		
普通作業員	2.95%	人		普通作業員		
特殊作業員	2.63%	人		特殊作業員		

施 工 内 訳 表

頁0-0095

下層路盤（車道・路肩部）

全仕上り厚 2 0 0 mm

機械構成比： 5.72%

労務構成比：

1層施工

18.33%

材料構成比：

75.95%

市場単価構成比：

施工 第0 -0045号表

0.00%

1
標準単価：

m 2 当り

代 表 機 労 材 規 格	構成比	単 位	単 価	代 表 機 労 材 規 格(東京地区)	単価(東京地区)	備 考
土木一般世話役	2.16%	人		土木一般世話役		
再生クラッシャーラン 4 0 mm以下	74.21%	m 3		クラッシャーラン C - 4 0		
軽油 小型ローリー パトロール給油	1.50%	L		軽油 パトロール給油		
積算単価		式		積算単価		
*** 単位当り ***						
全仕上り厚(mm)：200 材料：再生クラッシャーラン RC - 4 0				施工区分：1層施工 豪雪割増：豪雪割増 工種条件と同じ		

施工内訳表

頁0-0096

仮設材等の運搬
製品長 1.2m以内

運搬距離 2.2 km (×往復)

施工 第0 -0046号表

1	t	当り
---	---	----

[illegible]

施工内訳表

頁0-0097

**仮設材等の積込み、取卸し費
積込み、取卸し（往復分）**

施工 第0 -0047号表

1 t 当り

[illegible]

本管テレビカメラ調査工

施工内訳表

施工 第0 -0048号表

頁0-0098

445

m

当り

[illegible]

施工内訳表

頁0-0099

T Vカメラ搭載車運転工
95.5kw 2t

施工 第0 -0049号表

1 目 当 り

[illegible]

機械掘削工 (バックホウ)
クレーン付・クレーン型山積0.45m³ (平積0.35m³)

施工 第0 -0050号表

m 3

当り

[illegible]

施工内訳表

頁0-0101

バックホウ運転 (機-1)

クローラ型・クレーン付 山積0.45m³ 排出ガス対策型1次基準

施工 第0 -0051号表

1 時間 当り

[illegible]

施 工 内 訳 表

頁0-0102

床掘り
土砂

施工 第0 -0052号表

機械構成比： 18.73% 労務構成比： 74.16% 材料構成比： 7.11% 市場単価構成比： 0.00% 標準単価： 1 m3 当り

代 表 機 労 材 規 格	構成比	単 位	単 価	代 表 機 労 材 規 格(東京地区)	単価(東京地区)	備 考
バックホウ（クローラ型）〔後方超小旋回〕 排ガス2次 山積0. 2 8m3	18.73%	供用日		バックホウ（クローラ型）〔後方超小旋回〕 排ガス2次		
運転手（特殊）	40.26%	人		運転手（特殊）		
普通作業員	33.90%	人		普通作業員		
軽油 小型ローリー パトロール給油	7.11%	L		軽油 パトロール給油		
積算単価		式		積算単価		
*** 単位当り ***						

施工内訳表

頁0-0103

床掘り

土砂

機械構成比： 18.73%

勞務構成比： 74.16%

小規模

材料構成比： 7.11%

市場単価構成比： 0.00%

施工 第0 -0052号表

1
標準単価：

m 3 当り

[illegible]

施 工 内 訳 表

頁0-0104

機械投入埋戻工 BH山積0.45m3（平積0.35）
礫質土

施工 第0 -0053号表

100

m3 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
土木一般世話役	2.500	人			
普通作業員	3.800	人			
埋戻土	133.000	m3			
バックホウ運転（機－1） クローラ型・クレーン付 山積0.45m3 排出ガス対策型1次基準	6.200	時間			施工 第0-0051号表
タンパ締固め	100.000	m3			施工 第0-0037号表
諸雑費	1	式			
*** 合 計 ***	100	m3			
*** 単位当り ***	1	m3			
バックホウ規格：バックホウ投入 山積0.45m3（平積0.35m3） 土質区分：レキ質土 バックホウ機種：排出ガス対策型1次基準			埋戻土単価（円／m3）： 土量の変化率：ほぐした土量／締固め後の土量（L／C） 豪雪割増（バックホウ）：豪雪割増 工種条件と同じ		

施 工 内 訳 表

頁0-0105

埋戻し
小規模

施工 第0 -0054号表

機械構成比： 8.87% 労務構成比： 87.15% 材料構成比： 3.98% 市場単価構成比： 0.00% 標準単価： 1 m3 当り

代 表 機 労 材 規 格	構成比	単 位	単 価	代 表 機 労 材 規 格(東京地区)	単価(東京地区)	備 考
バックホウ（クローラ型）〔後方超小旋回〕 排ガス2次 山積0. 2 8m3	8.27%	供用日		バックホウ（クローラ型）〔後方超小旋回〕 排ガス2次		
タンパ及びランマ〔ランマ〕 質量6 0～8 0 k g	0.60%	供用日		タンパ及びランマ〔ランマ〕		
普通作業員	50.03%	人		普通作業員		
特殊作業員	19.35%	人		特殊作業員		
運転手（特殊）	17.77%	人		運転手（特殊）		
軽油 小型ローリー パトロール給油	3.14%	L		軽油 パトロール給油		

施 工 内 訳 表

頁0-0106

埋戻し
小規模

施工 第0 -0054号表

機械構成比： 8.87% 労務構成比： 87.15% 土砂 材料構成比： 3.98% 市場単価構成比： 0.00% 1 m3 当り 標準単価：

代 表 機 労 材 規 格	構成比	単 位	単 価	代 表 機 労 材 規 格(東京地区)	単価(東京地区)	備 考
ガソリン レギュラー スタンド	0.84%	L		ガソリン レギュラー スタンド		
積算単価		式		積算単価		
*** 単位当り ***						
施工方法：上記以外(小規模) 豪雪割増：豪雪割増 工種条件と同じ				土質：土砂		

頁0-0107

施工 第0 -0055号表

BH クレーン付山積0.45m³ (平積0.35m³) 積込

100 m³ 当り

[illegible]

施 工 内 訳 表

頁0-0108

ダンプトラック運転 (機-22)
オンロード・ディーゼル 10t積級

施工 第0 -0056号表

1 日 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
ダンプトラック [オンロード・ディーゼル] 10t積級	1.290	供用日			
運転手 (一般)	1.000	人			
軽油 小型ローリー パトロール給油	58.000	L			
タイヤ損耗費 ダンプトラック 10t 良好	1.290	供用日			
諸雑費	1	式			
*** 単位当り ***	1	日			
規格：オンロード・ディーゼル 10t積級 岩石割増：岩石割増なし 豪雪割増：豪雪割増 工種条件と同じ 一般運転手 (人/日) : 1 タイヤ損耗費 (供用日/日) : 1.29			タイヤ損耗費区分 (運搬路面状況) : 運搬路面状況 良好 供用日当運転時間 : 0 ダンプトラック (供用日/日) : 1.29 軽油 (L/日) : 58		

施 工 内 訳 表

頁0-0109

土砂等運搬

小規模 DID区間なし 7.5km以下

機械構成比： 26.52% 労務構成比：

バックホ 山積0.28m3(平積0.2m3)

61.90% 材料構成比： 11.58%

市場単価構成比： 0.00%

施工 第0 -0057号表

1
標準単価：

m3 当り

代 表 機 労 材 規 格	構成比	単 位	単 価	代 表 機 労 材 規 格(東京地区)	単価(東京地区)	備 考
ダンプトラック [オンロード・ディーゼル] 4 t 積級	26.52%	供用日		ダンプトラック [オンロード・ディーゼル]		
運転手 (一般)	61.90%	人		運転手 (一般)		
軽油 小型ローリー パトロール給油	11.58%	L		軽油 パトロール給油		
積算単価		式		積算単価		
*** 単位当り ***						
土砂等発生現場：小規模 土質：土砂(岩塊・玉石混り土含む) 運搬距離：7.5km以下				積込機種・規格：バックホ 山積0.28m3(平積0.2m3) DID区間の有無：DID区間なし 豪雪割増：豪雪割増 工種条件と同じ		

廃プラスチック運搬

施工内訳表

施工 第0 -0058号表

頁0-0110

機械構成比： 40.77% 労務構成比： 44.82% 機械積込 DID区間なし 14.4km以下 材料構成比： 14.41% 市場単価構成比： 0.00% 1 m3 当り 標準単価：

代 表 機 労 材 規 格	構成比	単 位	単 価	代 表 機 労 材 規 格(東京地区)	単価(東京地区)	備 考
ダンプトラック [オンロード・ディーゼル] 10 t 積級	40.77%	供用日		ダンプトラック [オンロード・ディーゼル]		
運転手 (一般)	44.82%	人		運転手 (一般)		
軽油 小型ローリー パトロール給油	14.41%	L		軽油 パトロール給油		
積算単価		式		積算単価		
*** 単位当り ***						
般発生作業：コンクリート(無筋)構造物とりこわし DID区間の有無：DID区間なし 豪雪割増：豪雪割増 工種条件と同じ				積込工法区分：機械積込 運搬距離：14.4km以下		

施 工 内 訳 表

頁0-0111

殻運搬

施工 第0 -0059号表

コンクリート(無筋)構造物とりこわし

機械積込 DID区間なし 10.9km以下

1 m3 当り

機械構成比： 40.77% 労務構成比：

44.82% 材料構成比： 14.41%

市場単価構成比： 0.00%

標準単価：

代 表 機 労 材 規 格	構成比	単 位	単 価	代 表 機 労 材 規 格(東京地区)	単価(東京地区)	備 考
ダンプトラック [オンロード・ディーゼル] 10 t 積級	40.77%	供用日		ダンプトラック [オンロード・ディーゼル]		
運転手 (一般)	44.82%	人		運転手 (一般)		
軽油 小型ローリー パトロール給油	14.41%	L		軽油 パトロール給油		
積算単価		式		積算単価		
*** 単位当り ***						
殻発生作業：コンクリート(無筋)構造物とりこわし DID区間の有無：DID区間なし 豪雪割増：豪雪割増 工種条件と同じ				積込工法区分：機械積込 運搬距離：10.9km以下		

施 工 内 訳 表

頁0-0112

殻運搬

施工 第0 -0060号表

コンクリート(鉄筋)構造物とりこわし

機械積込 DID区間なし 10.9km以下

1 m3 当り

機械構成比： 40.77% 労務構成比：

44.82% 材料構成比： 14.41%

市場単価構成比： 0.00%

標準単価：

代 表 機 労 材 規 格	構成比	単 位	単 価	代 表 機 労 材 規 格(東京地区)	単価(東京地区)	備 考
ダンプトラック [オンロード・ディーゼル] 10 t 積級	40.77%	供用日		ダンプトラック [オンロード・ディーゼル]		
運転手 (一般)	44.82%	人		運転手 (一般)		
軽油 小型ローリー パトロール給油	14.41%	L		軽油 パトロール給油		
積算単価		式		積算単価		
*** 単位当り ***						
殻発生作業：コンクリート(鉄筋)構造物とりこわし DID区間の有無：DID区間なし 豪雪割増：豪雪割増 工種条件と同じ				積込工法区分：機械積込 運搬距離：10.9km以下		

施工内訳表

頁0-0113

交通誘導警備員 B

No119-1-7～No119-1-10(新設+撤去)

施工 第0 -0061号表

1 人・日 当り

[illegible]

施工内訳表

施工 第0 -0062号表

1 式 当り

[illegible]

施工内訳表

頁0-0115

汚泥吸排車運転 (機-19)

トラック架装型 3.1～3.5t

施工 第0 -0063号表

1 日 当り

[illegible]

位置図



安曇野市下水道工事特記仕様書

施工条件明示

施工監理基準



令和 8 年 4 月

安曇野市上下水道部

目 次

安曇野市下水道工事特記仕様書	P. 3～16
施工条件明示	P. 17～19
別紙－1 排出ガス対策型建設機械の使用	P. 20～21
工事における提出書類一覧表	
開削工写真撮影一覧表	
出来形管理基準及び規格値（下水道）	

安曇野市下水道工事特記仕様書

第1章 総 則

(総 則)

- 1 安曇野市が発注する下水道工事の施工においては、下記に示す基準のほか、本特記仕様書によるものとする。
 - 「長野県土木工事共通仕様書」(長野県土木部)
 - 「長野県施工管理基準」(長野県土木部)
 - 「土木工事現場必携」(長野県土木部)
 - 「下水道工事施工の手引き(平成20年度版)」(長野県下水道公社)
 - 「下水道工事実施設計要領(1)一開削工編一」(長野県下水道公社)
 - 「道路土工 仮設構造物工指針」(社団法人日本道路協会)
 - 「たて込み簡易土留設計施工指針」(たて込み簡易土留協会)
 - 「安曇野市公共下水道工事施工基準」(安曇野市上下水道部下水道課)
 - 「水道事業実務必携」(全国簡易水道協議会) 令和5年改訂版
 - 「下水道用ダクタイトイル鉄管管路 設計と施工」(日本ダクタイトイル鉄管協会)
 - 「GX形ダクタイトイル鉄管 接合要領書」(日本ダクタイトイル鉄管協会)
 - 「安曇野市土木工事共通仕様書」(安曇野市都市建設部) 最新版
- 2 優先順位は、安曇野市下水道工事特記仕様書、長野県土木工事共通仕様書の順によるものとする。
- 3 該当しない工種については適用しないものとする。
- 4 個別の施工条件について、別紙のとおり定める。

(工程)

- 1 本工事は、週休2日工事の対象工事である。「安曇野市週休2日工実施要領」に従い組むものとする。

また、工事契約後、週休2日対象期間において、受注者の責によらず現場作業を余儀なくされる期間が生じた場合は、受発注者間で協議して現場閉所による週休2日の対象外とする作業と期間を決定するものとする。
- 2 工期は雨天、休日等を見込んでいる。なお休日等には日曜日、祝日、夏季休暇、年末年始休暇のほか、作業期間内の全土曜日を含んでいる。

工期には、施工に必要な実日数(実働日数)以外に以下の事項を見込んでいる。

①準備期間 30日間 ②雨休率 0.77(実働工期日数に休日と悪天候により作業ができない日数を見込むための係数) 実働日数×係数 ③後片付け期間、その他の作業不能日に関しては見込んでいない。
- 3 受注者は、施工条件に示す関係機関と工事に対する協議等を行い、その結果を踏まえ工程計画を策定するものとする。

- 4 工事箇所又は工事箇所付近で別工事が施工されている場合、相互で工程調整を図り道路利用者の混乱を避けるよう努めるものとする。

(対外関係)

- 1 発注者は本工事着手後に沿線住民を対象とした下水道工事説明会（個別説明）を開催する。受注者は下水道工事説明会（個別説明）に出席し、発注者に提出する工程表とは別に住民向けの工程表を作成し、その内容を説明するものとする。
- 2 受注者は、通行制限を行うにあたり工事箇所沿線の宅地、事業所等の出入り及び車両の駐車場を確保しなければならない。また、沿線の宅地、事業所等に福祉車両、汲取車両、配達車両の出入りがある等特殊事情がある場合これに配慮しなければならない。
- 3 受注者は民地内での工事を行う場合、地権者の承諾を得て着手しなければならない。
- 4 受注者は、境界杭の保全には特に注意を払い、工事施工前に必ず境界杭の確認をするとともに必要に応じ控え杭、写真等に記録しなければならない。また工事の施工により境界杭を移動・破損または、亡失等させた場合は受注者の責において適切に復元しなければならない。
- 5 受注者は、民地内の土地、構造物、立木、施設に損傷を与えた場合は地権者及び管理者に直ちに報告するとともに協議の上復旧しなければならない。
- 6 受注者は、施行条件に示す関係機関との立会等の必要がある場合には、これにあたらなければならない。
- 7 関係機関、所有者、管理者並びにその他関係者との協議内容については、書面及び写真などで協議記録として残すこととする。なお、協議記録の書式については任意扱いとするが、協議事項、指示事項、対応事項及び必要事項については必ず明記し、監督員からの要請があった時は提出しなければならない。

(工事支障物件、占用物)

- 1 受注者は、工事施工箇所に占用物件が予想される場合には、工事の施工に先立って地下埋設物件等の調査を行わなければならない。
- 2 受注者は、工事の施工により道路附属物、河川管理施設、占用物件に損傷を与えた場合には、直ちに応急措置をとり監督員に報告するとともに、管理者及び占用者に連絡し復旧措置を講じなければならない。
- 3 受注者は、工事途中で管理者不明の占用物件を発見した場合には、監督員に報告し、その措置は予想される占用者の立会を得て管理者を明確にしたうえで処置しなければならない。

(環境対策)

- 1 排出ガス対策型建設機械の使用については別紙－1 に示すとおりとする。
- 2 セメント及びセメント系固化材による地盤改良及び安定処理等の土砂とセメント及び

セメント細化材の攪拌混合を行う土質を使用する場合は下記によるものとする。

(1) セメント及びセメント系固化材を使用した改良土の六価クロム溶出試験実施要領(案)(平成13年4月23日国官技第18号)により六価クロム溶出試験を実施すること。

(2) 配合設計段階の試験結果が土壤環境基準(平成3年8月23日環境庁告示第46号)を超える場合は、基準内に納まるよう設計図書に関して監督員と協議するものとする。

3 受注者は工事の施工にあたり、掘削箇所地下水を河川又は水路に放流する場合には、下記によるものとする。

(1) 流水断面及び下流域を調査し放流が可能な水量を放流するものとする。

(2) 放流に先立ち河川又は水路の管理者の承諾を得なければならない。

(3) 砂及び土砂を併せて放流してはならない。砂及び土砂を放流させた場合は河川又は水路管理者に報告するとともに、受注者の責によりこれを除去しなければならない。

(交通安全管理)

1 受注者は、工事の施工にあたり公衆の交通の安全を確保しなければならない。

2 受注者は、安全管理については道路工事保安施設設置基準(平成18年4月1日国関整道管第65号)及び下記によるものとするが、工事現場の実状に応じた方法により交通管理を行わなければならない。

3 交通規制及び標識については、道路工事現場における標示施設等の設置基準(平成22年7月)に基づき適切に設置するものとする。ただし、これにより難しい場合は監督員と協議するものとする。

4 受注者は、夜間開放時には保安灯を設置するものとし、工事期間中は保安灯、バリケード、標識の保守点検を実施しなければならない。

5 受注者は、道路の交通規制を行う場合は、規制の計画を監督員に提出するとともに関係機関に所定の手続きをとらなければならない。

なお実施にあたっては、関係機関からの指示事項を順守しなければならない。

6 工事期間中に配置する交通誘導員は、施行条件に明示した配置人員とする。ただし道路管理者、交通管理者との協議条件などの社会的要件、現場精査に基づく配置人員の変更が必要になった場合は監督員と協議するものとする。

7 受注者は、通行規制に伴う迂回路を定めた場合、工事期間中は迂回路の保守、点検を行い公衆の安全な迂回を確保しなければならない。また、迂回路の損傷を発見した場合は直ちに監督員に報告しなければならない。

8 受注者は、道路に通勤車両及び建設資材を置いてはならない。

9 工事区間または、迂回路区間が小中学校の通学路に指定されている場合、契約締結後早急に学校教育課を通じて各小中学校と協議をしなければならない。通学路を変更する場合は、適切かつ安全な対策を講ずること。その他の福祉バス、巡回バス等の運行路線になっている時も同様に関係機関等と協議をすること。

10 工事区間内及び工事区間周辺に店舗がある場合は、店舗責任者及び管理者などと店舗への出入り口及び駐車場などについて事前協議すること。また、協議内容、対策等を現場着手前

に監督員へ書面にて報告すること。

(その他)

- 1 契約額が 500 万円以上の工事については、工事实績情報サービス(CORINS)に基づき、受注時・変更時・完成時・訂正時(工期延長、現場代理人、主任技術者の変更)に工事实績情報として工事カルテを作成し、監督員の確認を受けた上で登録すること。また、登録完了書の写しを提出すること。各登録期限は、受注・変更時登録は契約後 10 日以内(土曜日、日曜日、祝日等を除く)、完成時登録はしゅん工後 10 日以内とする。ただし、変更時と完成時との間が 10 日間に満たない場合は、変更時登録を省略し、しゅん工時登録に併せ行うことが出来ることとする。
- 2 契約額が 800 万円以上の工事については、建設業者は、建退協制度の発注者用掛金収納書原本を発注者へ 1 ヶ月以内に提出すること。また、しゅん工書類の一部として収支表を提出すること。
- 3 建設業法第 26 条の規定により、受注者が工事現場ごとに設置しなければならない専任の主任技術者又は専任の監理技術者(以下、技術者と言う。)は、適切な資格、技術力を有する者(本工事現場に常駐し、専らその職務に従事する者で、受注者と直接的かつ恒常的な雇用関係にあるものに限る)を配置すること。(受注者と直接的かつ恒常的な雇用関係とは、本工事の入札執行日前に受注者と技術者との間に 3 ヶ月以上の雇用関係が必要である。)
- 4 本特記仕様書に疑義が生じた場合は、受注者と発注者が協議のうえ決定することとする。
- 5 本工事の現場技術業務を、公益財団法人長野県上下水道公社に委託している。
現場技術員は受注者に対して適切な助言指導、施工監理を行い、設計の変更、現場の施工条件、施工方法等の変更が生じた時は、監督員と協議し受注者に通知する。
- 6 監督員、現場技術員は、別途指定し通知する。

第 2 章 施 工

(起工測量)

- 1 本工事着手前に起工測量を実施し、成果を施工前に必ず提出すること。測量方法については水準測量などの適切な測量方法により行なうこと。測量を実施した際、規定値から外れているもの(スパン延長、マンホール設置地盤高、流出管底高など)があれば監督員と協議すること。また、施工後(マンホール鉄蓋設置後)上記内容を満たしていない場合は、鉄蓋の再設置(高さ修正)を依頼する場合があるので、事前調査を十分行なった上で施工すること。なお、図面に記載されているベンチマークの高さについても併せて確認作業を行ない監督員に報告すること。
- 2 起工測量結果に基づき、組立式マンホールの組合せ表を施工計画書又は施工協議書に添えて提出し、監督員の承認を得ること。なお、使用する組合せ部材に 5cm の調整リングは使用しないこと。また、しゅん工時における組立式マンホールの組合せ表をしゅん工書類に添付すること。
- 3 現場施工については、『施工計画書・材料承認願い・起工測量結果・汚水桝調査表・その他必要書類など』の提出後とし、監督員の承認を得てから現場着手することとする。

- 4 水準測量において設置した仮ベンチマークは、施工途中で狂いが生じないよう堅固に設けること。特に隣接工区工事が発注されている場合又は今後発注された場合には、隣接工区受注者とベンチマークの高さについて関連付けをすること。なお、本工事において設置した仮ベンチマーク(特に工事区間内周辺宅地、周辺水路脇など)は工事終了後遅滞なく撤去すること。

(自然流下管材料)

- 1 本管は、下水道用リブ付き硬質塩化ビニル管(JSWAS. K-13)を使用する。
- 2 材料の運搬は丁寧に行い、材料の損傷を防ぐこと。現場において管を保管する際、曲がりや変形、リブの破損を防ぐため原則として屋内保管をすること。やむを得ず屋外保管をする時は、簡易屋根を設けるか不透明シートで管を覆い直射日光を避け、熱気がこもらないよう風通しの良い方向へ受口又は差口を向けること。また、接着剤などは冷暗所において保管すること。
- 3 取付管は、下水道用硬質塩化ビニル管(JSWAS. K-1 SRB)を使用すること。また、(社)日本下水道協会において認定している下水道用リサイクル三層硬質塩化ビニル管(認定資材類別『Ⅱ類』、認定資器材名『リサイクル硬質塩化ビニル管』、RS-SRB 等)を使用する時は監督員と協議すること。
- 4 プラスチック製小型マンホールは、下水道用硬質塩化ビニル製小型マンホール(JSWAS. K-9)を使用すると共に、鉄蓋については下水道用鋳鉄防護蓋(JSWAS. G-3)を使用する。なお、内蓋については内蓋表面から下側に持ち手があるタイプを使用すること。なお、(社)日本下水道協会において認定している下水道用リサイクル三層硬質塩化ビニル製ます(認定資材類別『Ⅱ類』、認定資器材名『リサイクル硬質塩化ビニル製ます・継手』)を使用する時は監督員と協議すること。
- 5 使用する全ての材料について使用承認を得ること。ただし、(社)日本下水道協会の認定工場制度による工場製品の場合は、検査証明書(自主検査結果及び検査証明書並びに検査成績書)の提出により立会い検査に代えることが出来る。この場合、事前に監督員の承認を得るとともに搬入された認定標章および製造年月日の確認をすること。
- 6 試掘により管基礎材として使用できる路盤材の有無を確認し、同時に土質試験資料の採取を行うこと。また、使用できる路盤材が確認されたときは、監督員と協議し可能な限り管基礎材として再利用できるように発生土と分けて保管すること。

(圧送管材料)

- 1 本管(圧送管)は、下水道用ポリエチレン管(JSWAS. K-14)(以下、ポリエチレン管)を使用する。
- 2 管、弁類を取り扱う場合は、その接合部及び塗装部分などに損傷を与えてはならない。
- 3 管、弁類の積みおろしをする場合は、台棒等を利用し、巻きおろすか又はクレーン等で2点吊りにより、管を損傷させないように十分な注意をしなければならない。
- 4 管、弁類を運搬又は移動する場合は、クッション材を用いて行い、損傷、内面塗装を痛めないよう十分な注意をしなければならない。
- 5 管、弁類を保管又は一時仮置きする場合は、台棒、角材、板材等を敷いて、直接地面に接しないようにし、転がり止めを確実に行わなければならない。

- 6 ポリエチレン管の取り扱いには、次の事項に留意すること。
- ① 管や継手の保管はメーカー等出荷時の荷姿のまま屋内保管を原則とするが、現場において屋外保管をする場合には、シートなどで直射日光を避けるとともに、熱気がこもらない環境(風通し等)を保つこと。
 - ② 管の保管は平坦な場所を選び、まくら木を約 1m 間隔で敷き、不陸が生じないようにして横積みすること。なお、井げた積みは厳禁とする。
 - ③ 管や継手とも土砂、洗剤、溶剤、油等が付着するおそれがある場所及び火気等のそばには絶対に置かないこと。
- 7 材料の運搬は丁寧に行い、材料の損傷を防ぐこと。現場において管を保管する際、曲がりや変形を防ぐため原則として屋内保管をすること。やむを得ず屋外保管をする時は、簡易屋根を設けるか不透明シートで管を覆い直射日光を避け、熱気がこもらないよう風通しの良い方向へ受口又は差口を向けること。また、接着剤などは冷暗所において保管すること。
- 8 組立式マンホールと本管との接続は、設計書に記載の可とう継手を設計図にしたがって設置し耐震化を確保した施工をすること。
- 9 使用する全ての材料について使用承認を得ること。ただし、(社)日本下水道協会の認定工場制度による工場製品の場合は、検査証明書(自主検査結果及び検査証明書並びに検査成績書)の提出により立会い検査に代えることが出来る。この場合、事前に監督員の承認を得るとともに搬入された認定標章および製造年月日の確認をすること。
- 10 管渠の基礎に使用する材料は、埋戻し用砂を使用するものとする。

(土 工)

- 1 掘削にあたっては、設計幅以上とならないよう施工すること。なお、土質による設計変更は基本的に行わないものとする。建物、その他構造物等に接近した場合には、完全な防護を施した上で施工すること。
- 2 本工事により発生する残土は原則として指定する場所へ搬入すること。なお、建設発生土(残土)搬入に係る適否判定フローにより、適用外となった残土は指定処分とする。残土処分量が確認できる資料をしゅん工書類に添付して報告すること。
施工計画書には現場から仮置場までの搬出経路、搬出距離及び運搬時間を明記し、仮置場から最終処分場までの搬出経路、搬出距離及び運搬時間も明記すること。なお、仮置場(現場発生土、アスファルト殻など)の安全対策を講じたものを施工計画書に明記すること。
- 3 管上 10cm から 30cm までの良質土埋戻しは、レキ径 20 mm を超えない土砂とする。下水道実施設計要領(1)一開削工編一及び日本下水道協会(G-1)規格を確認し埋戻し材を決めること。埋戻し材を変更する場合には、変更理由、使用材料、施工方法などを監督員と協議すること
- 4 埋戻し材の土の含水比、締固め試験、修正 CBR 試験を報告すること。なお、品質基準値は、締固め度(90%以上)・修正 CBR(20%以上)とする。
- 5 埋戻し材は発生土の良質なものとし、埋戻しに適した含水比で埋戻すこと。軟弱土質等埋戻し材として不適当と判断された時は碎石等で置き換えて施工すること。
- 6 埋戻しの施工にあたり、管渠その他の構造物の下部に空隙が生じないようにすること。また

偏圧が作用しないよう左右均等に十分な締固めること。

- 7 埋戻し作業にあたり、管渠に影響を与えないよう土砂を投入し、一層の厚さが 30cm を超えない範囲で一層毎に不陸のないよう敷均し人力により十分締め固めること。路体の締固め密度は最大乾燥密度の 85%以上・路床は 90%以上を確保し、密度試験は 500 m³に 1 回の割合で行うこと。
- 8 受注者は施工後の路面の不等沈下や宅地の地盤沈下等が生じない様、入念に埋戻しを行うものとする。
- 9 掘削溝内に埋設物がある時は、埋設物管理者との協議に基づく防護を施し、埋設物付近が将来沈下しないようにすること。
- 10 路体部、路床部の密度試験実施箇所については、発注用の平面図へ試験実施箇所が分かるよう記載し監督員へ報告すること。
- 11 農地を残土置場又は資材置場などに使用する際は、契約締結後早急に農業委員会事務局と協議し、「農地の一時利用転用願」を提出すること。

(本管布設)

- 1 管の布設にあたっては「安曇野市公共下水道工事施工基準」によるものとする。
- 2 埋設物等があり設計書どおり施工できない場合は協議すること。(上水道管やその他構造物などとの離隔は交差時、並列時共 30cm を原則とする。)
- 3 ゴム輪接合において、ゴム輪が正確に溝にはまっているか確認すること。ゴム輪のねじれ・はみ出しがある場合は再装着すること。また、ゴム輪接合部に付着している泥土、水分、油分等は乾いた布などで清掃すること。
- 4 接着剤塗布後は、素早く差口を受口に挿入し所定の位置まで差し込みそのまましばらく保持すること。なお、呼び径 200 mm 以上は原則として挿入機を使用し、かけや等による叩き込みはしないこと。また、接着直後は接合部に無理な外力が加わらないように注意すること。
- 5 管の基礎については設計厚以上を確保すること。また、良質土埋戻しを管基礎の材料と同様のものに変更した場合も設計厚以上を確保すること。その際の写真撮影、出来形管理等は管基礎と同様の管理を行なうこと。
- 6 管の据付けに先立ち、十分管体検査を行い、亀裂、塗装のはがれ、その他の欠陥がないことを確認しなければならない。
- 7 管の吊り下ろしにあたって、土留用切梁を一時取り外す必要がある場合は、必ず適切な補強を施し、安全を確認の上作業しなければならない。
- 8 管の据付けにあたっては、管内部を十分清掃し、水平器、型板、水準等を使用し、中心線及び高低を確定して移動しないように固定する。このとき、管体の表示記号を上に向けて据付けなければならない。
- 9 直管を使用して曲げ配管を行わなければならない場合は、監督員の承諾を得てから継手の持つ許容曲げ角度以内で行わなければならない。
- 10 一日の布設作業完了後は、管内に土砂、汚水等が流入しないような措置を行うとともに、管内には綿布及び工具類等を置き忘れないよう注意しなければならない。

- 11 さや管内へ管を布設する場合は、さや管と布設管が接触して塗装面が損傷しないように、押し込みには適切な器具等を取り付けなければならない。
- 12 配管作業に従事する技能者は、豊富な経験と知識を有する熟練した者でなければならない。

(接合管理)

- 1 EF 接合は以下の方法で行う。

①管の切断

管の切断は所定のパイプカッターを用い、管軸に対して管端が直角になるように切断すること。また、高速砥石タイプの切断工具は熱で管切断面が変形する恐れがあるため、使用してはならない。

②管の清掃

管に傷がないか点検のうえ、管に付着している土や汚れをペーパータオルまたは清潔なウエスで清掃する。清掃は管端から 200 mm 以上の範囲を管全周に渡って行うこと。

③融着面の切削

管端から測って規定の差込長さの位置に標線を記入する。次に削り残しや切削むらの確認を容易にするため、切削面をマーキングし、スクレーパを用いて管端から標線まで管表面を切削（スクレープ）する。切削は不十分な場合は融着不良となる場合があるため完全に切削すること。

④融着面の清掃

管の切削面と EF ソケット（または接合する継手の受口）の内面全体をエタノールまたはアセトンをしみ込ませたペーパータオルで清掃する。

⑤マーキング

切削・清掃済みの管にソケットを挿入し、端面に沿って円周方向にマーキングする。

⑥管と継手の挿入・固定

EF ソケットに双方の管を標線まで挿入し、クランプを用いて管と EF ソケットを固定する。

⑦融着準備

継手とコントローラの適合を確認のうえ（共用コントローラを指定）、コントローラの電源を入れる。コントローラは通電中に電圧降下が大きくなった場合は作動しなくなるため、電源は専用のものを使用すること。また、発電機使用による冬季施工では、必ず暖気運転を行い使用すること。継手の端子に出力ケーブルを接続し、コントローラ付属のバーコードリーダーで継手のバーコードを読み込み、融着データを入力する。

⑧融着

コントローラのスタートボタンを押して通電を開始する。ケーブルの脱落や電圧降下により通電中にエラーが発生した場合は、新しい EF ソケットを用いて最初から作業をやり直すこと。

⑨確認

EF ソケットのインジケータが左右とも隆起していることを確認する。インジケータの隆起が確認できない場合、あるいはコントローラが正常終了していない場合は融着不良であ

り、この場合は接合部分を切除のうえ作業をやり直すこと。

⑩冷却

コントローラの通電が終了しても、規定の冷却時間をとること。また、通電終了時刻に所要冷却時間を加えた冷却完了時刻を継手に記入し、その時刻になるまで、クランプで固定したままにし、外力を加えてはならない。

- 2 EF 接合では、接合作業がコントローラにより自動化されているため、管理表としてコントローラ内に蓄積される融着履歴データの出力帳票を提出するものとする。また、しゅん工図には接合口番号を記入し、融着履歴データの累積融着番号と対応できるように整理すること。(別添「EF 接合チェックシート」を参考に整理する)
- 3 共用コントローラの場合、メモリ内に融着履歴データを 1000 件記憶することができ、1000 件を超えた場合、最も古いデータから置換わるため、レンタル等で現場に持ち込む場合には、あらかじめ、履歴データをリセットすることで、累積融着番号を 1 から開始することができる。

(ポリエチレン管その他作業)

- 1 有機溶剤等の浸透を防止するために、浸透防止スリーブを確実に施工すること。なお、使用する浸透防止スリーブは安曇野市上下水道部使用承諾品を使用すること。
- 2 ポリエチレン管は非導電管であることから、埋設後に漏水調査、布設替等において管路探査を可能にするために、ロケーティングワイヤーの施工を基本とする。使用材料は芯線が断線した場合にも管路探査できるよう導電性カーボンゴム等により被覆された専用のワイヤーを使用するものとする。

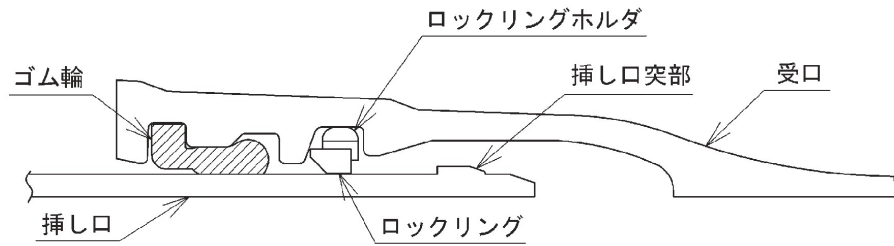
(ダクタイル鋳鉄管の切断)

- 1 管の切断にあたっては、所用の切り管長及び切断箇所を正確に定め、切断線の標線を管の全周にわたっている。
- 2 管の切断は、管軸に対して直角に入れること。
- 3 切り管が必要な場合には残管を照合調査し、極力残管を使用すること。
- 4 鋳鉄管の切断は切断機で行うことを標準とし、異形管を切断してはならない。
- 5 鋳鉄管の切断面は、ダクタイル切管鉄部用塗料で塗装し防食しなければならない。
- 6 鋼管は切断完了後、新管の開先形状に準じて丁寧に開先仕上げを行う。また、切断部分の塗装は、原則として新管と同様に仕上げること。

(ダクタイル鋳鉄管の接合)

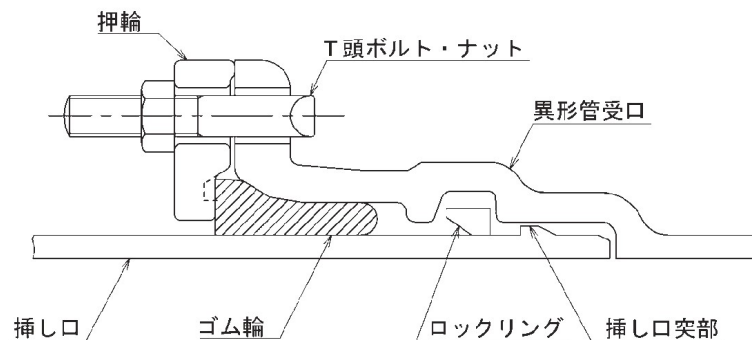
G X 形ダクタイル鋳鉄管の接合

a. 直管の接合 : $\phi 75 \sim \phi 400$



- 1 管のメーカーマークを上にして、所定に位置に静かに吊りおろす。
- 2 管の受口溝とゴム輪の当たる面及び挿し口外面の異物除去と清掃を行う。
- 3 ロックリングとロックリングホルダの確認を行う。
- 4 ゴム輪を確認後清掃し、受口内面の所定の位置に装着する。
- 5 ゴム輪の内面と挿し口外面のテーパ部から所定の位置まで滑剤を塗布する。
- 6 管をクレーンなどで吊った状態にして、挿し口を受口に預ける。この時 2 本の管が一直線又は 2° 以内になるようにする。
- 7 レバーブロックを操作して挿し口を受口に挿入し、所定の位置まで受口端面にくるように合わせる。このとき、曲げ挿入は行わないこと。

b. 異形管の接合 : $\phi 75 \sim \phi 400$



- 1 挿し口外面と受口内面の清掃を行う。
- 2 接合部品(押輪及びゴム輪)を挿し口へ預け入れる。
- 3 受口内面、挿し口外面、ゴム輪外面に滑剤を塗布する。
- 4 挿し口を受口に挿入する。
- 5 ストッパーを取り外す。
- 6 挿し口突部がロックリングを通過しているか確認する。
- 7 ゴム輪、押輪をT頭ボルト・ナットで締め付ける。
- 8 押輪の施工管理用突部と受口端面がメタルタッチになっていることを確認する。

(管路山留め)

- 1 開削工事の土留工は、土工標準図に記載の土留め材で施工することを標準とし、これにより難しい場合は監督員と協議すること。

- 2 土留と地山に間隙が生じた場合は、砂詰め等を行い周辺地盤に影響が出ないよう施工すること。
- 3 施工計画書に土留工の構造計算書を添付すること。その際、構造計算書には作成者の押印をすること。また、構造計算書の作成にあたり次の内容を守ること。土留め設置高及び掘削幅毎に計算書を作成し、土の単位体積重量は $20.0(\text{kN}/\text{m}^3)$ 、載荷重 $10.0(\text{kN}/\text{m}^2)$ 、内部摩擦角を算出する際の N 値は 6 とする。なお、本条件と違う土質条件の場合には、参考資料、土質状況写真及びその他関係資料を添えて監督員と協議し、監督員の承認後構造計算書を作成すること。
- 4 建て込み簡易土留めの施工に当たっては、土留材の設置部を先掘りしながら所定の深さに設置しなければならない。先掘りは背面土砂が崩壊しない深さとし、30cm 以下で施工しなければならない。なお、全ての箇所において土留材は掘削底面と同じか又は深く設置しなければならない。
- 5 土留めを建て込む際に使用するバックホウは、クレーン仕様を原則とする。なお、クレーン仕様が分かる写真を撮影し、しゅん工書類に添付すること。
- 6 バックホウによる吊り込み作業には、専用装置以外の装置を使用しないこと。また、バックホウでの打撃による建込は行わないこと。
- 7 機材の引き抜きは、トラッククレーン等により施工すること。
- 8 機材は締固め厚さ毎に引き抜き、パネル部分の埋戻しと締固めを十分行い、写真確認が後日できるように管理すること。
- 9 土留めパネル裏側に空隙が生じた場合、アスファルト舗装などを撤去し裏込め材を投入すること。また、土留めパネル引き抜き後は開削部分だけでなく空隙が生じた箇所も十分転圧すること。なお、転圧が不十分な場合には、道路面における地盤沈下があるので細心の注意を払って施工すること。

(立坑土留め)

- 1 立坑(マンホールポンプ設置部)に使用する土留めはライナープレートを標準とする。
- 2 使用するライナープレートは、地質条件及び掘削方式を検討の上、十分に安全なものを選定し、施工計画書に明記し監督員に提出しなければならない。
- 3 ライナープレート式土留工の施工は、周囲の状況を考慮し、掘削深さ、土質、地下水位、作用する土圧及び載荷重を十分検討し施工しなければならない。
- 4 ライナープレート式土留工の土留掘削に先立ち、溝掘り及び探針を行い、埋設物の有無を確認しなければならない。
- 5 ライナープレート土留掘削は、先行掘削になるため、地盤が自立していることを確認し順次掘下げていくこと。また、ライナープレートと地山との空隙を少なくするよう掘削しなければならない。
- 6 掘削は1リングごとに行い、地山の崩壊を防止するために速やかにライナープレートを設置しなければならない。
- 7 1リング組立て完了後、形状、寸法、水平度及び鉛直度等を確認し、ライナープレートを固定するため、頂部をコンクリート及び H 鋼等で組んだ井桁による方法で堅固に固定し、移動

や変形を防止しなければならない。

- 8 ライナープレートの組立てにおいて、継目が縦方向に通らないよう千鳥状に設置しなければならない。また、土留背面と掘削壁との間にエアーモルタル等で間隙が生じないようにグラウト注入し、固定しなければならない。
- 9 補強リングを用いる場合には、補強リングをライナープレートに仮止めしながら継手版を用いて環状に組立て、その後、下段のライナープレートを組立てるときに、円周方向のボルトで固定しなければならない。
- 10 ライナープレート埋戻しにおいて、ライナープレート存置は設計図書による。ただし、立坑上部については取りはずすこととし、その処置及び方法について監督員と協議しなければならない。
- 11 立坑内での作業員の昇降設備や立坑内への資機材の吊下しについては、安全を十分に確保したうえで作業を行わなければならない。

(マンホール設置工)

- 1 調整モルタルの打設は舗装復旧前を原則とする。
- 2 インバート形状は流入管底と流出管底を直線で結んだものとする。ただし、落差の大きい箇所副管を使用しない場合、または直角に曲がるインバートの場合は監督員と協議すること。
- 3 工区最下流並びに最上流マンホールのインバートは、設計書の数量計算書に基づくものとする。上流より流入計画のあるマンホール(平面図において確認すること。)については、原則としてインバートの施工はしないこと。ただし、副管の場合はこの限りではないので監督員と協議すること。
- 4 起点マンホールのインバートは流出管幅でマンホール内径全ての長さを円形に仕上げる。ただし、取付管流入がある場合は2の記載による。
- 5 1号マンホールのステップは原則として流出側に設置する。
- 6 マンホール鉄蓋の向きは、デザインの上部が流出管方向を向くよう設置すること。ただし、親子蓋の場合は、上記5と関連付けをすること。
- 7 マンホール深さが2mを超える時は、転落防止梯子付の鉄蓋を設置すること。
- 8 既設マンホールへ接続する際は、管の端面を内壁に一致させること。なお、供用開始後のマンホールへ接続する際には、酸素欠乏空気の危険性、有毒ガス発生の可能性等の有無について事前に調査すること。また、作業にあたっては関係法令等を遵守し作業の安全性を確保すること。
- 9 副管の本管への接続は本管勾配に対して直角に設置する。また管端が突出しないように鉛直に行うこと。
- 10 マンホール部材の吊り込みは、上下同時作業にならないように施工すること。また、マンホール周辺の埋戻しは、極力部材1個毎に行ない偏土圧による傾斜を防止するため、360度均一に行うこと。ただし、組立て完成写真を撮影するため施工方法、写真撮影時期について監督員と協議すること。
- 11 マンホール設置地盤高については特に留意し、周辺地盤高、道路勾配(縦断勾配、横断勾配)、

周辺構造物などとの整合を図ること。

(補助地盤改良工(薬液注入))

- 1 薬液注入工事の着手前に下記について監督員の確認を得なければならない。
 - (1) 工法関係 ① 注入圧 管路編 2-11 ② 注入速度 ③ 注入順序 ④ ステップ長
 - (2) 材料関係 ① 材料(購入・流通経路等を含む) ② ゲルタイム ③ 配合
- 2 薬液注入工事は、「薬液注入工法による建設工事の施工に関する暫定指針(建設省通達)」の規定によること。
- 3 薬液注入工事の施工管理等は、「薬液注入工事に係る施工管理等について(建設省通達)」の規定によること。
- 4 注入工事の施工にあたっては、昭和52年4月21日付け建設省官技発第157号「薬液注入工法の管理について」に定められた技術者を注入責任技術者として届け出るとともに、注入作業中は常駐させるものとする。
- 5 注入工事に使用する薬液は、水ガラス系の薬液(主剤が珪酸ナトリウムである薬液をいう。)で、劇物またはフッ素化合物を含まないものに限る。ただし、工事施工中緊急事態が発生し、第二次災害を防ぐための応急措置として薬液注入工事を施工する場合は、監督員の承諾を得て現場の状況に応じて、劇物の少ない薬液を使用することができる。この場合においてもアクリルアミドは使用しないこと。
- 6 薬液注入工事を施工するにあたっては、注入箇所及びその周辺地域の地下水、公共用水域、土質、地下埋設物、井戸、植物並びに農作物等について、あらかじめ調査をしなければならない。

(さや管推進工)

1 一般事項

- (1) 推進工事施工に際しては、十分な知識と経験を有する技術指導員を現場に随時派遣し、作業者を指導しなければならない。
- (2) 当該工事箇所の構造物等の管理者がいる場合は工事着手前に工程、施工方法等の打ち合わせをし、事故防止、工事進捗等に支障のないようにしなければならない。
- (3) 地下埋設物等の支障物件については事前に調査を行い、関係者と調整、打ち合わせを行い、必要な措置を講じなければならない。

2 さや管

さや管は原則として、日本下水道協会規格 JSWAS-A2(下水道推進工法用鉄筋コンクリート)の標準管とする。ただし、その他の管を使用する場合は、あらかじめ監督員の承認を受けなければならない。

3 さや管推進工

- ① 工事に先立ち、土質調査資料等を十分検討し、推進方法及び補助工法等を選定する。
- ② 管の押込みにあたっては、設計図書に基づいて中心線及び高低を確認し、施工しなければならない。

- ③ 掘削の結果、管の押込みに対しての後方（地山）支持力が不十分な時は監督員と協議のうえ、必要に応じて適切な補強をしなければならない。
- ④ 管の押込みにあたっては、管先端部周囲の土砂の崩落を防ぐ工法で行い、管内に入った土砂だけを掘出し、先掘り等の周囲の土砂をゆるめることのないように施工しなければならない。
- ⑤ 管の接合は、地下水、細砂等が流入しないようにシーリング材充填等を行わなければならない。又押込み口には出水時の排水のための、水替え設備を準備しなければならない。
- ⑥ 監督員が指示した場合は、地質の変化があるごとに資料を採集し、地層の状態について地層図を作成し、監督員に提出しなければならない。
- ⑦ 押込み中に、障害物、湧水、土砂崩れ等が生じたときは、直ちに臨機の処置をとるとともに、監督員に報告しなければならない。
- ⑧ 管の周囲に空隙を生じた場合は、直ちにセメントグラウト等で裏込め充填しなければならない。
- ⑨ グラウトは管内面から行い、配合、注入圧力は監督員と協議し、承諾を得なければならない。又、施工については監督員の立会を原則とする。
- ⑩ 地盤改良を行う場合は監督員と協議し、承認を得なければならない。

4 押込み完了後の処置

- ① 地山補強等は配管工事に支障ないように、速やかに取り壊さなければならない。
- ② さや管の継手部は再確認し、必要あれば再度シーリング等の充填を行うこと。
- ③ 必要に応じて、管の周囲にセメントグラウトを行うが、工事箇所周囲の状況には十分注意し、井戸水等への影響がないようにしなければならない。

（仮設工）

- 1 本工事の仮設工は施工条件明示による。
- 2 受注者は、安曇野市景観条例（平成 24 年 3 月 26 日条例第 10 号）第 12 条 3 の規定に基づき、屋外における土石、廃棄物、再生資源その他物件の堆積が以下の値を超える場合は、安曇野市長に景観計画区域内における行為の届出を行為の 30 日前までに行うこと。
※面積 100 m²又は堆積の高さが 3 m （届出先：都市建設部 建築住宅課 建築景観係）

（用地関係）

- 1 工事に伴い、現場事務所、材料置場、土砂置場等に要する敷地が必要な場合、敷地の借り受けその他必要な手続きは受注者の責任において行うものとする。
- 2 前項により用地処理したときは、その土地使用により生じた苦情、紛争等は受注者が責任を持って解決しなければならない。
- 3 工事に伴い、工事箇所に隣接する土地の境界杭や構造物が支障となる場合は、直ちに監督員と協議し、物件所有者と調整を図ること。

(付帯工)

- 1 本工事におけるアスファルト舗装復旧は仮復旧を原則とし、1路線毎随時復旧する。なお、設計幅以上の復旧は監督員の指示があるとき以外は原則として設計変更の対象としない。ただし、既設舗装の損傷及びその他地下埋設物の復旧跡などがある場合は事前に監督員に報告すること。また、アスファルト舗装を復旧する際には監督員の現地立会いを受けたあとに行なうこと。
- 2 下層路盤及び上層路盤の出来形管理は、設計掘削幅に対し管理すること。
- 3 路盤工の1層当たりの最大仕上げ厚は、上層路盤は15 cm、下層路盤は20 cmまでとする。
- 4 舗装復旧する際に使用した舗装止め型枠等は、舗装復旧終了後速やかに撤去及び片付けをすること。また、撤去した合材が農地や宅地に飛散した場合も同様に撤去及び片付けをすること。
- 5 舗装復旧(本復旧、仮復旧とも)をする場合には、建設機械などで道路上にある構造物(下水道用マンホール鉄蓋、上水道用仕切弁、横断水路など)に影響を与えないようにすること。また、各構造物の高さ調整が必要となる場合には、協議書に図面及び現況写真等を添えて監督員と協議すること。なお、路肩にある構造物等も同様に整合を図ること。
- 6 舗装復旧は周辺の構造物及び路面と整合を図りながら平坦性を保ち施工する。
- 7 舗装施工中は温度管理に注意し、常に平坦性を考慮しながら仕上げを行なうこと。また、開放時の温度や外気温等にも注意し施工を行ない、温度管理同様写真管理を行なうこと。
- 8 舗装終了後は、マンホール鉄蓋に付着したアスファルト合材を除去すること。
- 9 本工事において消失した路面表示は、施工前の状態に復旧するものとする。この場合設計の掘削幅のみ設計計上のみ変更対象影響とする。ただし、既存道路の路面状態が悪い場合や消失しかけた場合などの理由はこの限りではないので、現場作業着手前に監督員と現地立会いを実施し、工事後の路面状況により(本復旧又は仮復旧)路面表示等の各復旧方法についての対応を監督員と協議すること。
- 10 工事箇所周辺に水路等がある場合には、現地作業終了後水路清掃を行うこと。また、本工事において支障を与えた農地等の土手崩落及び舗装道路、砂利道の路肩崩落、迂回路の路面復旧等も現地作業終了後復旧すること。
- 11 宅地への出入り、農地等への出入りは土地所有者及び耕作者等と協議して施工すること。また、施工に際しては『施工前よりも施工後の出入り条件が悪くなった』などの苦情がないようにすること。ただし、土地所有者及び耕作者等と協議を進めていく中で、過剰なまでの要求があった場合には監督員と協議すること。
- 12 舗装コア採取箇所は監督員の指示により行い、舗装厚の確認を求めること。また、100%出来形図へ採取箇所を記載ししゅん工図書とともに提出すること。

(書類・検査)

- 1 本工における着手時、施工途中時、完成時の提出書類は「安曇野市公共下水道工事施工基準」に準じて作成すること。
- 2 配管中は継手ごとに別途添付するチェックシートを用いて管理すること。
- 3 配管中または配管後の検査として、継手接合時の作業検査、管路水圧試験が行われている。

水圧の代わりに空気圧で試験を行うと、管が吹き飛ばされる恐れがあるため決して行ってはならない。

以下より管路水圧試験について示す。

- ① 管路の充水は、原則として管路の低い方から、管内空気の排出状況を確認しながら、ゆっくりと行うことが望ましい。
- ② 管路の水圧試験は、管内の残留空気を少なくするために、充水後少なくとも一昼夜程度経過してから行うものとする。また、充水中は管路の異常の有無を点検して事故の防止に努める。
- ③ 試験は、試験水圧まで加圧した後、一定時間保持し、その間の管路の異常の有無および圧力の変化を調べる。なお、試験水圧、保持時間および許容圧力低下量については使用水圧、管路延長、管種、付帯設備および施工条件などを考慮して適切な数値を設定する。
- 4 出来形が 80%に達したときは速やかに 80%予想出来形展開図を提出すること。
- 5 マニフェストの写し(コピー)は、A 表、B2 表、D 表、E 表を搬出初日及び搬出最終日を添付し提出すること。なお、搬出量が大量にある場合(50 t 以上)は、搬出中間日も添付すること。その他の日は搬出初日から最終日まで分かるよう総括表を添付すること。
- 6 再生資源利用計画書及び再生資源利用促進計画書については、用紙を各 1 枚ずつ添付し、入力した媒体(FD 又は CD)も提出すること。
- 7 資機材料の納入伝票は、受注者において品目毎に取りまとめ管理すること。また、抜き取った舗装コアについても同様に管理ししゅん工検査時に持参すること。なお、しゅん工検査後は受注者において保管すること。この場合の保管年数は、工事完了年度より 5 年間とする。
- 8 デジタルカメラを使用する場合、有効画素数は 200 万画素以上とし、工事写真の大きさはサービス版サイズと同等とする。また、使用する用紙は白色度 85%以上とし書面にて監督員へ報告すること。
- 9 写真撮影箇所、撮影時期などは設計図書のとおりに行なうこと。また、品質管理や出来形管理も同様に行なうこと。

(後片付け)

- 1 工事を終了したときは、残材、廃材等を撤去し工事現場の後片付け及び清掃等を工期期限内に完了しなければならない。
- 2 工事中影響を与えた構造物、土地等は管理者の承諾のもと、受注者の責任により復旧すること。

第 3 章 安全対策、交通管理

(安全対策・交通管理)

- 1 受注者は労働災害及び公衆災害の防止に努めなければならない。
- 2 本工事区間内に農地(水田・畑等)がある場合には、土地所有者及び耕作者と協議し、耕作(田植え、稲刈り及び収穫など)等の作業の支障にならないようにすることとする。
- 3 工事中、関係者(住民、通行者等)が詳細な工事工程、交通規制方法(迂回路等)を理解出来るよう前もって連絡や表示を行うこととする。全面通行止めの場合は遅くとも 10 日前、片側

交互相行の場合は7日前には設置することとする。

4 本工事において仮駐車場が必要となった場合は、受注者において確保、手配すること。また、仮駐車場として借用した土地については原形復旧し、土地所有者の確認を受けて返すこと。

5 現場管理費には、工事期間中、月一回半日以上の安全教育・研修訓練等の費用が含まれているので必ず実施しなければならない。また、実施計画を施工計画書に記載し、実施状況がわかる資料をしゅん工時に提出しなければならない。

6 受注者は、苦情等があった場合、丁重に対応し、直ちに工事監督員に報告しなければならない。

(施 工 条 件 明 示)

注) 明示事項がない場合は、「無し」と記入する

工 事 件 名		令和8年度 市道豊科1級26号線管路延伸ほか工事			
1. 工 程 関 係	・ 工期は、(令和一年一月一日)とする。207日間(標準工期) 上記期間には、休日数、作業不能日数、各種届出等期間、社会的制約条件等、作業編成、手直し期間等を含む。 ・ 本工事は下記の関係機関、地域住民と協議を要する。				
	関 係 機 関 名		届出・協議事項		時 期
	道路管理者(市・維持管理課) 道路管理者(県安曇野建設事務所)		道路通行制限願い		着手前
	安曇野警察署		道路使用許可		着手前
	市学校教育課、小中学校、認定こども園、明科高校		小中学校通学路、バス運行、通園路、生徒の通学、各種行事調整		着手前
	地元区・沿線住民・店舗、事業所		工事説明・交通規制等		着手前
	水路管理者(土地改良・水利組合)		水止め・水替の放流		着手前
	工事支障物件の管理者		占用物付近の施工について		着手前
	安曇野市 生活環境保全課		ゴミステーションの移動・収集運搬業者の通行		着手前
	公共交通機関（あづみん）		通行制限について		着手前
	NTT、中部電力、あづみ野テレビ		電柱、架空線、地下埋設物等		着手前
	その他		必要に応じて		適時適切に対応
	2. 用 地 関 係	無し			
3. 公 害 対 策 関 係	・ 指定工種において排出ガス対策型建設機械を使用すること。(別紙-1 参照)				
4. 安 全 対 策 関 係	・ 本工事における交通整理員は、下記のとおり配置を計上している。 ・ 人工数は任意扱いの参考値であるため、入札にあたり留意すること。なお、近接工事などで交通量が著しく増減した場合や、道路管理者等からの要請により現場条件に著しい変更が生じた場合を除き原則として設計変更の対象としない。				
	工種	配置場所	配置員数	実日数	備考
	管路・撤去工	起終点部	2名	昼	

5. 仮 設 備 関 係	任意仮設 (1)土留工 ・スライドレール式建て込み簡易土留工を想定している。また、土留材は、1 セット 30mを現場搬入とし、100%の設置としている。 ・小口止め及び土留の調整箇所は、軽量鋼矢板等を使用すること。 ・横断構造物等は、一時撤去・原形復旧とする。なお、事前協議を実施すると共に詳細図及び数量等の資料を提出すること。				
6. 建設副産物関係	本工事の施工において生じる特定建設資材の処分については、下記の搬出先を想定して、処分費、運搬費を計上している。(受注者の都合による処分先の変更は原則として設計変更しない。) ○建設発生土				
	搬出先の名称	処分費	運搬距離	処理施設の所在地	
	穂高クリーンセンター	0 円	7.3km	安曇野市穂高北穂高 1950-1	
	○特定建設資材（建設リサイクル法）				
	種 別	処分条件	処分先	数量	運搬距離
	アスファルト (掘削廃材)	再利用	共和リテック(株)	6.2 t	9.1km
	コンクリート (無筋)	再利用	共和リテック(株)	0.5 t	9.1km
7. 工事支障物件等	コンクリート (二次製品)	再利用	共和リテック(株)	3.0 t	9.1km
	・無し				
	8. 排水工（濁水 処 理 含 む）				
・本工事により発生する排水は直接放流せず沈殿（沈砂）処理等を行い、各法令を守り自然環境等、悪影響を及ぼすことのないよう処理すること。 ・指示のある場合を除き、付近の公共用水域、排水用水路等に排水すること。 ・沈殿槽（沈砂）は、定期的に清掃し放流先水路等への土砂堆積防止を図り、工事完了後は放流水路の清掃（土砂上げ）を実施すること。 ・排水路下流に、ます池やわさび田があるので現地を十分確認し、管理者と協議、及び承諾を得ること。					
9. 薬液注入関係	・地下水の影響を受けるため、渇水期（1月から3月）の施工ができるよう作業工程の調整を行うこと。				

10. 占 用 条 件 関 係	・本工事は、車両通行止め を想定している。 ・長野県道路占用基準及び安曇野市掘削条件による。 ・掘削許可及び道路通行制限等の申請書の内容について、監督員による確認後、関係機関に提出すること。 ・掘削区間は出来るだけ短くし、事故防止等の対策を講じること。 ・舗装切断幅は、残舗装への影響が懸念されることから設計値とすること。 なお、工事施工に伴う残舗装の破損は、受注者の責任において復旧すること。運搬経路も同様。 ・未舗装道路の路面復旧は設計書のとおりとする。
11. 環 境 保 全	・掘削工事は、周辺構造物や地表への影響が出ないように、適切に管理を行い、沈下や陥没等が生じた場合は公衆災害防止措置を直ちに講じるとともに、速やかに監督員に報告すること。また、その指示に従い対応に当たること。
12. その他	・工事説明会 済 ・ 有（未定）・無=戸別説明 規制の伴う掘削開始は、施工計画書の決裁及び説明会（個別説明）終了後7日経過後とする。 ・現場を熟知した上、当該現場に合致した施工計画書の作成に心掛け提出すること。なお、規制の伴う現場掘削工事等は各種提出書類を監督員が受諾した後とする。 ・本工事により発生する建設発生土（残土）は原則として、別途指定する場所へ搬入すること。なお、建設発生土（残土）搬入に係る適否判定フローにより、適用外となった建設発生土（残土）は指定処分とする。（変更対象とする） ・圧送管の切り替えについては、吉野2号マンホールポンプ場の稼働時間を考慮して、施工計画を立てること。

上記定めがない事項については、国土交通省「下水道土木工事共通仕様書（案）」、長野県土木部監修「土木工事共通仕様書」「現場管理の手引き」「現場管理における実務要覧」「下水道工事の手引き」「安曇野市下水道工事特記仕様書」によるものとする。

排出ガス対策型建設機械の使用

- 1 本工事において、下記 7 に示す建設機械を使用する場合は、「排出ガス対策型建設機械指定要領（平成 3 年 10 月 8 日付建設省経機発第 249 号）」に基づき指定された排出ガス対策型建設機械を使用するものとする。
- 2 排出ガス対策型建設機械を使用できない場合は、平成 7 年度建設技術評価制度公募課題「建設機械の排出ガス浄化装置の開発」、またはこれと同等の開発目標で実施された民間開発建設技術の技術審査・証明事業、あるいはこれと同等の開発目標で実施された建設技術審査証明事業により評価された排出ガス浄化装置を装着することで、排出ガス対策型建設機械と同等とみなす。
- 3 施工計画書に、排出ガス対策型建設機械あるいは排出ガス浄化装置を装着した建設機械を使用することを明記すること。ただし、これらを使用することができない場合は、下記 4 のとおり監督員と協議するものとする。
- 4 排出ガス対策型建設機械あるいは排出ガス浄化装置を装着した建設機械を調達できない場合とは、次を示す。
 - (1) 工事地域周辺の市町村にあるリース業者に、排出ガス対策型建設機械あるいは排出ガス浄化装置を装着した建設機械の在庫がない。
 - (2) 工事地域周辺のメーカーの販売店から排出ガス対策型建設機械あるいは排出ガス浄化装置を装着した建設機械を調達するのに大幅な時間がかかる。この場合は受注者が、上記（1）（2）について、リース業者名又は販売店名を記入した上で、施工協議書を監督員へ提出すること。
- 5 排出ガス対策型建設機械あるいは排出ガス浄化装置を装着した建設機械を使用する場合、現場代理人は施工現場において、使用する建設機械の写真撮影を行い、監督員に提出するものとする。この写真は、機械の形式または指定ラベルあるいは認定ラベルが明瞭に写っているものであること。
- 6 下記 7 に示す機種について、上記 4 による施工協議で排出ガス未対策型建設機械（従来型）の使用が認められ場合、および上記 5 によって排出ガス対策型建設機械の使用が確認できない場合は、従来型へ設計変更する。

7 排出ガス対策型建設機械を原則使用とする機種

機 種	備 考
一般工事用建設機械 ・ バックホウ ・ トラクタショベル ・ ブルドーザ ・ 発動発電機（可搬式） ・ 空気圧縮機（可搬式） ・ 油圧ユニット （以下に示す基礎工事用機械のうち、ベースマシンとは別に、独立したディーゼルエンジン駆動の油圧ユニットを搭載しているもの； 油圧ハンマ、バイブロハンマ、油圧式鋼管圧入・引抜機、油圧式杭圧入引抜機、アースオーガ、オールケーシング掘削機、リバースサーキュレーションドリル、アースドリル、地下連続壁施工機、前回転型オールケーシング掘削機） ・ ロードローラ、タイヤローラ、振動ローラ ・ ホイールクレーン	ディーゼルエンジン（エンジン出力7.5kW以上260kW以下）を搭載した建設機械に限る。

安曇野市下水道工事施工基準

安曇野市上下水道部下水道課

工事における提出書類一覧表

請負契約後提出書類

種 類	内 容	頻 度
1 現場代理人、主任技術者の通知	技術経歴書の添付	契約毎
2 技術者報告書の提出	技術者の雇用関係証明書類添付	契約毎
3 社会保険証の写し	現場代理人、主任技術者及び監理技術者のもの	契約毎
4 建退協掛金収納書の提出	800万円以上の工事では契約後1ヶ月以内に提出する。	契約毎
5 工事カルテの提出	工事金額が500万円以上の場合、契約後10日以内にJACIC((財)日本建設情報総合センター)のコリズシステムへ登録し、その「工事カルテ受領書」の写しを提出する。	1回
6 下請負人通知書	原則不要	R3/3/2工事書類簡素化ガイドライン
7 施工体制台帳及び施工体系図	下請契約がある場合には、全ての工事において作成し提出する。	写しを協議書に添付すること。契約毎
8 前金払請求書	受注者において前払い金が必要な場合	1回
9 その他	発注者及び受注者で必要なもの。	必要回数

工事着手前提出書類

種 類	内 容	頻 度
1 工事施工計画書		契約毎
2 工事施工協議書	起工測量結果表等	工事着手後直ちに工事測量を行い、結果を監督員に提出する。契約毎
	汚水桝調査結果表等	契約毎
	予想出来型展開図	設計図書を基に起工測量結果を考慮して予想出来形展開図を作成する。(発注図面の利用及び舗装面積展開図) 契約毎
	材料承認願	人孔ブロック、鉄蓋、管類等、生コンクリート、アスファルト合材、骨材、その他工事に使用する全ての材料。 契約毎
3 事前調査結果書	図面との不一致協議	必要回数
	周辺調査・地下埋設物調査・家屋調査・その他各種事前調査資料など	契約毎
4 その他	監督員の指示するもの。	必要回数

工事における提出書類一覧表

工事中提出書類

種 類	内 容	頻 度
1 工事施工協議書	協議事項	必要回数
	材料承認願い	必要回数
	予想出来型展開図	必要回数
2 技術者等変更通知書	現場代理人、主任技術者等の変更	必要回数
3 工期延長申請書	受注者の責により工期延長する場合	必要回数
4 監督員指示書	監督員の指定するもの	必要回数
5 工事変更施工計画書	施工延長の変更、技術者等の変更、工期変更及び下請に変更があった場合	変更毎に
6 施工体制台帳及び施工体系図	下請契約に変更が生じた場合及び追加が生じた場合は提出する。	契約毎
7 事故報告書	事故があった場合	必要回数
8 80%予想出来形展開図	平面図・縦断図・舗装展開図・取付管及び汚水桝調書及び雑工関係	80%出来形
9 工事カルテの提出(変更時)	500万円以上の工事全て。なお、登録期限は変更契約時から10日以内とする。ただし、しゅん工時登録と変更時登録の間が10日以内であれば、変更時登録を省略し、しゅん工時に登録することが出来る。	変更契約毎
10 検査記録票(段階確認用)	監督員が指定した場合には提出すること。	必要回数
11 出来形確認申請書	受注者において部分払いが必要な場合	部分払を請求する回数は、安曇野市財務規則第137条による。
12 出来形検査結果通知書		
13 部分払請求書		
14 その他	監督員の指示するもの。	必要回数

工事完成時提出書類

種 類	内 容	頻 度
1 コリンス登録書(しゅん工時)	500万円以上の工事全て。登録期限はしゅん工日から10日以内とする。現場代理人、主任技術者の変更時も登録する。	しゅん工時
2 しゅん工届		しゅん工時
3 請求書		しゅん工時

工事における提出書類一覧表

しゅん工書類

種 類		内 容		頻 度
1	目次			契約毎
2	経緯表		施工協議書の受け渡し内容、指示書などを日付順にまとめ	契約毎
3	施工協議書	発注者側からの協議書(指示書)も含む	日付順にまとめる。	契約毎
4	実施工程表			契約毎
5	工事記録簿(工事日誌)		工期中は空白を作らず、計画・準備・書類整備等も記入すること。	契約毎
6	監督日誌			必要回数
7	検査記録表	検査記録表	各工種すべて	出来形管理基準による
		管路施工管理図表	基準高、蛇行	5m毎に1箇所
8	使用材料集計表	下記材料の集計として		契約毎
9	各種材料受払簿	下記各種材料の集計		契約毎
10	使用材料伝票類	使用材料全て(しゅん工書類には添付不用だが、検査時に持参)	検査終了年度から5年間会社管理すること。	契約毎
11	100%出来形展開図	平面図・縦断図・舗装展開図・取付管延長・汚水桝深	工事完成時の設計寸法を()により記入し、実測寸法を()の外に記入する。	契約毎
12	調書	マンホール組合せ調書・取付管調書・汚水桝調書		契約毎
13	材料試験結果	埋戻材(発生土・砕石)密度・アスファルト(厚さ・密度)・コンクリート		品質管理基準による
14	管内調査資料	DVD、社内調査結果資料など		契約毎
15	環境調査・事前調査			契約毎
16	再生資源利用計画書 再生資源利用促進計画書		計画書は当初施工計画書に写しを添付し、実施書は媒体を添えて写しを提出する。	必要回数
17	産業廃棄物処理表	A、B2、D、E表の写しを最初、中間、最終を提出すること	検査終了年度から5年間会社管理すること。	写真も一緒にまとめる
18	社内検査資料	書類検査時写真及び検査記録表など		契約毎
19	工事写真		着工、竣工、管路工、マンホール工、取付管・桝工、附帯工、その他の順番で綴る。	契約毎
20	安全教育資料		写真や安全教育資料など	契約毎
22	交通整理員集計表	伝票を集計したものを添付する。(伝票は使用材料伝票類と一緒に綴ること)	検査終了年度から5年間会社管理すること。	契約毎
23	舗装コア	検査時に持参	検査終了年度から5年間会社管理すること。	検査毎
24	確認書、公共ます設置申請書及び同意書など	地権者の署名、㊟など	支所毎で相違しているの、旧町村毎で使用していたもので良い。	必要毎
25	その他	監督員が指示するもの		必要回数

開削工写真撮影一覧表

区 分	工 種	写 真 管 理 項 目			備 考	
		撮影項目	撮影時期	提出頻度		
着工前・完成	着工前	全景(下流から上流に向 かって撮影し、最上流スパン については、上流から下流 に向けても撮影すること)	着工前	着工前各1回		
	完成	着工前と同じ	完成後	完成後各1回		
自然流下管布設工	掘削	予掘り状況	施工中	3スパン1回		
		掘削状況				
		掘削深さ	床掘完了後	1スパン1回		
		掘削幅				
	床均し	床均し状況	施工中	3スパン1回		
		土留工	建込み状況	施工中	1スパン1回	
			設置状況			
	引抜き状況					
	発生土処分	積込み状況 (工事箇所から仮置場へ)	積込み中	3スパン1回		
				過積載の確認		
		積込み状況 (仮置場から処分場への搬 出)	積込み中	中間で1回		
				過積載の確認		
		処分状況 (仮置場含む)	積卸し	処分地及び仮置場 が異なる毎に1回の 撮影とし、着工前各 1回、完成後各1回		
		処分場全景 (仮置場含む)	整地中			
			着工前			
		整地中				
		整地後				
	基礎工 (碎石基礎工も 同様)	設置及び投入状況	施工中	1スパン1回		
		転圧状況				
	管布設工	厚さ・幅	基礎工完了後	1スパン1回		
		管敷設状況(特にジョイントソ ケット取付部の状況)	施工中	1スパン1回		
	良質土埋戻し (砂埋戻しに変 更した場合も 同様)	蛇行管理状況	管布設後	3スパン1回		
		埋戻し及び投入状況	施工中	1スパン1回		
					締固め状況	
	厚さ・幅	良質土埋戻し完了 後				
	発生土埋戻し	埋戻し及び投入状況	施工中	1スパン1回		
				締固め状況		
		1層毎の厚さ・幅	1層毎の発生土埋 戻し完了後	1層毎に1スパン1回		
圧送管布設工	床掘	掘削状況	施工中	各項目とも施工延長 40mに1箇所の割合 で測定する。(離脱 防止金具設置箇所 は全て撮影し提出 すること)		
		掘削深さ	床掘完了後			
		掘削幅				
	床均し	床均し状況	施工中			
		基礎工	設置及び投入状況		施工中	
	転圧状況					
	厚さ・幅		基礎工完了後			
	管布設工	管敷設状況	施工中及び管布設 完了後			
		土留工	自然流下管に準ずること。			
	発生土処分					
	良質土埋戻し					
	発生土埋戻し					

開削工写真撮影一覧表

区 分	工 種	写 真 管 理 項 目			備 考	
		撮影項目	撮影時期	提出頻度		
組立人孔	床掘	予掘り状況	施工中	3人孔に1回。3人孔未満は全人孔に1回		
		掘削状況				
		掘削深さ	床掘完了後			
		掘削幅				
	土留工	建込み状況	施工中			
		設置状況				
		引抜き状況				
	床均し	床均し状況	施工中			
	基礎工	転圧状況及び投入状況	施工中			
		厚さ・幅・長さ	基礎工完了後			
	ブロック据付工	据付状況(底版・躯体・直壁・斜壁・調整リング)	施工中	人孔毎に各1回		
		シール材及びゴム材の塗布状況				
		据付後状況	施工後			
	可とう継手	可とう継手設置状況	既設人孔流入箇所	設置箇所毎に1回		
			可とう継手は、組立人孔ブロック据付において撮影すること。	3人孔に1回。3人孔未満は全人孔に1回		
	削孔	削孔状況	既設人孔流入箇所	削孔箇所毎に1回		
	発生土埋戻し	埋戻し及び投入状況	施工中	3人孔に1回。3人孔未満は全人孔に1回		
		締固め状況				
		1層毎の厚さ	発生土埋戻し完了後			
	人孔蓋据付	据付状況	施工中	3人孔に1回。3人孔未満は全人孔に1回		
		モルタル打設状況				
	インバート工	既設インバート状況	着工前	インバート毎に1回		
		出来形状況	施工後			
		コンクリート打設状況	施工中	3人孔に1回。3人孔未満は全人孔に1回		
	副管工	管設置状況	施工中	副管毎に1回		
		コンクリート打設状況、型枠設置状況				
		出来形状況	施工後			
小型人孔	床掘	掘削状況	施工中	小型人孔毎に各1回		
		掘削深さ				
		掘削幅	床掘完了後			
	床均し	床均し状況	施工中			
	基礎工	転圧状況	施工中			
		厚さ・幅	基礎工完了後			
	据付工	据付状況(インバート、立管、レジン製品など)	施工中			
		据付後状況	施工後			
	人孔蓋据付	据付状況	施工中			
		モルタル打設状況(レジン)				
		据付後状況			施工後	
	土留工	自然流下管に準ずること。				
	発生土処分					
	良質土埋戻し					
	発生土埋戻し					

開削工写真撮影一覧表

区 分	工 種	写 真 管 理 項 目			備 考
		撮影項目	撮影時期	提出頻度	
取付管工・ 汚水枿工	着工前	全景	着工前	汚水枿着工前1回	
	完成	全景	完成後	汚水枿完成後1回	
	掘削	予掘り状況	施工中(取付管工 及び汚水枿工毎に 1回)	取付管及び汚水枿5 箇所に1回	
		掘削状況			
		掘削深さ	床掘完了後(取付 管工及び汚水枿工 毎に1回)	取付管及び汚水枿 毎に1回	
		掘削幅			
	基礎工	設置及び投入状況	施工中	取付管1箇所に1回	
		転圧状況			
		厚さ・幅	基礎工完了後		
	汚水枿設置工	汚水枿設置状況	施工中	汚水枿1箇所に1回	
			施工後		
	管布設工	管敷設状況	施工中	取付管1箇所に1回	
			施工後		
	良質土埋戻し	埋戻し及び投入状況	施工中	取付管及び汚水枿5 箇所に1回	
		締固め状況			
		厚さ	施工後		
	発生土埋戻し	埋戻し及び投入状況	施工中	取付管及び汚水枿5 箇所に1回	
		締固め状況			
		1層毎の厚さ	施工後		
	土留工	予掘り状況	施工中	建込み箇所毎に1回	
		建込み状況			
		設置状況	施工後		
		引抜き状況			
防護蓋据付	据付状況	施工中	設置箇所毎に1回		
附帯工	舗装切断	切断状況	施工中	3スパン1回	
	舗装取壊し	取壊し状況	施工中	3スパン1回	
		積込状況			
		現況舗装厚の検測		適宜	
	路盤工	敷均し厚	施工中	各層毎100mに1回	
		転圧状況			
		整正状況	整正後	各層毎100mに1回	
		厚さ	整正後	各層毎40mに1回	
		幅	整正後	各層毎40mに1回	
	碎石埋戻し	埋戻し及び投入状況	施工中	1スパン1回	
		締固め状況			
		1層毎の厚さ	1層毎の碎石埋戻 し完了後		
		1層毎の幅			
	表層工	敷均し厚	施工中	各層毎100mに1回	
		転圧状況			
		整正状況	整正後	各層毎100mに1回	
		厚さ	整正後	200㎡に1回	
幅		整正後	各層毎40mに1回		

開削工写真撮影一覧表

区 分	工 種	写 真 管 理 項 目			備 考
		撮影項目	撮影時期	提出頻度	
共通仮設	水替工	ポンプ設置状況	施工中	1施工箇所1回	
		排水状況(吐出先の状況)			
		形状寸法		ポンプ規格が異なる場合は都度1回	
	仮橋工	設置状況	設置前	1施工箇所1回	
		形状寸法	施工中		
			撤去後		
	仮設電気	設置状況	設置前	1施工箇所1回	
		形状寸法	施工中	異なる箇所に設置した場合は都度1回	
			撤去後		
	土地借上げ	借上げ状況	使用前	使用前1回	
			使用中	使用中1回	
			使用後	使用後1回	
	安全施設	各種標識類の設置	設置後	種類毎に1回	
		各種保安施設の設置			
		開口部における昼間及び夜間の安全管理写真		種類毎に1回	
		転落防止柵の設置			
		昇降梯子の設置	作業中	3スパン1回	
		監視員・交通整理状況		配置箇所毎に1回	
		安全訓練の実施状況	実施中	実施毎に1回	
使用材料	使用材料	形状寸法	使用前	使用品目及び使用部材毎に1回	
		検査実施状況	検査時	検査毎に1回	
使用機械	使用機械		使用前	機械毎に1回	
品質管理	路床・路体	現場密度の測定	試験実施中	試験毎に1回	
	路盤工	締固め密度測定	試験実施中	路盤毎に1回	
		ブルーフローリング測定	試験実施中	路盤毎に1回	
	アスファルト舗装(舗設現場)	温度測定	試験実施中	合材の種別毎に1回	
		密度試験			
		採取コア量抽出			
		粒度分析試験			
		摩り抵抗試験			
	コンクリート	スランプ試験	試験実施中	試験毎に1回	
		圧縮強度試験			
		塩化物含有量試験			
		空気量測定			
その他	補償関係	被害又は損害状況等	発生時 対応状況後	その都度	
	環境対策	各施設設置状況	設置後	種別毎に1回	
	事前調査	樹木、ブロック塀、家屋のクラックなど	着工前	実施箇所毎に1回	
		地下埋設物調査	調査後	実施箇所毎に1回	
	建退協	建退協への加盟写真	実施中	1回	
	安全教育	実施状況	実施中	実施毎に1回	
	KY活動	実施状況	実施中	適宜	

- ※1 その他必要な項目がある場合は、当該監督員と協議して決定すること。その際は、協議書を添えて協議すること。
- ※2 現場における黒板及びホワイトボードへ設計値及び実測値を記入すること。また、書類整備においても写真の横にある余白へ設計値及び実測値を記入すること。
- ※3 しゅん工書類には、区分毎及び測点毎にインデックスをつけること。

出来形管理基準及び規格値

出 来 形 管 理 基 準							出 来 高 の 規 格 値						
工 種	測 定 項 目						測 定 基 準	備考	検 査 対 象		規格値(mm)	備考	
	基準高	厚さ	幅	高さ	長さ	その他			工種	項目			
土 工	○		○	○			マンホール間ごと1箇所測定する。		土工	基準高 EL	±30		
										深さ h	±30		
										幅 B	-50		
砂基礎工	○	○	○				各マンホール間の中央部及び両端部等で測定する。		砂基礎	基準高 EL	±30		
										幅 B	-50		
										厚さ h	設計厚以上		
砕石基礎工	○	○	○				マンホール間の中央部及び両端部等を測定する。		砕石基礎	基準高 EL	±30		
										幅 B	-50		
										厚さ h	設計厚以上		
管渠工(自然流下管)	○				○	○	基準高及び蛇行は5mに1箇所毎に測定する。		自然流下管	基準高 EL	±30		
										幅 B	-50		
										厚さ h	-30		
							延長lはマンホール間を測定する。 上記を積上げた数値とする。				蛇行	管内径の5%以内 (左右の合計値)	
											勾配	逆勾配は認めない	
											延長 ℓ	-ℓ/500以内	
管渠工(圧送管)	○				○	○	施工延長40mに1箇所の割合で測定する。		圧送管	基準高	±30		
										中心線の変位(水平)	±50		
										総延長	-200		
良質土埋戻工	○	○	○				マンホール間ごと1箇所測定する。		良質土埋戻し	基準高 EL	±30		
発生土埋戻工	○	○	○				マンホール間ごと1箇所測定する。		発生土埋戻し	基準高 EL	±30		
下層路盤工		○	○				幅は40mに1箇所、厚さは200mに1箇所それぞれ測定する。		路盤工	厚さ t	-45		
										幅 B	-50		
上層路盤工		○	○				幅は40mに1箇所、厚さは200mに1箇所それぞれ測定する。		路盤工	厚さ t	中規模以上-25 小規模以上-30		
										幅 B	-50		
表層工		○	○				幅は40mに1箇所、厚さは1,000㎡に1箇所それぞれ測定する。		表層工	厚さ h2	中規模以上-7 小規模以上-9		
										幅 B	-25		
組立マンホール工(小型マンホールも同マンホール基礎工)	○	○	○	○		○	マンホール毎に測定する。		マンホール	天端高 EL	±30		
										管底(上流) EL1	±30		
										管底(下流) EL2	±30		
		○	○		○		マンホール毎に測定する。		基礎工	幅・長さ	-20		
										厚さ	-20		
取付管及び柵工				○			公共柵毎に測定する。		公共柵	柵深 h	±30		
							公共柵毎に測定し、公共柵の中心から本管中心まで測定する。なお、人孔へ直接流入する場合は公共柵の中心より人孔中心までを測定後、人孔内径分を控除すること。		取付管	長さ L	-200		

資材単価等について

令和８年度市道豊科１級26号線管路延伸ほか工事に係る工事費の積算にあたっては、長野県建設部の「令和８年度実施設計単価表」や積算資料（財団法人経済調査会）及び建設物価（財団法人建設物価調査会）に設定されている単価により予定価格を算出しています。

また、見積もり等による単価は下記のとおりです。

なお、使用した単価は予定価格算出のものであり、特定の製品や民間取引を指定したものではありません。

見積等により決定している設計単価

(円)

[illegible]

1-1. 数量計算書

(当初)

上段
下段
当初
変更

工事名：令和8年度(市単)市道豊科1級26号線管路延伸工事【豊科地区 PRP φ200】(市単分)

工事場所：安曇野市 豊科

安曇野市 上下水道部下水道課

Ver.8.00

(工事名) 令和8年度(市単)市道豊科1級26号線管路延伸工事【豊科地区 PRP φ 200】(市単分)

Ver.8.00

数量集計表

工 種	種 別	規格・形状	計 算	数 量	
	路線延長	φ 200mm		171.8	m
	管渠延長	下水道用リブ付硬質塩化ビニル管200mm		166.4	m
管布設工	リブ付硬質塩化ビニル管	φ 200×4.0m		41.6	本
	可とう継手	φ 200mm		12	個
	管布設工			166.4	m
	埋設標示シート (茶)	W=400mm		166.4	m
	埋設標示テープ (茶)	W=30mm		166.4	m
	(土 工 事)				
	掘 削 工	0. 28m3級 B. H		318	m ³
		0. 45m3級 B. H			m ³
		0. 8m3級 B. H			m ³
	砕石基礎工	(機械投入) 0. 28m3級 B. H		58	m ³
		(機械投入) 0. 45m3級 B. H			m ³
		(機械投入) 0. 8m3級 B. H			m ³
		路盤材再利用(t=20cm)		-	m ³
	砕石基礎購入量	再生クラッシャーラン(RC40)		58	m ³
	良質土埋戻工 (管上10cm～30cm)	良質発生土		33	m ³
		良質発生土			m ³
		良質発生土			m ³
		良質発生土			m ³
	埋 戻 工	発生土		218	m ³
		発生土			m ³
		発生土			m ³
		発生土			m ³
	残土処分工	機械積込み 0. 28m3級 B. H		39	m ³
		機械積込み 0. 45m3級 B. H			m ³
		機械積込み 0. 8m3級 B. H			m ³
	(山 留 工)	平均掘削深	1.95m	171.8	m
	建込み簡易土留	H=1. 5型			m
		H=2. 0型	平均H=1.95	128.6	m
		H=2. 5型	平均H=1.97	43.2	m
		H=3. 0型			m
		H=3. 5型			m
		H=4. 0型			m
		H=4. 5型			m
		H=5. 0型			m
		H=5. 5型			m
		H=6. 0型			m
	土留材運搬	搬入及び搬出		14.6	t

数量集計表

工 種	種 別	規格・形状	計 算	数 量
マンホール設置工	(1号組立マンホール)			
	マンホール鉄蓋	不法投棄防止、除雪対応型 T-14		組
		不法投棄防止、除雪対応型 T-25		6 組
	転落防止梯子(SUS)	仕様書による		6 個
	マンホール底板	外径1100×130		6 個
	底部工	砕石基礎 RC40-0	T=20cm 0.95㎡/箇所	5 ㎡
		インバート工 18-8-40BB+モルタル(1:3)仕上げ		6 箇所
				箇所
	躯体ブロック	H=600		個
		H=900		個
		H=1200		個
		H=1500		個
		H=1800		6 個
	直壁ブロック	H=300		個
		H=600		個
		H=900		個
		H=1200		個
		H=1500		個
		H=1800		個
	斜壁ブロック	H=300		個
		H=450		3 個
		H=600		3 個
	調整リング	t=5		個
		t=10	(3+2×2)	7 個
		t=15		1 個
		t=20 (t=10×2)	製品なし	(2) 個
	削 孔	150mm (副管部)		箇所
		200mm (本管部)		5 箇所
		150mm 取付管部		箇所
	ブロック据付工	H=3m以下		6 箇所
		H=3m超～H=4m以下		箇所
		H=4m超～H=5m以下		箇所
	(副管設置工)	200×150		箇所
	直管	150mm 1箇所当		m
	支管	200×150		本
	カラー管	150mm		本
	曲管	150mm		本
	コンクリート	18-8-25(BB) 1箇所当		3 m
	型枠	1箇所当		2 m

(工事名)

数量集計表

[illegible]

数量集計表

[illegible]

令和8年度(市単)市道豊科1級26号線管路延伸工事【豊科地区PRPφ200】(市単分)

数量	线段	表格	上段:当初
1	1	1	1
2	3	3	3
3	6	6	6
4	10	10	10
5	15	15	15
6	21	21	21
7	28	28	28
8	36	36	36
9	45	45	45
10	55	55	55
11	66	66	66
12	78	78	78
13	91	91	91
14	105	105	105
15	120	120	120
16	136	136	136
17	153	153	153
18	171	171	171
19	190	190	190
20	210	210	210
21	231	231	231
22	253	253	253
23	276	276	276
24	300	300	300
25	325	325	325
26	351	351	351
27	378	378	378
28	406	406	406
29	435	435	435
30	465	465	465
31	496	496	496
32	528	528	528
33	561	561	561
34	595	595	595
35	630	630	630
36	666	666	666
37	703	703	703
38	741	741	741
39	780	780	780
40	820	820	820
41	861	861	861
42	903	903	903
43	946	946	946
44	990	990	990
45	1035	1035	1035
46	1081	1081	1081
47	1128	1128	1128
48	1176	1176	1176
49	1225	1225	1225
50	1275	1275	1275
51	1326	1326	1326
52	1378	1378	1378
53	1431	1431	1431
54	1485	1485	1485
55	1540	1540	1540
56	1596	1596	1596
57	1653	1653	1653
58	1711	1711	1711
59	1770	1770	1770
60	1830	1830	1830
61	1891	1891	1891
62	1953	1953	1953
63	2016	2016	2016
64	2080	2080	2080
65	2145	2145	2145
66	2211	2211	2211
67	2278	2278	2278
68	2346	2346	2346
69	2415	2415	2415
70	2485	2485	2485
71	2556	2556	2556
72	2628	2628	2628
73	2701	2701	2701
74	2775	2775	2775
75	2850	2850	2850
76	2926	2926	2926
77	3003	3003	3003
78	3081	3081	3081
79	3160	3160	3160
80	3240	3240	3240
81	3321	3321	3321
82	3403	3403	3403
83	3486	3486	3486
84	3570	3570	3570
85	3655	3655	3655
86	3741	3741	3741
87	3828	3828	3828
88	3916	3916	3916
89	4005	4005	4005
90	4095	4095	4095
91	4186	4186	4186
92	4278	4278	4278
93	4371	4371	4371
94	4465	4465	4465

上段：当初

下段:變更

内径 200 mm 下水道用リブ付塩化ビニール管

[illegible][illegible]

加重平均深	1.95	1.97							1.95
-------	------	------	--	--	--	--	--	--	------

[illegible][illegible][illegible][illegible]

埋設標示 シート	(茶) W=400mm ----- m	166.4
埋設標示 テープ	(茶) W=30mm ----- m	166.4

令和8年度(市単)市道豊科1級26号線塙路延伸工事【豊科地区PRPφ200】(市単分)

内径 200 mm 下水道用リブ付硬質塩化ビニル管

令和8年度(市単)市道豊科1級26号線管路延伸工事【豊科地区PRPφ200】(市単分)

[illegible]

1号マンホール底部工

[illegible]

令和8年度(市単)市道豊科1級26号線管路延伸工事【豊科地区PRPφ200】(市単分)

[illegible]

建 込 み 簡 易 土 留 め 関 係 算 定 表												
(工事名) 令和8年度(市単)市道豊科1級26号線管路延伸工事【豊科地区 PRPφ200】(市単分) 当初												
項 目	単 位	PRPφ200										
		1.5	2.0	2.5	3.0	3.5	4.0	4.5	5.0	5.5	6.0	合計
1 算定条件												
掘削幅 W	m		0.95	0.95								工区平均 1.96
平均掘削深 H	m		1.95	1.97								
予掘深 H-H'	m		1.00	1.00								
バックホウ												
バケット容量 q	m3		0.2	0.2								
バックホウの1日当り掘削作業量 D	m3/日		59	59								
作業能力 Q=D/Tb	m3/hr		10.73	10.73								
運転日当り運転時間 Tb	hr		5.5	5.5								
トラッククレーン												
規 格	t		4.8～4.9	4.8～4.9								
2 建込み歩掛りの算定(10m当り)												
建込み時間 TA=H'×W×10/Q+BH運転時間	hr		1.941	2.159								
BH運転時間	hr		1.10	1.30								
3 引抜き歩掛り(10m当り)の算定												
引抜き時間 TB=TC運転時間	hr		0.120	0.140								
TC運転時間	hr		0.12	0.14								
4 日数の算定												
(1)工程別日進量												
掘削建込み工												
建込み時間より L1=10/(TA/Tb)	m/日		28.34	25.47								
砕石基礎工・砕石埋戻工(機械投入・d=0.206)												
1m当りの基礎砕石量 V1=(d+0.4)×W-d^2×π/4	m3/m		0.54	0.54								
タンバ転圧量より L2=(36m3/日)/V1	m/日		66.67	66.67								
管布設工												
作業人員より L3=(1m/0.020人)	m/日		50.00	50.00								
埋戻工(機械)												
1m当りの埋戻量 V2=W×(H-0.606-1.0)	m3/m		0.33	0.35								
タンバ転圧量より L4=(36m3/日)/V2	m/日		109.09	102.86								
引抜き工												
引抜き時間より L5=10/TB	m/日		83.33	71.43								
(2)30m当たりの所要日数												
建込み工 D1=30/L1	日		1.1	1.2								
砂基礎工 D2=30/L2	日		0.4	0.4								
管布設工 D3=30/L3	日		0.6	0.6								
埋戻工 D4=30/L4	日		0.3	0.3								
引抜き工 D5=30/L5	日		0.4	0.4								
(3)賃料日数												
30m当りの損料日数												
D=(D1/2+D2+D3/2+D4)×1.77	日		2.7	2.8								
日進量 ΔL=30/D	m/日		11.1	10.7								
施工延長 L01	m		128.60	43.20								171.80
(使用)締め切り面積=L01×H×2	m²		501.54	170.21								671.75
施工延長に対する賃料日数 D01=D/30×L01	日		11.6	4.0								15.6
(4)水替日数(常時排水)												
30m当りの水替日数												
D=(D1/2+D2+(D3+D4)/2)×1.77	日		2.5	2.6								
施工延長 L02	m		128.60	43.20								171.80
施工延長に対する水替日数 D02=D/30×L02	日		10.7	3.7								14.4
(5)水替日数(作業時排水)												
30m当りの水替日数												
D=D1/2+D2+(D3+D4)/2	日		1.4	1.5								
施工延長 L03	m		128.60	43.20								171.80
施工延長に対する水替日数 D03=D/30×L03	日		6.0	2.2								8.2
修理・損耗費補正=1/2(n+1) n=施工延長/30m		n= 171.80 / 30m = 5.0		補正 =		3.0		修理費・損耗費		360.0		

1-2. 数量計算書

(当初)

上段
下段
当初
変更

工事名： 令和8年度(市単)市道豊科1級26号線管路延伸工事【豊科地区 PRP φ200】(補償分)

工事場所： 安曇野市 豊科

安曇野市 上下水道部下水道課

Ver.8.00

数量集計表

工 種	種 別	規格・形状	計 算	数 量	
	路線延長	φ200mm		42.7	m
	管渠延長	下水道用リブ付硬質塩化ビニル管200mm		40.0	m
管布設工	リブ付硬質塩化ビニール管	φ200×4.0m		10.0	本
	可とう継手	φ200mm		5	個
	リブ受ローVU差し口変換継手	φ200×0.28m(0.53-0.25)		1	本
	管布設工			40.0	m
	埋設標示シート (茶)	W=400mm		40.0	m
	埋設標示テープ (茶)	W=30mm		40.0	m
	(土 工 事)				
	掘 削 工	0.28m3級 B. H		25	m ³
		0.45m3級 B. H		82	m ³
		0.8m3級 B. H			m ³
	砕石基礎工	(機械投入) 0.28m3級 B. H		4	m ³
		(機械投入) 0.45m3級 B. H		12	m ³
		(機械投入) 0.8m3級 B. H			m ³
		路盤材再利用(t=20cm)		-	m ³
	砕石基礎購入量	再生クラッシャーラン(RC40)		16	m ³
	良質土埋戻工 (管上10cm~30cm)	0.28m3級 B. H	良質発生土	2	m ³
		0.45m3級 B. H	良質発生土	7	m ³
		0.8m3級 B. H	良質発生土		m ³
	埋 戻 工	0.28m3級 B. H	発生土	16	m ³
		0.45m3級 B. H	発生土 圧送分控除 (50.3-5.93)	44	m ³
		0.8m3級 B. H	発生土		m ³
	残土処分工	機械積込み 0.28m3級 B. H		6	m ³
		機械積込み 0.45m3級 B. H	圧送控除分増加 (17.7+6.59)	24	m ³
		機械積込み 0.8m3級 B. H			m ³
	(山 留 工)	平均掘削深	2.40m	42.7	m
	建込み簡易土留	H=1.5型			m
		H=2.0型			m
		H=2.5型	平均H=2.40	42.7	m
		H=3.0型			m
		H=3.5型			m
	建込み簡易土留	H=4.0型			m
		H=4.5型			m
		H=5.0型			m
	建込み簡易土留	H=5.5型			m
		H=6.0型			m
	土留材運搬	搬入及び搬出		14.6	t

数量集計表

工 種	種 別	規格・形状	計 算	数 量
マンホール設置工	(1号組立マンホール)			
	マンホール鉄蓋	不法投棄防止、除雪対応型 T-14		組
		不法投棄防止、除雪対応型 T-25	3	組
	転落防止梯子(SUS)	仕様書による	3	個
	マンホール底板	外径1100×130	3	個
	底部工	砕石基礎 RC40-0	0.95㎡/箇所	2
		インバート工	3	㎡
		18-8-40BB+モルタル(1:3)仕上げ		箇所
				箇所
	躯体ブロック	H=600		個
		H=900		個
		H=1200		個
		H=1500		個
		H=1800	3	個
	直壁ブロック	H=300		個
		H=600		個
		H=900		個
		H=1200		個
		H=1500		個
		H=1800		個
	斜壁ブロック	H=300	1	個
		H=450	2	個
		H=600		個
	調整リング	t=5		個
		t=10	(1+1×2)	3
		t=15		1
		t=20 (t=10*2)	製品なし	(1)
	削 孔	150mm (副管部)		箇所
		200mm (本管部)	3	箇所
		150mm 取付管部		箇所
				箇所
	ブロック据付工	H=3m以下	3	箇所
		H=3m超～H=4m以下		箇所
		H=4m超～H=5m以下		箇所
	(副管設置工)	200×150		箇所
	直管	150mm 1箇所当		m
	支管	200×150		本
	カラー管	150mm		本
	曲管	150mm		本
	コンクリート	18-8-25 (BB) 1箇所当		3 m
	型枠	1箇所当		2 m

数量集計表

[illegible]

数量集計表

[illegible]

内径 200 mm 下水道用リブ付塩化ビニール管

[illegible][illegible]

鋼	本	管	孔	黄バロク	据	付工	部	工割	管	工機	子		
PPR 150mm 箇所	PPR 200mm 箇所	PPR 150mm 箇所	VU 150mm 箇所	H 1.2× 3.0m< 箇所	H 3.0m< 箇所	H 4.0m< 箇所	砕石基礎 RC40-0 H ≥4.0 箇所	インバート のみのみ 箇所	平均延長 m	直 150mm 箇所	支 200×150 箇所	管 砕石基礎工 曲 150mm 箇所	マンホール 用軒差防止 2m以上 箇所
			3				3						3

小	口	控	マ	ン	ホ	一
小口径料 ST-90Lφ300 個	小口径料 合流φ300 個	立管用支管 φ150 個	立管用支管 300-200 個	VU直管 φ300 m	保護鉄蓋 T-14 組	保護鉄蓋 T-25 組
					1.20	1

0.355H

歩道	歩道	0.355H	0.65H
歩道	歩道	0.355H	0.65H

令和8年度(市単)市道豊科1級26号線管路延伸工事【豊科地区PRPφ200】(補償分)

内径 200 mm 下水道用リブ付硬質塩化ビニル管

(書)調量数渠管(

令和8年度(市単)市道豊科1級26号線管路延伸工事【豊科地区PRPφ200】(補償分)

令和8年度(市単)市道豊科1級26号線管路延伸工事【豊科地区PRPφ200】(補償分)

[illegible]

(人孔数量調査)

令和8年度(市単)市道豊科1級26号線管路延伸工事【豊科地区 PRPφ200】(補償分)

1号組立マンホール数量表										200 mm 下水道用リブ付塩化ビニール管																								
本管内径																																		
路線番号	人孔番号	人孔深さ	組立高さ	マ現地盤高さ	マ状況高さ	管底高さ	入流管底高さ	ホ流出底高さ	一差	副管直径	管マ		ル副		マ直		ン直		木直		ル斜		材調整		料削									
											直管長	底版	管長	管径	管長	管径	管長	管径	管長	管径	管長	管径	管長	管径	管長	管径	管長	管径	管長	管径	管長	管径	管長	管径
											m	mm	m	mm	m	mm	m	mm	m	mm	m	mm	m	mm	m	mm	m	mm	m	mm	m	mm	m	mm
119-1	119-1-7	2.29	2.33	558.32		556.052	556.032		0.020		1																							
119-1	119-1-8	2.36	2.40	558.27		555.935	555.915		0.020		1																							
119-1	119-1-9	2.32	2.36	558.17		555.872	555.852		0.020		1																							
119-1	119-1-10	2.20		557.98		555.777	555.777																											

(小口径マンホール数量計算書)

本管内径 200mm 下水道用リブ付塩化ビニール管

令和8年度(市単)市道豊科1級26号線管路延伸工事【豊科地区PRPφ200】(補償分)

合	当	初
計	變	更

建 込 み 簡 易 土 留 め 関 係 算 定 表												
(工事名) 令和8年度(市単)市道豊科1級26号線管路延伸工事【豊科地区 PRPφ200】(補償分) 当初												
項 目	単 位	PRPφ200										
		1.5	2.0	2.5	3.0	3.5	4.0	4.5	5.0	5.5	6.0	合計
1 算定条件				$\downarrow (0.95 \times 11.3 + 1.1 \times 31.4) / 42.7$								
掘削幅 W	m			1.06								工区平均 2.40
平均掘削深 H	m			2.40								
予掘深 H-H'	m			1.00								
バックホウ												
バケット容量 q	m3			0.2								
バックホウの1日当り掘削作業量 D	m3/日			59								
作業能力 Q=D/Tb	m3/hr			10.73								
運転日当り運転時間 Tb	hr			5.5								
トラッククレーン												
規 格	t			4.8~4.9								
2 建込み歩掛りの算定(10m当り)												
建込み時間 TA=H'×W×10/Q+BH運転時間	hr			2.683								
BH運転時間	hr			1.30								
3 引抜き歩掛り(10m当り)の算定												
引抜き時間 TB=TC運転時間	hr			0.140								
TC運転時間	hr			0.14								
4 日数の算定												
(1)工程別日進量												
掘削建込み工												
建込み時間より L1=10/(TA/Tb)	m/日			20.50								
砕石基礎工・砕石埋戻工(機械投入・d=0.206)												
1m当りの基礎砕石量 V1=(d+0.4)×W-d`2×π/4	m3/m			0.61								
タンバ転圧量より L2=(36m3/日)/V1	m/日			59.02								
管布設工												
作業人員より L3=(1m/0.020人)	m/日			50.00								
埋戻工(機械)												
1m当りの埋戻量 V2=W×(H-0.606-1.0)	m3/m			0.84								
タンバ転圧量より L4=(36m3/日)/V2	m/日			42.86								
引抜き工												
引抜き時間より L5=10/TB	m/日			71.43								
(2)30m当たりの所要日数												
建込み工 D1=30/L1	日			1.5								
砂基礎工 D2=30/L2	日			0.5								
管布設工 D3=30/L3	日			0.6								
埋戻工 D4=30/L4	日			0.7								
引抜き工 D5=30/L5	日			0.4								
(3)賃料日数												
30m当りの損料日数												
D=(D1/2+D2+D3/2+D4)×1.77	日			4.0								
日進量 ΔL=30/D	m/日			7.5								
施工延長 L01	m			42.70								42.70
(使用)締め切り面積=L01×H×2	m²			204.96								204.96
施工延長に対する賃料日数 D01=D/30×L01	日			5.7								5.7
(4)水替日数(常時排水)												
30m当りの水替日数												
D=(D1/2+D2+(D3+D4)/2)×1.77	日			3.4								
施工延長 L02	m			42.70								42.70
施工延長に対する水替日数 D02=D/30×L02	日			4.8								4.8
(5)水替日数(作業時排水)												
30m当りの水替日数												
D=D1/2+D2+(D3+D4)/2	日			1.9								
施工延長 L03	m			42.70								42.70
施工延長に対する水替日数 D03=D/30×L03	日			2.7								2.7
修理・損耗費補正=1/2(n+1) n=施工延長/30m		n=42.70/30m=1.0		補正=		1.0		修理費・損耗費		120.0		

2.数量計算書

(当初)

上段
下段
当初
変更

工事名：令和8年度(市単)市道豊科1級26号線管路延伸工事【豊科地区 PEP φ100】(補償分)

工事場所：安曇野市 豊科

安曇野市 上下水道部下水道課

Ver.8.00

数量集計表

工 種	種 別	規格・形状		計 算	数 量	
	路線延長	φ 100mm			39.5	m
	管渠延長(管布設工)	下水道用ポリエチレン管100mm			39.5	m
管布設工	ポリエチレン管	φ 100×5.0m		圧送管資材計算書より 4+3(切管)=7	7	本
	ポリエチレン曲管	φ 100mm	45°	〃	1	本
		φ 100mm	22 1/2°	〃	3	本
		φ 100mm	11 1/4°	〃	4	本
		φ 100mm	S字曲管 H=450	〃	2	本
		φ 100mm	カラー	〃	3	本
	ポリエチレン管+硬質塩化ビニル管	φ 100mm	PVジョイント	〃	2	個
	埋設標示シート (茶)	W=400mm			39.5	m
	埋設標示テープ (茶)	W=30mm			39.5	m
	(土工事)					
	掘 削 工	0. 28m3級 B. H			16	m ³
		0. 45m3級 B. H				m ³
		0. 8m3級 B. H				m ³
	砂基礎工	(機械投入) 0. 28m3級 B. H			2	m ³
		(機械投入) 0. 45m3級 B. H			5	m ³
		(機械投入) 0. 8m3級 B. H				m ³
		路盤材再利用(t=20cm)			-	m ³
	砂基礎購入量	洗い砂			8	m ³
	良質土埋戻工 (管上10cm～30cm)	0. 28m3級 B. H	良質発生土		2	m ³
		0. 45m3級 B. H	良質発生土			m ³
		0. 8m3級 B. H	良質発生土			m ³
埋 戻 工	0. 28m3級 B. H	発生土		7	m ³	
	0. 45m3級 B. H	発生土			m ³	
	0. 8m3級 B. H	発生土			m ³	
残土処分工	機械積込み 0. 28m3級 B. H			6	m ³	
	機械積込み 0. 45m3級 B. H				m ³	
	機械積込み 0. 8m3級 B. H				m ³	
(山 留 工)	平均掘削深					
	建込み簡易土留	H=1. 5型				m
		H=2. 0型				m
		H=2. 5型				m
		H=3. 0型				m
		H=3. 5型				m
	建込み簡易土留	H=4. 0型				m
		H=4. 5型				m
		H=5. 0型				m
	土留材運搬	搬入及び搬出				t

数量集計表

[illegible]

令和8年度(市単)市道豊科1級26号線管路延伸工事【豊科地区PEPφ100】(補償分)

数量總括表

上段：当初

下段：变更

管内径 100 mm 下水道用ホリエチレン管

[illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible]

令和8年度(市単)市道豊科1級26号線管路延伸工事【豊科地区PEPφ100】(補償分)

单独部 断面图

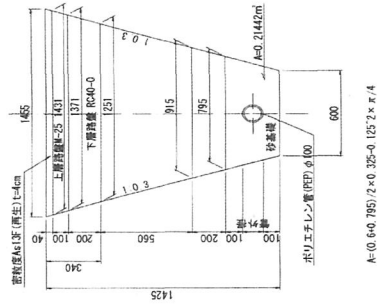
(書)調量數渠管

[illegible]

令和8年度(市単)市道豊科1級26号線管路延伸工事【豊科地区 PEPφ100】(補償分)

[illegible]

单独部 断面图



第 1-1 号数量表 (φ100)

圧送管資材費		数 量 計 算 書			当 初 変 更	
名 称	形状寸法	計 算 式	単位	数 量	備考	
下水道用ポリエチレン管	PE-SE	4 + 3(切管) = 7	本	7		
	φ 100mm					
下水道用45度曲管	PE-45S	1	個	1		
	φ 100mm					
下水道用22 1/2度曲管	PE-22S	3	個	3		
	φ 100mm					
下水道用11 1/4度曲管	PE-11S	4	個	4		
	φ 100mm					
下水道用S字曲管	PE-LBS	2	個	2		
	φ 100mm H450					
下水道用カラー	PE-D	3	個	3		
	φ 100mm					
メカ型PVジョイント φ 100	水道配水用ポリエチレン管用	2	個	2		
埋設シート(市道:配水管用)	青地白文字 2倍折込	39.5	m	39.5		
	W=150mm					
管明示テープ(配水管用)	青地白文字(配水ホリ、塩ビ管用)	39.5	m	39.5		
	W=30mm					

第 1-2 号数量表 (φ100)

圧送管労務費		数 量 計 算 書			当 初 変 更
名 称	形状寸法	計 算 式	単位	数 量	コード
ポリエチレン管据付・撤去 工	φ100据付工	39.5	m	39.5	
ポリエチレン管融着(EF) 継手工	φ100 1口継手	4 (直管) + 3 (切管) + 1 + 3 + 4 + 2 (ベント) = 17	箇所	17	
ポリエチレン管融着(EF) 継手工	φ100 2口継手	3 (カラー) = 3	箇所	3	
ポリエチレン管(メカニカ ル)継手工	φ100	2*2 (PVジョイント) = 4	口	4	
ポリエチレン管切断工	φ100	7(圧送管切管表より)	口	7	
管明示テープ工(手間の み)	φ100	39.5	m	39.5	
管明示シート工(手間の み)		39.5	m	39.5	

3.数量計算書

(当初)

上段
下段
当初
変更

工事名：令和8年度(市単)市道豊科1級26号線管路延伸工事【豊科地区 Vuφ200】管撤去工(補償分)

工事場所：安曇野市 豊科

安曇野市 上下水道部下水道課

(工事名) 令和8年度(市単)市道豊科1級26号線管路延伸工事【豊科地区 Vuφ200】管撤去工(補償分)

Ver.8.00

数量集計表

工 種	種 別	規格・形状	計 算	数 量	
	路線延長	φ 200mm		36.2	m
	管渠延長	下水道用硬質塩化ビニル管200mm		34.4	m
管撤去工	硬質塩化ビニル管	φ 200×4.0m		8.6	本
	可とう継手撤去	φ 200mm		3	個
					個
	管撤去工	φ 200×4.0m		34.4	m
	運搬・処分工	廃プラスチック	27.4kg/本*8.6本/1000	0.24	t
					m
	(土 工 事)				
	掘 削 工	O. 28m3級 B. H		69	m ³
		O. 45m3級 B. H			m ³
		O. 8m3級 B. H			m ³
	碎石基礎工	(機械投入) O. 28m3級 B. H			m ³
		(機械投入) O. 45m3級 B. H			m ³
		(機械投入) O. 8m3級 B. H			m ³
		路盤材再利用(t≦20cm)		-	m ³
	碎石基礎購入量	再生クラッシャーラン(RC40)			m ³
	良質土埋戻工 (管上10cm～30cm)	良質発生土			m ³
		O. 28m3級 B. H			m ³
		O. 45m3級 B. H			m ³
		O. 8m3級 B. H			m ³
	埋 戻 工	発生土		69	m ³
		O. 28m3級 B. H			m ³
		O. 45m3級 B. H			m ³
		O. 8m3級 B. H			m ³
	残土処分工	機械積込み	他工種残土流用	-7	m ³
		O. 28m3級 B. H			m ³
		O. 45m3級 B. H			m ³
		O. 8m3級 B. H			m ³
	(山 留 工)	平均掘削深	2.02m	36.2	m
	建込み簡易土留	H=1.5型			m
		H=2.0型	平均H=1.94	25.5	m
		H=2.5型	平均H=2.20	10.7	m
		H=3.0型			m
		H=3.5型			m
					m
	建込み簡易土留	H=4.0型			m
		H=4.5型			m
		H=5.0型			m
	建込み簡易土留	H=5.5型			m
		H=6.0型			m
	土留材運搬	搬入及び搬出		14.6	t

数量集計表

工 種	種 別	規格・形状		計 算	数 量	
マンホール撤去工	(1号組立マンホール)					
	マンホール鉄蓋	不法投棄防止、除雪対応型 T-14			2	組
		不法投棄防止、除雪対応型 T-25				組
	転落防止梯子(SUS)	仕様書による			2	個
	マンホール底板	外径1100×130			2	個
	底部工	砕石基礎 RC40-0	T=20cm	0.95㎡/箇所	1	㎡
		インバート工 18-8-40BB+モルタル(1:3)仕上げ			2	箇所
						箇所
						箇所
	躯体ブロック	H=600				個
		H=900				個
		H=1200				個
		H=1500			1	個
		H=1800			1	個
	直壁ブロック	H=300				個
		H=600				個
		H=900				個
		H=1200				個
		H=1500				個
		H=1800				個
	斜壁ブロック	H=300			2	個
		H=450				個
		H=600				個
	調整リング	t=5				個
		t=10			3	個
		t=15				個
		t=20				個
	削 孔	150mm (副管部)				箇所
		200mm (本管部)				箇所
		150mm 取付管部				箇所
						箇所
	運搬・処分工	1号人孔撤去計算書より	無筋		0.18	㎡
		〃	鉄筋		1.24	㎡
		〃	鉄蓋・受枠・梯子スクラップ		0.17	t
	(副管設置工)	200×150				箇所
	直管	150mm 1箇所当				m
	支管	200×150				本
	カラー管	150mm				本
	曲管	150mm				本
	コンクリート	18-8-25(BB) 1箇所当				3 m
	型枠	1箇所当				2 m

令和8年度(市単)市道豊科1級26号線管路延伸工事【豊科地区 Vuφ200】管撤去工(補償分)

内径 200 mm 下水道用硬質塩化ビニル管

令和8年度(市単)市道豊科1級26号線管路延伸工事【豊科地区 Vuφ200】管撤去工(補償分)

[illegible]

建込み簡易土留め関係算定表

(工事名) 令和8年度(市単)市道豊科1級26号線管路延伸工事【豊科地区 Vuφ200】管撤去工(補) 当初

[illegible]

1号人孔撤去工

項 目	算 定 式	数 量
1.人孔撤去箇所	N= = 2	2 箇所
2.コンクリート壊し工 (無筋) ※二次製品含む	底張(インハート) $V = \frac{0.9^2 \times \pi / 4 \times 0.27 + 0.5^2 \times \pi / 4 \times 0.13 - 0.2^2 \times \pi / 4 \times 0.9 \times 1/2}{m^3} = 0.183$ 壊し日数 $\frac{0.183}{m^3 / 日} \div 19 = 0.010$ 0.01 日 調整リング(厚100*3=300mmとする) $V = \frac{59 \times 3}{kg/m^3 \div 2400} = 0.074$ 斜壁300(220kg/個)※二次製品 $V = \frac{220}{kg/m^3 \div 2400} \times 2 = 0.183$ 直壁1500,1800(842+1010kg/個)※二次製品 $V = \frac{1852}{kg/m^3 \div 2400} \times 1 = 0.772$ 底版(249kg/個)※二次製品 $V = \frac{249}{kg/m^3 \div 2400} \times 2 = 0.208$ 壊し日数 $\frac{1.237}{m^3 / 日} \div 11 = 0.112$ 合計 = 1.237	1.237 m3 0.11 日
3.運搬・処分工 (無筋)	V= 0.183 + 0.000 + 0.000 = 0.183	0.183 m3
4.運搬・処分工 (二次製品)	V= 0.074 + 0.183 + 0.772 + 0.208 = 1.237	1.237 m3
5.スクラップ	人孔蓋・受枠撤去(ロック付転落防止用梯子) N= = 2 2 箇所 kg/個 (日之出水道機器(株)より) $W = \left(\frac{44.000}{人孔蓋} \times 2 + \frac{42.800}{受枠} \times 2 \right) / 1000 = 0.174$	0.174 t

4.数量計算書

(当初)

上段 当初
下段 変更

工事名： 令和8年度(市単)市道豊科1級26号線管路延伸工事【豊科地区 HIVP φ100】管撤去工(補償分)

工事場所： 安曇野市 豊科

安曇野市 上下水道部下水道課

数量集計表

工 種	種 別	規格・形状		計 算	数 量	
	撤去路線延長	φ100mm			33.3	m
	撤去管渠延長	水道用耐衝撃性硬質ポリ塩化ビニル管100mm			33.3	m
管撤去工	硬質塩化ビニル管	φ100×5.0m			6.6	本
	撤去	φ100×5.0m		17.7kg/本*6.6本/1000=	0.12	t
	運搬・処理	廃プラスチック			0.12	t
	管撤去工				33.3	m
	埋設標示シート (茶)	W=400mm				m
	埋設標示テープ (茶)	W=30mm				m
	(土 工 事)					
	掘 削 工	0.28m3級 B. H			38	m ³
		0.45m3級 B. H				m ³
		0.8m3級 B. H				m ³
	碎石基礎工	(機械投入)				m ³
		0.28m3級 B. H				m ³
		(機械投入)				m ³
		0.45m3級 B. H				m ³
		(機械投入)				m ³
		0.8m3級 B. H				m ³
		路盤材再利用(t=20cm)			-	m ³
	碎石基礎購入量	再生クラッシャーラン(RC40)				m ³
	良質土埋戻工 (管上10cm～30cm)		良質発生土			m ³
		0.28m3級 B. H	良質発生土			m ³
		0.45m3級 B. H	良質発生土			m ³
		0.8m3級 B. H	良質発生土			m ³
	埋 戻 工		発生土		38	m ³
		0.28m3級 B. H	発生土			m ³
		0.45m3級 B. H	発生土			m ³
		0.8m3級 B. H	発生土			m ³
	残土処分工	機械積込み		他工種残土流用	-4	m ³
		0.28m3級 B. H				m ³
		機械積込み				m ³
		0.45m3級 B. H				m ³
		機械積込み				m ³
		0.8m3級 B. H				m ³
(山 留 工)		平均掘削深				m
	建込み簡易土留	H=1.5型				m
		H=2.0型				m
		H=2.5型				m
		H=3.0型				m
		H=3.5型				m
	建込み簡易土留	H=4.0型				m
		H=4.5型				m
		H=5.0型				m
	建込み簡易土留	H=5.5型				m
		H=6.0型				m
	土留材運搬	搬入及び搬出				t

令和8年度(市単)市道豊科1級26号線管路延伸工事【豊科地区 HIVPφ100】管撤去工(補償分)

数量總括表

上段：当初

内径 100 mm 水道用耐衝撃性硬質ポリ塩化ビニル管 下段：變更

[illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible]

(土工数量調書)

令和8年度(市単)市道豊科1級26号線管路延伸工事【豊科地区HIVPφ100】管撤去工(補償分)

[illegible]

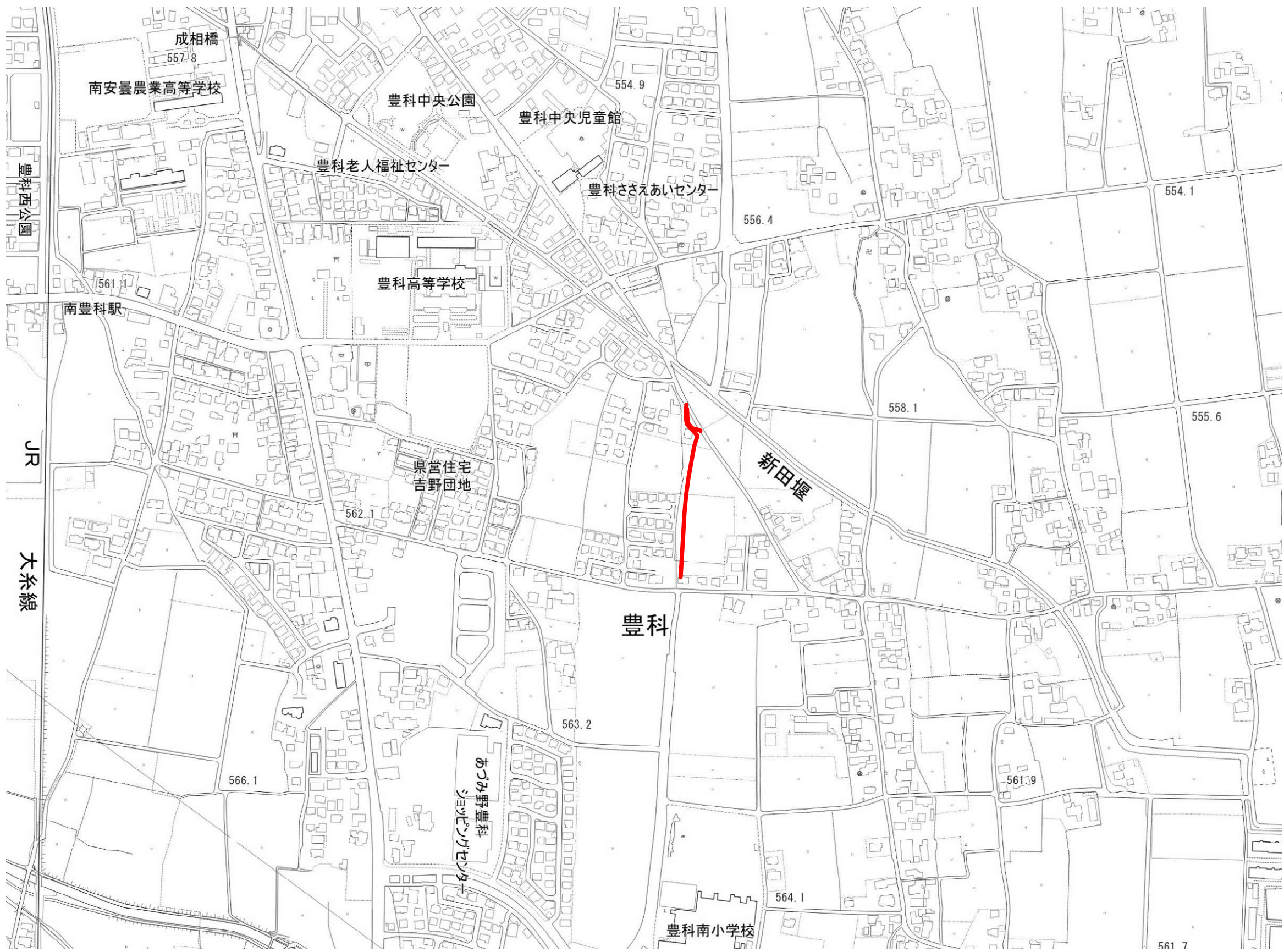
令和8年度(市単)市道豊科1級26号線管路延伸工事【豊科地区HVPφ100】管撤去工(補償分)

[illegible]

令和8年度(市単)(市道)豊科1級26号線道路延伸工事【豊科地区HIVPφ100】管撤去工(埋置費)

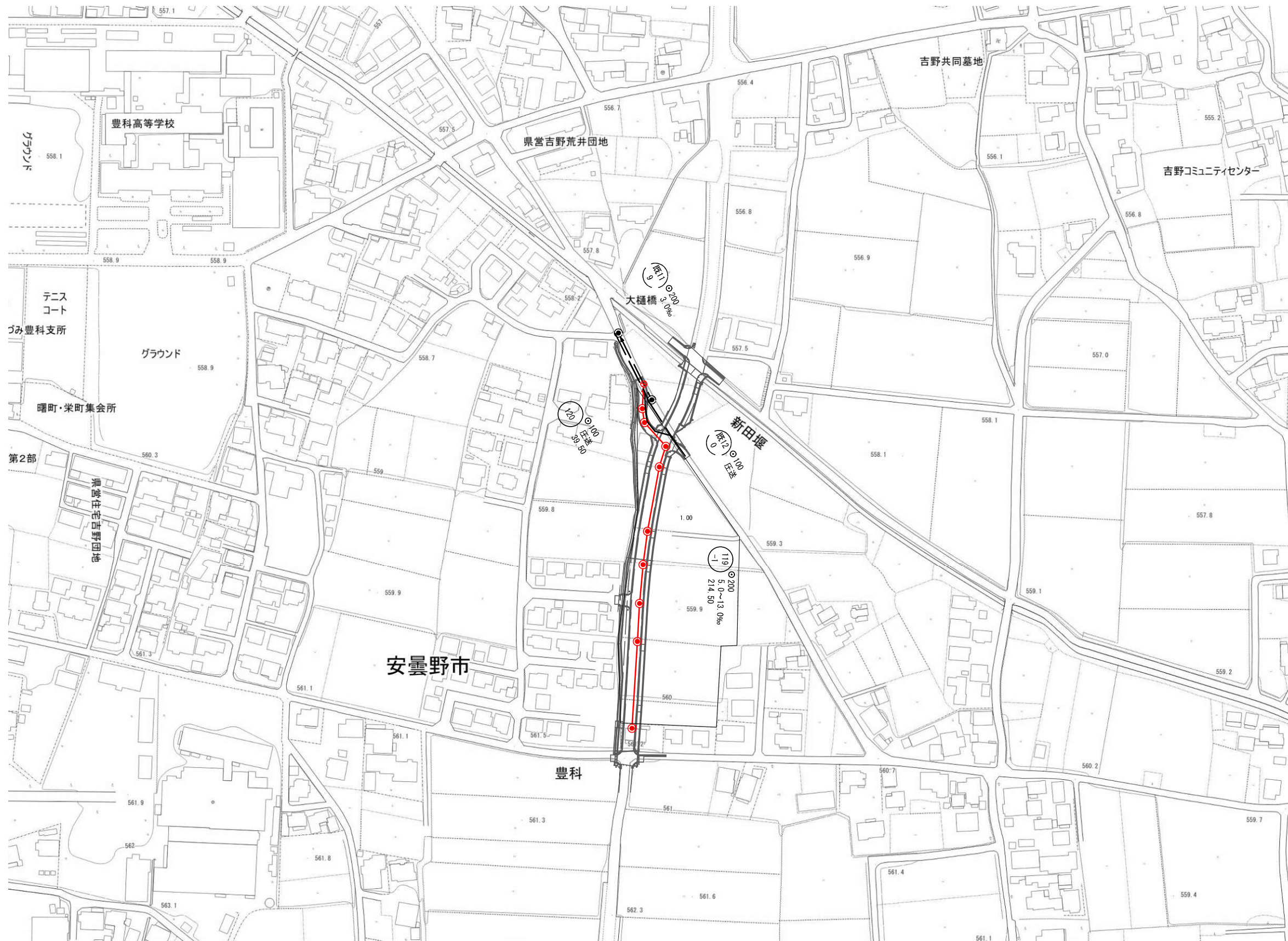
[illegible]

位置図 S=1/2500



実 施 図					
令和 8 年度	市道豊科1線26号線管線延伸ほか工事				
番号	1 / 10	位置図	縮尺	図示(A1)	
市道豊科1線26号線ほか					
安曇野市 豊科					
部長	課長	係長	担当		
設計会社					
測量会社					
調査会社					
安曇野市 上下水道部 下水道課					
令和7年度(市単) 市道豊科1線26号線管線延伸ほか実施設計業務委託					

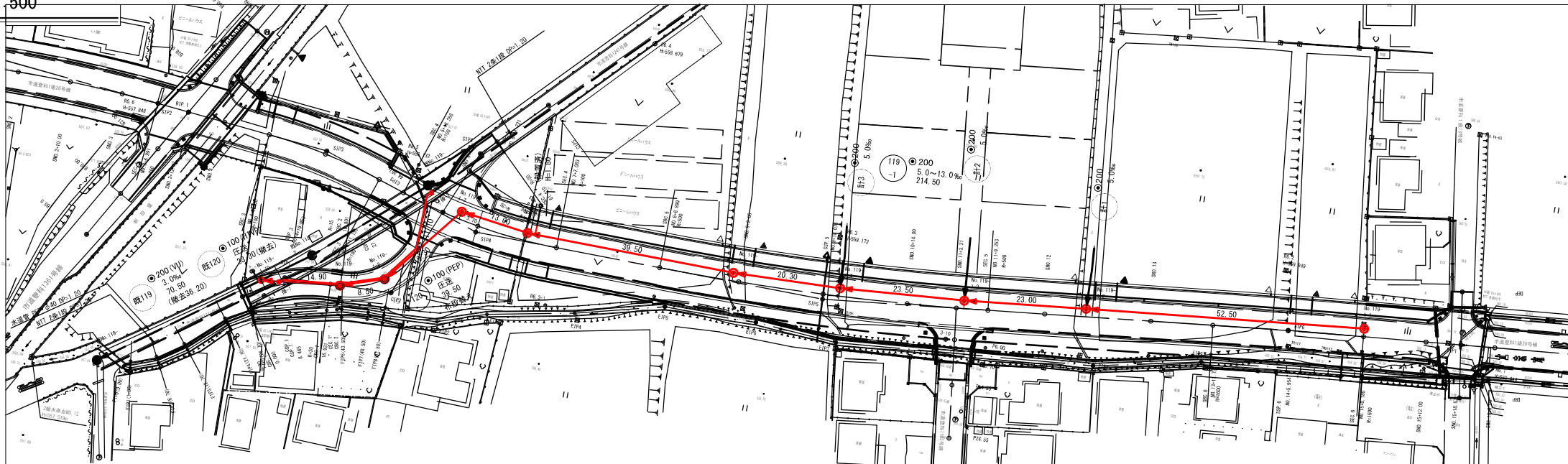
系 統 図 S=1/1250



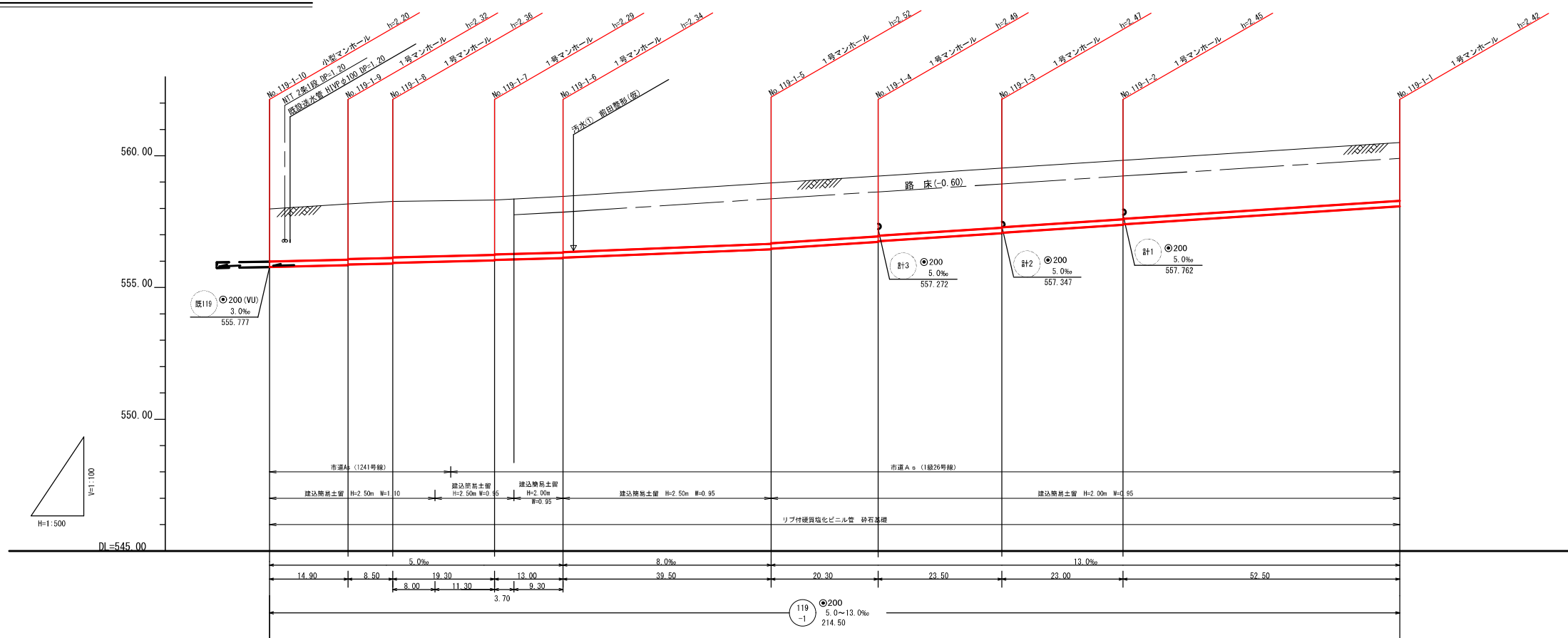
実 施 図

令和 8 年度	市道豊科1級26号線管路延伸ほか工事			
番号	2 / 10	系 統 図	縮尺	図 示 (A1)
市道豊科1級26号線ほか				
安曇野市 豊科				
部長	課長	係長	担当	
設計会社				
測量会社				
調査会社				
安曇野市 上下水道部 下水道課				

平面図 S=1:500



縦断面図 縦 1:100 縮尺 横 1:500



地盤高	557.98	558.17	558.27	558.29	558.32	558.36	558.46	558.97	559.23	559.53	559.83	560.50
土被	2.00	2.12 2.10	2.15 2.13		2.09 2.07	2.39 2.37	2.14 2.12	2.31 2.29	2.29 2.27	2.26 2.24	2.25 2.23	2.21
管底高	555.777	555.852 555.872	555.915 555.935	555.975	556.032 556.052	556.071	556.117 556.137	556.453 556.473	556.737 556.757	557.063 557.083	557.382 557.402	558.085
掘削深	2.31	2.42 2.40	2.46 2.44	2.42	2.39 2.37	2.39 (1.79)	(1.85) 2.45 2.43 (1.83)	(2.02) 2.62 2.60 (2.00)	(2.00) 2.60 2.58 (1.98)	(1.97) 2.57 2.55 (1.95)	(1.95) 2.55 2.53 (1.93)	(1.92) 2.52
掘削距離	214.50	199.60	191.10	183.10	171.80	168.10	158.80	119.30	99.00	75.50	52.50	0.00
測点	C&C 1 +4.45	C&C 2 -0.054	C1P2	C&C 2	S&C 6 +8.38	S1P4	S&C 7 +1.38	S&C 9 +0.88	S&C 10 +1.18	S&C 11 +4.68	S&C 12 +7.68	S&C 6

基準点座標一覧表		
点名	X座標	Y座標
BM 1	32790.540	-52826.154
BM 2	32728.460	-52805.922
BM 3	32712.611	-52799.330
BM 4	32647.469	-52782.888
BM 5	32591.589	-52766.717
BM 6	32444.132	-52777.355
BM 5-1	32599.718	-52811.987
BM 5-1	32421.964	-52819.214
No.119-1-1	32712.567	-52819.544
No.119-1-2	32596.389	-52812.708
No.119-1-3	32589.237	-52811.248
No.119-1-4	32512.621	-52808.813
No.119-1-5	32522.713	-52806.814
No.119-1-6	32571.494	-52798.515
No.119-1-7	32583.888	-52794.600
No.119-1-8	32598.387	-52802.276
No.119-1-9	32448.403	-52808.477
No.119-1-10	32421.450	-52807.458
既 No.119-1	32590.228	-52789.544
既 No.119-2	32412.657	-52802.719
既 No.119-3	32422.944	-52822.434
既 No.119-4	32415.331	-52807.734
既 No.119-5	32599.582	-52790.937

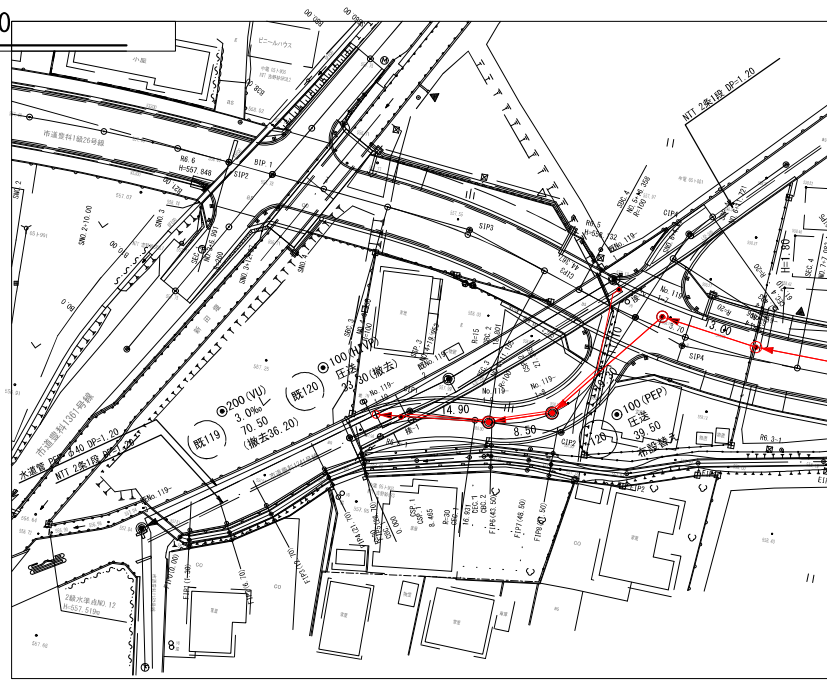
出典：国土院（2011年）

実 施 図

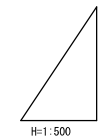
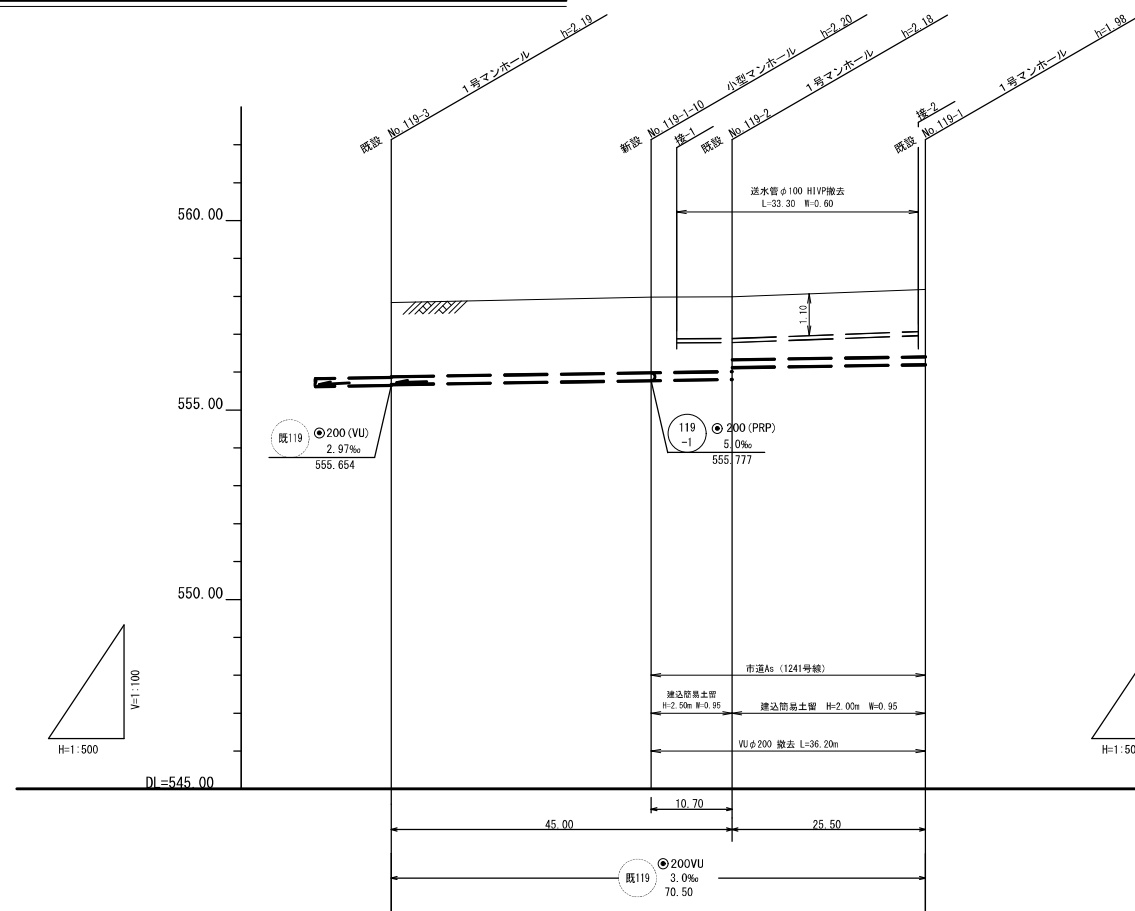
令和 8 年度 市道豊科1線26号線管線延伸ほか工事			
番号	3 / 10	平面・縦断面図	縮尺 図 示 (A1)
市道豊科1線26号線ほか			
安曇野市 豊科			
部長	課長	係長	担当
設計会社			
測量会社			
調査会社			
安曇野市 上下水道部 下水道課			

令和7年度（市単）市道豊科1線26号線管線延伸ほか実施設計業務委託

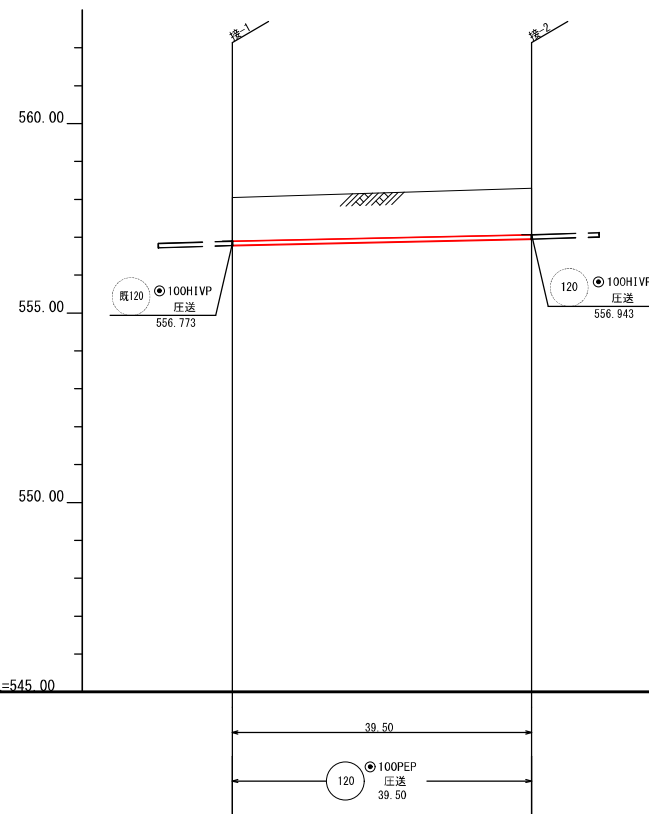
平面图 S=1:500



既設管撤去縦断面図 縮尺 縦 1 : 100
横 1 : 500



新設縦断面図 縮尺 縦 1 : 100
横 1 : 500



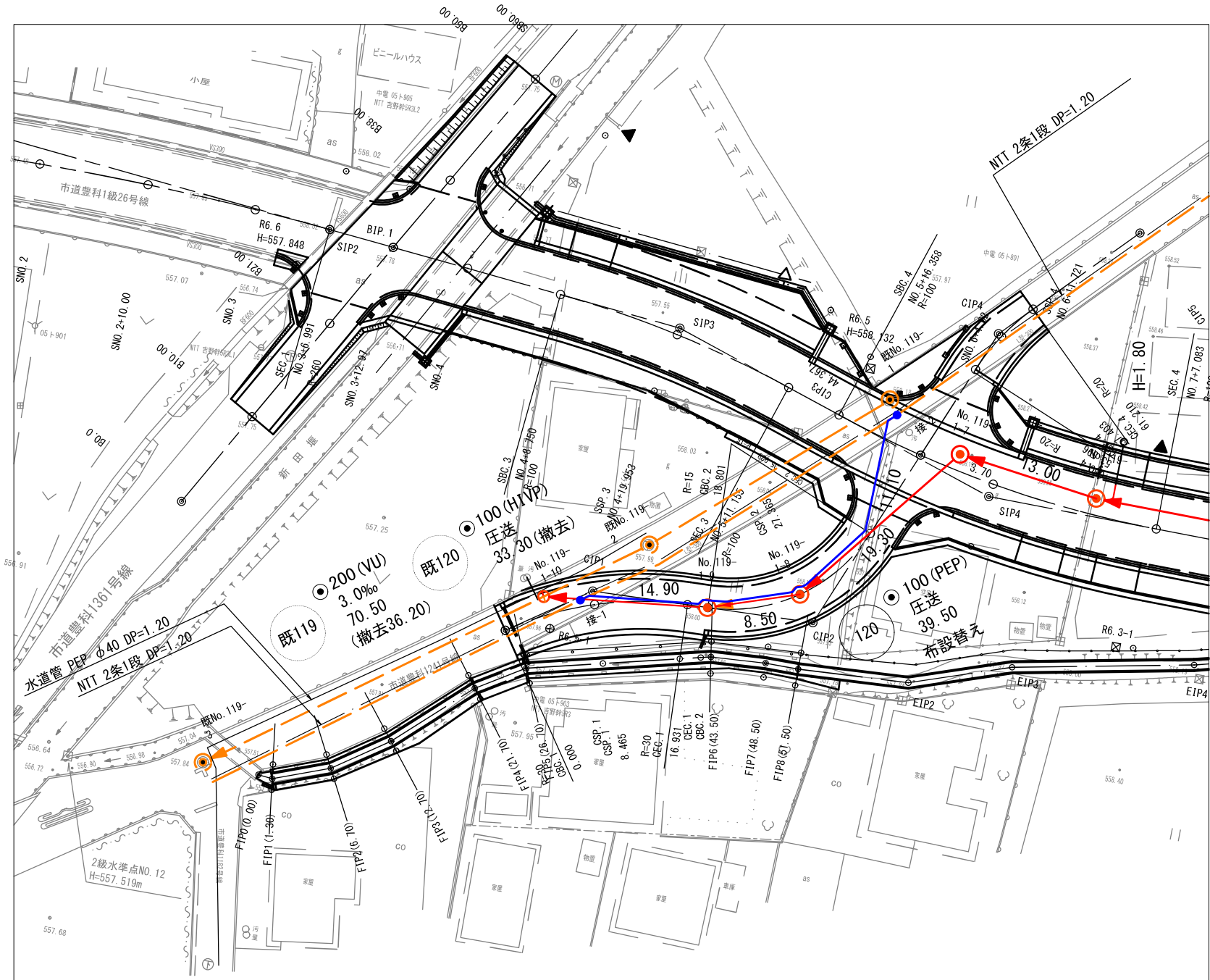
通 知	施 加 罰 鍰	罰 鍰 深 度	管 底 罰	上 被	地 點 高
OS0.1 -4.45	70.50	2.31	555.674	1.96	557.84
OS0.1 -4.45	36.20	2.21	555.777	2.00	557.98
OS02 -0.054	25.50	2.19 1.88	555.809 556.122	1.97 1.86	557.99
C1P2	0.00	1.99	556.198	1.78	558.18
OS0.1 -4.45	0.00	1.37	556.773	1.15 (1.00)	558.03 (557.96)
OS0.1 -4.45	39.50	1.44	556.943	1.22 (1.13)	558.27 (558.18)

() 内は現況

实施图

令和 8 年度	市道豊料1線26号線宮路延伸ほか工事				
番号	4 / 10	平面・縦断面図(概去)	縮尺	図 示 (A1)	
市道豊料1線26号線ほか					
安曇野市 豊料					
部長		課長		係長	担当
設計会社					
測量会社					
調査会社					
安曇野市 上下水道部 下水道課					

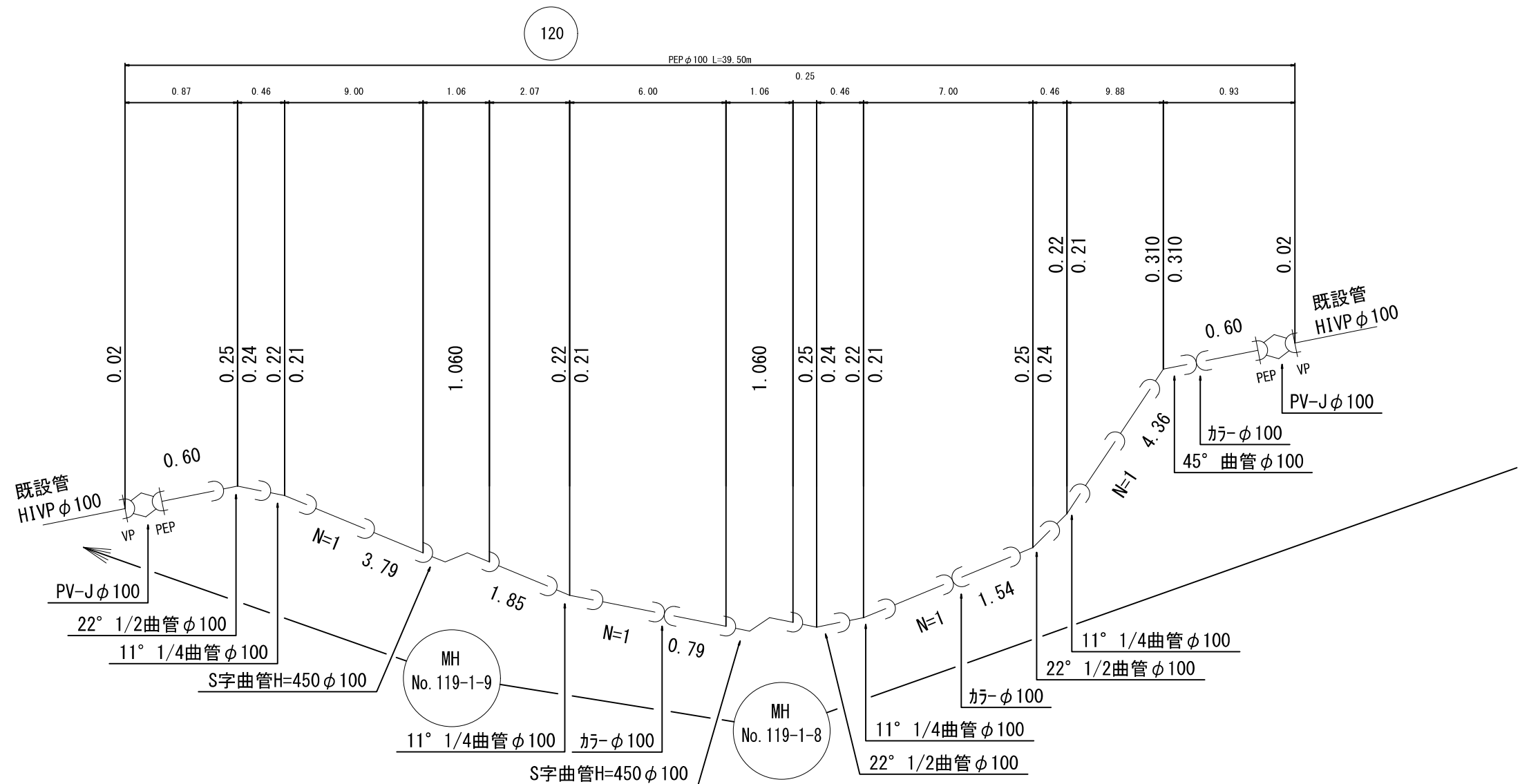
令和7年度（市単）市道豊科1級26号線管路延伸ほか実施設計業務委託



実 施 図

令和 8 年度	市道豊科1級26号線延伸申請工事				工事
番号	5 / 10	平面図(縮小)	縮尺	図 示(A1)	
市道豊科1級26号線維持					
安曇野市 豊科					
部長		課長		係長	担当
設計会社					
測量会社					
調査会社					
安曇野市 上下水道部 下水道課					

配管詳細図

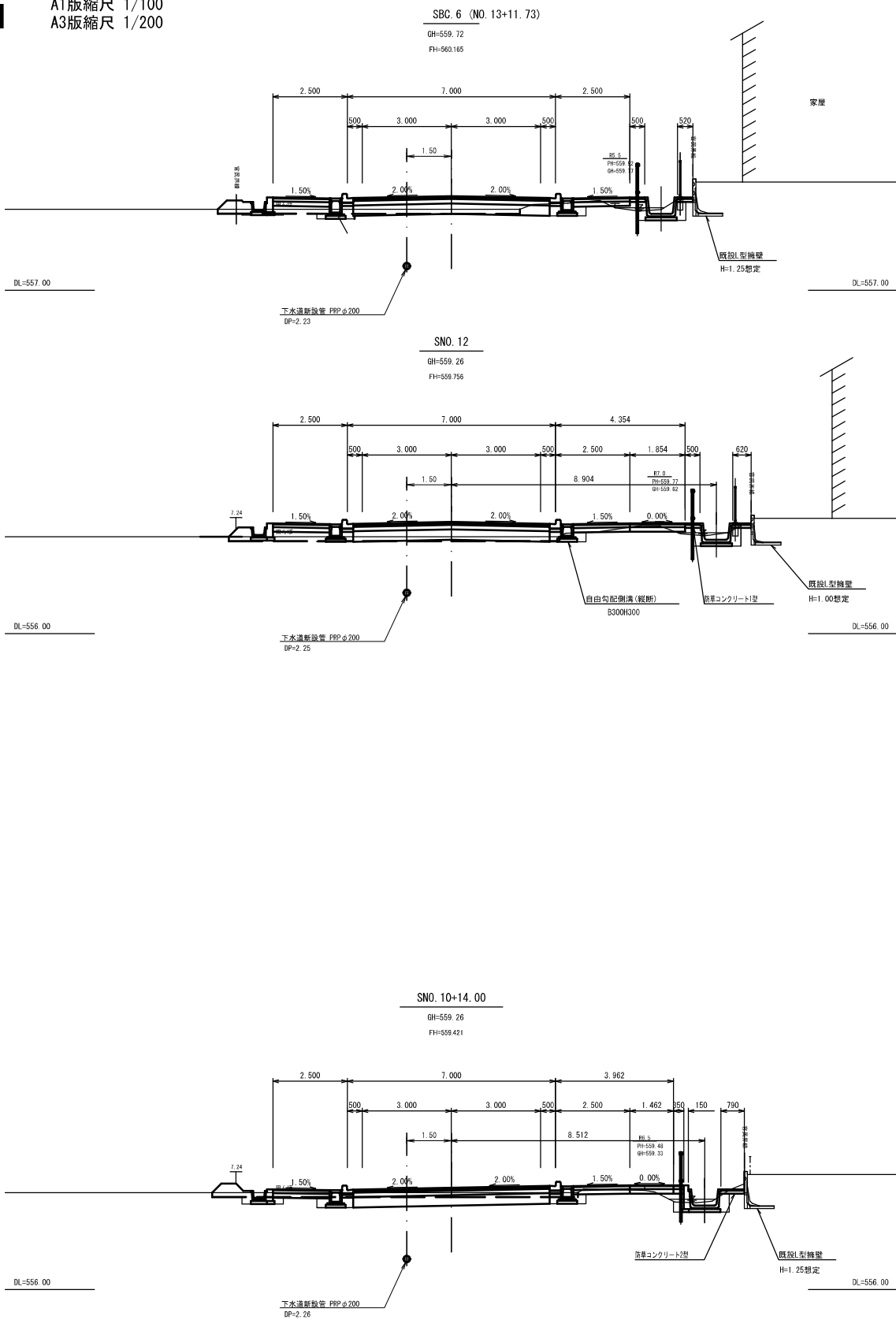
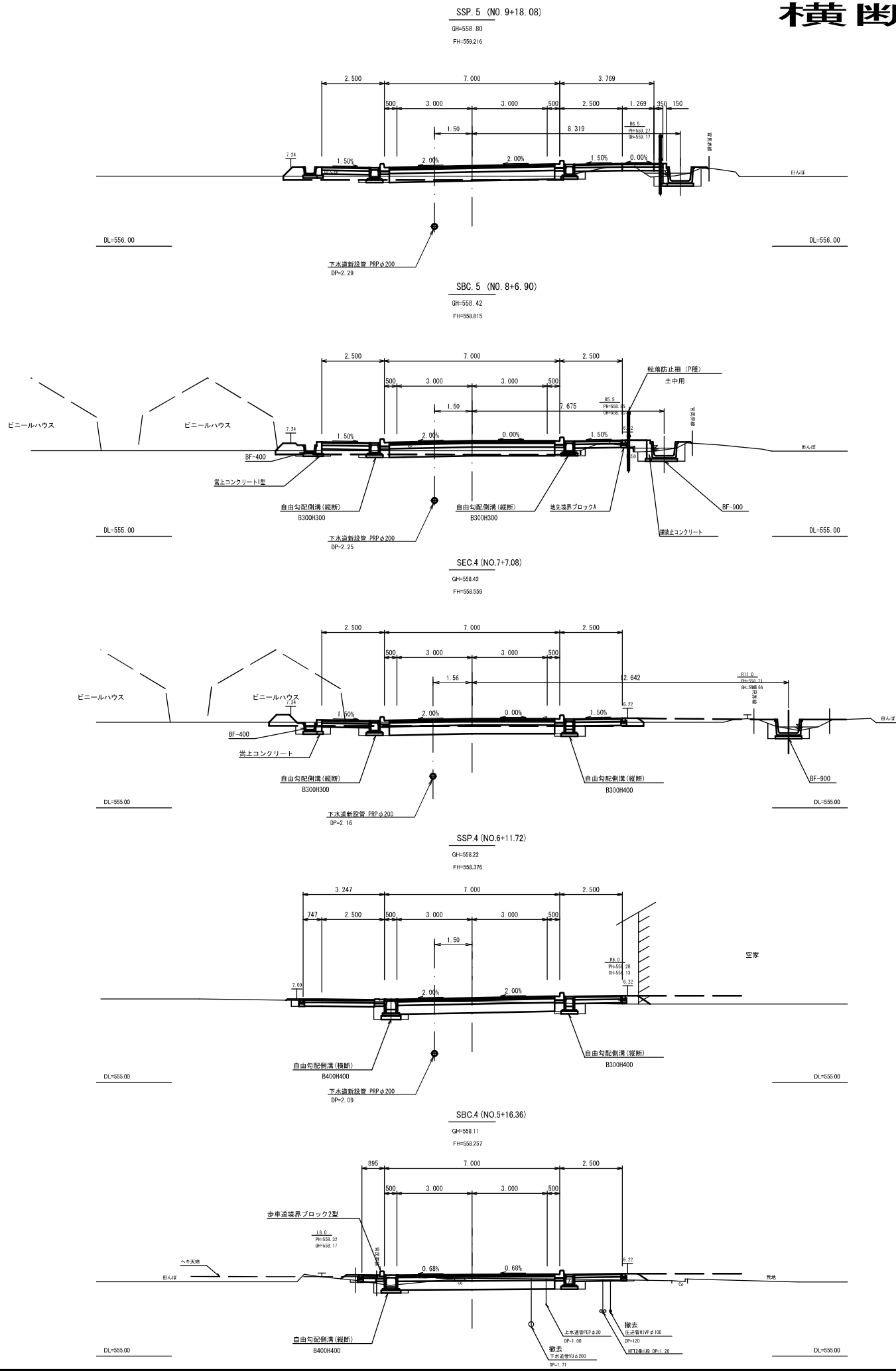


实施图

令和	8 年度	市道豊科1級26号線管路延伸ほか工事			
番号	6 / 10	配管詳細図	咫尺	図 示 (A1)	
市道豊科1級26号線ほか					
安曇野市 豊科					
部長		課長		係長	担当
設計会社					
測量会社					
調査会社					
安曇野市 上下水道部 下水道課					

横断面図1

A1版縮尺 1/100
A3版縮尺 1/200



実施図

令和 8 年度	市道豊科1線26号線管路延伸ほか工事
番号 7 / 10	横断面図1
縮尺	図 示 (A1)
市道豊科1線26号線ほか	
安曇野市 豊科	
部長	課長
設計会社	係長
測量会社	担当
調査会社	
安曇野市 上下水道部 下水道課	

令和7年度(市単) 市道豊科1線26号線管路延伸ほか実施設計業務委託

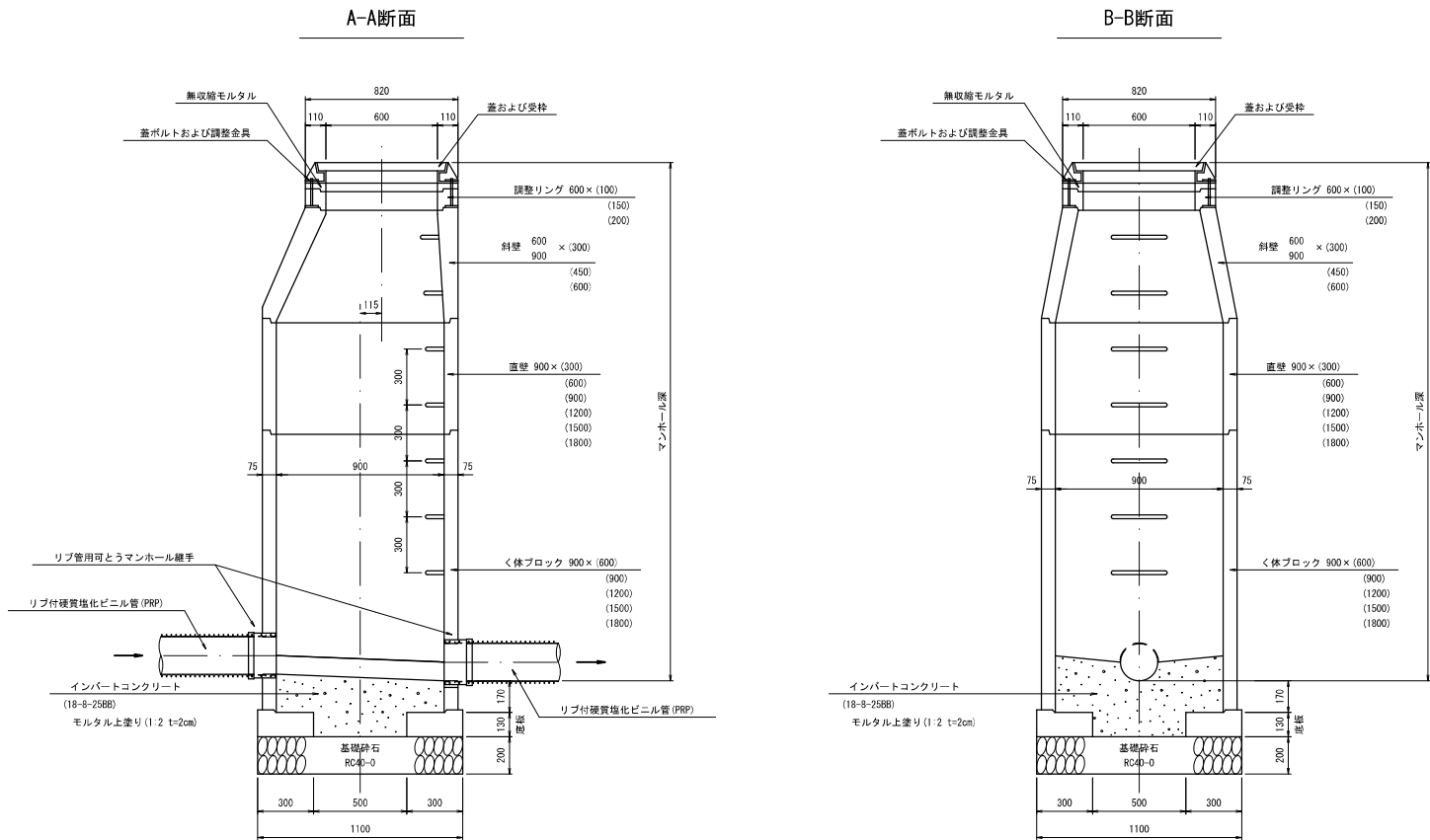
A1版縮尺 1/100
A3版縮尺 1/200



令和7年度（市単） 市道豊科1級26号線管路延伸ほか実施設計業務委託

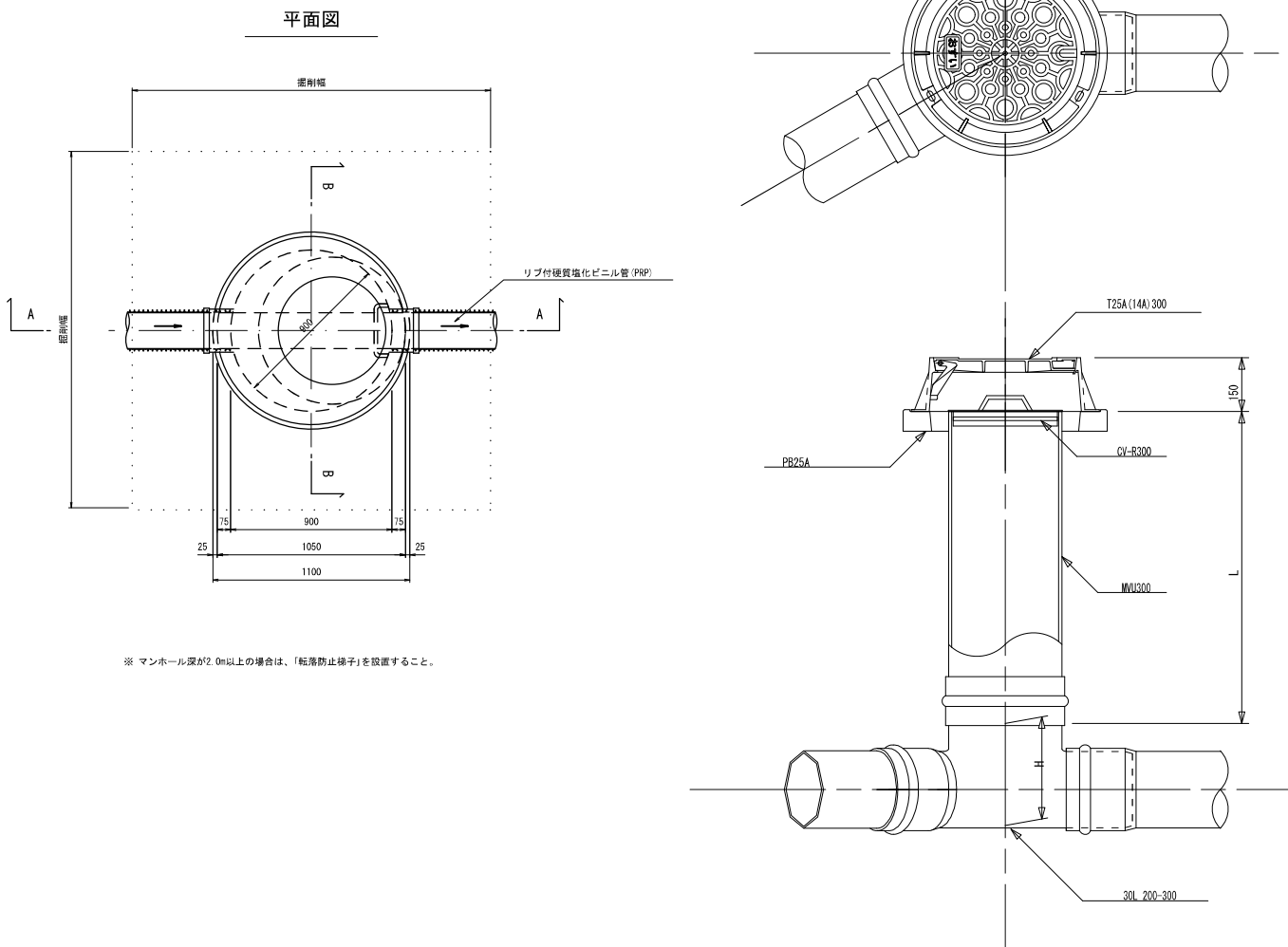
1号組立マンホール標準図

縮尺 1/20



小型マンホール標準図

縮尺 1/10



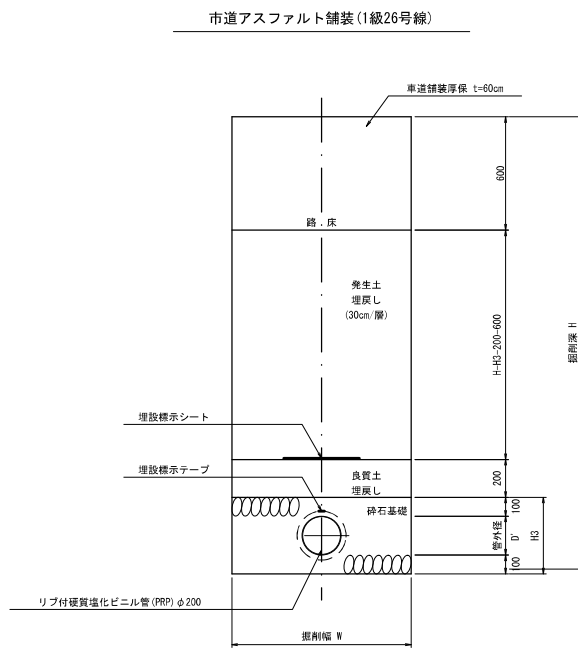
※ マンホール深が2.0m以上の場合は、「転落防止梯子」を設置すること。

実施図

令和 6 年度	市道豊科1級26号線管線延伸ほか工事		
番号 9 / 10	マンホール標準図	縮尺	図 示 (A1)
市道豊科1級26号線ほか			
安曇野市 穂高 北穂高			
部長	課長	係長	担当
設計会社			
測量会社			
調査会社			
安曇野市 上下水道部 下水道課			

令和7年度(市単) 市道豊科1級26号線管線延伸ほか実施設計業務委託

縮尺 1/20 (A1)



縮尺 1/20 (A1)

